724
175

0000937000

0000937-000

724－175

風雲世界の展望

軍事出版社編輯部・編

軍事出版社

昭１２

AAB

.300

海軍大將
軍事參議官
加藤寛治閣下序

元拓務大臣
永井柳太郎閣下序

風雲世界の展望

東京　軍事出版社刊

昭和十二年六月印刷
帝國文書

危局世界に躍る人々 (1)

（上圖）日獨協定調印式の歴史的光景
毛筆にて日本文に署名するは我代表武者小路獨大使その右獨代表リッベントロップ駐英大使以下

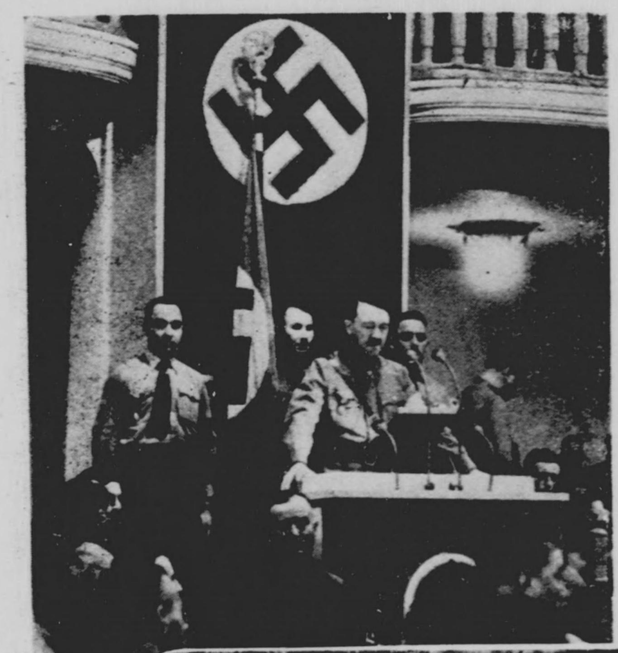
（下圖）新憲法を採擇したる第八回全聯邦ソヴエート臨時大會
寫眞は前後二時間に亘つて新憲法案報告演說をするスタ―リン書記長

危局世界に躍る人々 (2)

（上圖）囚はれの蔣介石氏
昨年十月蔣介石が西安に赴いた際楊虎城邸宅に於ける記念撮影向つて右より蔣介石、楊虎城、張學良

（下圖）生還せる蔣介石氏
昨年十二月廿六日南京光華門外の飛行場に降りた蔣介石氏夫妻、林森主席に挨拶

危局世界に躍る人々（3）

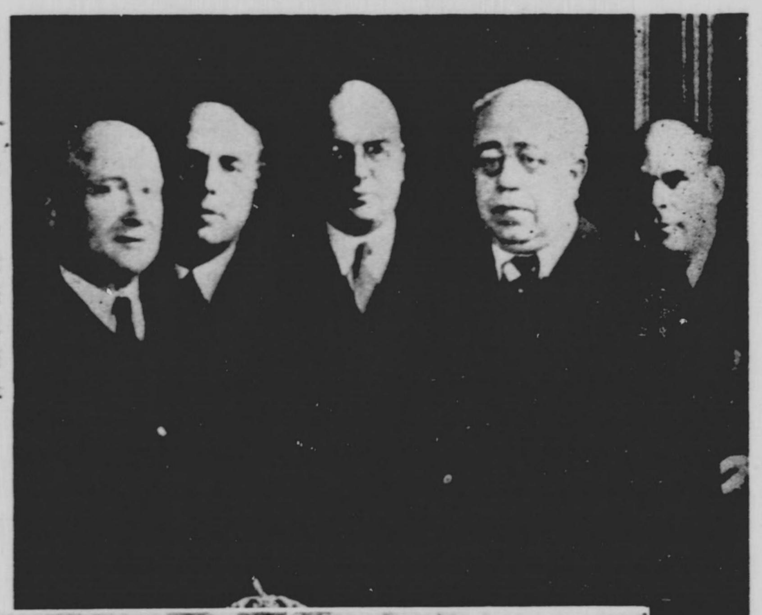


（上圖）吼へるナチス獨裁王ヒツトラー
舊黨事務所にて演說中のヒツトラー氏

（下圖）獅子吼するムツソリーニ首相

昨年十一月二日ミラノに集つた數千萬の民衆を前に【眞の平和は軍備の擴張にあり國際聯盟平和の使徒たるに足らず】と喝破するムツソリーニ伊太利首相

危局世界に躍る人々(4)



(上圖) スペイン政府軍首脳
革命軍の首都マドリード進撃に依つてヴアレンシア市に政府を移したアザナ首相(中央)外各大臣

(下圖) 革命軍の首脳
悽滄たる市中を視察中の革命軍司令フランコ將軍

危局世界に躍る人々 (5)

(上圖) 英國新皇帝陛下御即位

十二月十二日ロンドンに於て擧げさせられた寫眞は聖ジェームス宮殿に於ける御即位式に臨御の新帝ジョージ六世陛下

(下圖) 佛國フラン貨切下斷行 歐洲の金王座崩る

下院に於てフラン貨切下げ提案理由を説明するレオンブルーム首相　議長席はエリオ前首相

724
175

來る可き世界危局に備へよ

海軍大將　加藤寛治

スペイン動亂を繞る左右抗爭の激化、日獨の握手、隣邦支那の抗日絶叫等々四顧穩かならぬ風雲の中に一九三七年は明けた。而かも軍縮條約の繫縛から解放された無條約の第一年である。そこには當然何らか豫想せらるゝものがある。從つて國民たる者本年こそは斷じて晏如として居ることは許されない。即ち「治に居て亂を忘れず」の心掛を以て、一朝有事に備へ得る覺悟で待機すべきだ。

折も折、本年の重大なる國際的宿題を幾多提げて「風雲世界の展望」が上梓された事は、極めて意義あることゝ思ふ。即ち本書によつて國際情勢に對する認識を深め、來るべき世界危局に處する大國民たる覺悟を養ひおく事は、我々九千萬同胞當然の義務と信ずるが故である。

國際的知識を深めよ

元拓務大臣　永井柳太郎

僅々七十年で躍進的發展を遂げた今日の我國は、最早昔日の如く、日本の日本でなく、世界の日本、即ち國際日本であるから、一秒時たりとも國際的情勢に對し、無關心である事は到底許されぬ。

即ち一波が萬波を生む今日の國際關係に在つては、國際的動靜を知る事は、取も直さず我國將來の運命を卜知する事になるのである。

然るに我國民は爾來、兎角國際情勢に對し無關心であり、之を對岸の火災視するが如き傾向のあつた事は誠に遺憾に堪えぬ。況んや、本年は無條約第一年に當り、而も未曾有の世界的危局に瀕してゐるのである。この秋に際し國民の國際認識促進の爲に本書「風雲世界の展望」の刊行せられた事は、眞に時宜に叶つた企てとして滿腔の贊意を表せざるを得ない。

序

僅々七十年の短過程を以て異常なる一大飛躍を遂げた今日の躍進日本は、最早昔日の日本の日本ではなく、世界の日本なのである。この國際日本をして、更に大ならしめるには、廣く全世界の國際的情勢に目を瞠つて、その動きに對して深き關心を有さなくてはならぬ。即ち國際的の一波一動は直ちに以て我國に重大なる影響をもたらすのであるから、國際的の動靜を知る事は、取も直さず我國の運命を卜知する事となるのである。然るに永年の鎖國主義に累されて兎角我國民は、國際的現象に對する認識を疎にして、之を對岸の火災視するの弊あるは、眞に遺憾に堪へない。これを以て何で躍進日本の進歩的文化國民と稱し得よう！

世界が極度に縮小して凡ゆる知識が國際化した今日では、吾人は社會的にも個人的にも一日として國際的知識を缺く事は出來ないのである。而も今日の國際的諸現象たるや、その裏面に複雜極る動因を胚胎せるものなれば、表面のみを一瞥した丈では容易にその眞相を捕捉する事は困難なるである。

茲に於て深く時局に鑑みる所あり、現下の混沌たる國際關係を一目の下に闡明にすると共に且つ刻下の急迫せる情勢、今後必至の動向を綜合、將來を明快に豫斷して、當然斯くなるべき次の世界を豫言せる本書一卷を敢て九千萬同胞に送る所以である。

今や四顧風雲險惡、その前途豫測を許さざる無條約第一年に際し、希くば本書に依つて、國際的近眼を一拭、以て適確なる認識によつて、嵐の中に驀進する祖國日本の前途に過ちなからしめられんことを切に望む次第である。

昭和十二年二月

編者　しるす

風雲世界の展望

世界列强勃興篇

目次

老いたる獅子イギリス

（國勢篇）

政治・外交……一

經濟・產業……三

社會……一〇

軍備……二七

（文化篇）

藝術……四四

宗教……五三

思想……六四

混迷の坩堝フランス

（國勢篇）

政治・外交……七六
經濟・產業……八八
社會……九九
軍備……一〇八

（文化篇）

科學……一一八
宗教……一三五
藝術……一三〇
思想……一四二

起ち上るドイツ

（國勢篇）

鐵と血の建國史……一五〇
政治……一六二
外交……一七六
經濟……一八四
軍備……一八九

（文化篇）

科學……一九四
藝術……二〇一
社會・思想……二〇七
宗教・教育……二一七

吼へるイタリー

（國勢篇）

華やかなる建國史……二二五

政治……二二八

外交……二三六

經濟・產業……二四三

社會……二四九

軍備……二五五

（文化篇）

科學……二六九

宗教……二七一

藝術……二七九

思想……二八七

弗の王國アメリカ

（國勢篇）

政治・外交……二九九

經濟・產業……三四四

軍備……三六二

（文化篇）

科學……三七六

思想……三八二

人種問題……三八九

世界の脅威赤色ロシヤ

（國勢篇）

國史の概觀……四〇五
ソ聯現勢のアウトライン……四〇八
プロレタリアートの獨裁……四二〇
裝備・兵數共に世界第一の陸軍國……四三四
（文化篇）
獨自の科學界……四四九
現代ソ聯の藝術……四五四
岐路に立つ懊惱支那
（國勢篇）
國史の概觀……四六一
支那現勢のアウトライン……四七〇
統一支那の發展過程（一）……四七九

統一支那の發展過程（二）……四九一
中國共產黨と赤色地區……五一〇
外交的地位と政策……五一七
資源國をめぐる暗鬪……五二七
陸・海軍の現勢……五三三
（文化篇）
支那標準語と方言……五四〇
宗教の見本市……五四三
社會生活と社會問題……五四六
文敎と科學界の現狀……五五六
文章の國の藝術的貧困……五六〇
伸びゆく日本

(國勢篇)
建國精神……五七〇
政治……五七四
外交……五八二
經濟……五九四
社會……六〇二
軍備……六一一
(文化篇)
科學……六二二
宗教……六二〇
藝術……六二六
思想……六五〇

世界の焦點新興滿洲國
新興滿洲國生る……六五八
世界動亂の震源地スペイン
西班牙の史的概觀……六七三
全歐安危の鍵、ポーランド及新興二國
ポーランド……六九二
チエツコ・スロヴアキア……七〇一
ユーゴー・スラヴイア……七〇七
歐洲の地震帶バルカン諸國
國際政局の發火點バルカン……七一〇
惱み多きバルカン諸國の內政……七一六
列强の對バルカン外交……七二三

國際急迫情勢篇

列強の動靜

世紀の動きを凝視せよ …… 一
自由主義と傳統政治…… 三
大英國の予盾外交 …… 一四
英國經濟の原動力 …… 一九
革命の共和政體…… 二〇
フランス財界の缺陷…… 二八
資本と社會の相關問題 …… 四七
難航のフランス外交…… 五六
獨裁ヒットラーのドイツ…… 六〇
富强四ケ年計畫を截る …… 七三

世界に獅子吼する …… 八五
協同組合國家イタリー …… 九八
經濟破綻の深淵に …… 一〇四
地中海の覇權を握るか …… 一一
大統領ルーズベルト政治…… 一一五
赤字インフレ好景氣…… 一二三
アメリカ新モンロー主義…… 一三一
赤色ロシヤの再組織…… 一三四
國策財政の大轉換 …… 一四八
ソヴイエート外交の明暗…… 一六〇

嵐の中の躍進日本

二・二六事件展望 …… 一六五

經濟界の動向……一八一
日本外交の波瀾……一八八
廣田合作政權の沒落……二〇九

點火線上の國際危機

ファッショか？　共產か？……二一三
コミンテルンの陰謀……二二六
東洋の赤化を曝く……二四三
反ソ共產撲滅同盟……二五四
赤色の分散地圖……二五七
內亂時代から次へ……二六七
國際政局の動搖向背……二七五
世界第二次大戰の鍵……二八〇

噴火は東洋にもある……二八七
極東禍の狼火……二九二
世界各國の軍擴……二九九
陸軍列國兵力の比較……三〇〇
新兵器の比較……三〇二
海軍列强勢力の比較……三〇五
若し戰爭があれば……三〇九

目次（終）

危局世界に躍る人々（口繪寫眞版五葉）……卷頭

世界列強勃興篇

老いたる獅子イギリス

【國勢篇】

政治・外交

イギリスは、一九二〇年まではイングランド、ウエノルス、スコットランド及びアイルランドの四部からなる合衆國であつたが、同年アイルランドが二つに分れ、南部二十六群はアイルランド自由國となつて本國より脱退し、現在では、北部六群のみが、英本國の一要素として殘つてゐるのである。

この方アイルランドの住民はケルト族であつて、英本國人であるアングロ・サクソン族よりも先住の民族であつたが、兩者の間には屢々爭鬪が繰返され、遂に一六四九年から十九年間に亘つて

クロムウエルのアイルランド征伐が行はれ、六十萬の人間が殺戮された。元來、ケルト族は、英國のアングロ・サクソン以上の文化を有し、國民的矜持を持つてゐたから、容易に併合されなかつた。而も英國は徹底的鎮壓法を以て臨んだから、事態は險惡の一路を辿るのみであつた。一八〇〇年から一八二〇年に至る二十年間、鎮壓法の發布せらるゝもの二十有餘、以て如何に騷擾の頻繁なりしかを窺ひ知ることが出來やう。アイルランド人が、英國を呼ぶに「海賊の國」「地獄の國」を以てし、ヴイクトリア女王の崩御に弔詞を送ることを忌避し、エドワード七世の即位式にも參列を拒んだのも、總て英國に對する反抗の一端であつたのだ。

然し暴虐の前には如何ともすることが出來ず、遂に英國のために併合されたが、この時、アイルランド議員及び取卷連中の買收費として投出された金は、合計四千萬圓である。併合後に於てこの代金はアイルランドの公債に繰込まれたのであるから、アイルランドは自分で自分の代價を拂つて身賣りしたといふ結論になる。さればグラツドストーンも、「人類の歴史に於て、アイルランドの併合ほど、醜怪殘虐を極めた取引はない！」と絶叫してゐる。

その後、英國の壓迫に憤激して、アイルランド國民黨が起り、シン・フエイン黨が蹶起し、大

混亂を來したが、世界大戰の勃發するに及んで、獨立運動は一頓挫を來した。だが彼等の素志はそのまゝ終熄する譯はない。米國にゐるアイルランド人は、陰になり、陽になつて、叛亂を助長した。即ち頻々たる爭鬪の度毎に國を捨て、遁れたもの、九割、約二千萬人が米國にあつて、これ等が莫大な資金を本國に送つた。流石の英國も、頻發する騷擾と統治難には手を燒き、遂に自由を認めるに至つたのである。尤もアイルランドそのものは「憲法上、英帝國の自治領としての資格を有す」ことになつて妥協の成立を見、爾來今日に至つたのである。

不可思議なる憲法　英國が立憲君主政體の國であることは、何人も認めるところであるが、その基礎となる憲法がどこにあるかと質して見ると、甚だ漠然としてゐる。それは、立憲國の何處の國にもある成文憲法が、英國には缺けてゐるからだ。勿論「マグナ・カルタ」その他二三の重要法令はないではないが、これとても、普通「憲法」の文字によつて意味せらるゝ根本的な法令ではなく、たゞ四五の文書に、故實や、慣例や、判決例や、默契などの集積を加へたものが一般に憲法と呼ばれてゐるまでのことである。

かくの如く、英國の憲法は、「造られたもの」でなくして、「發達したもの」であり、現在と雖も

「尙發達し變化しつゝあるもの」なのである。誠に不安心に見えるが、既にこれが一千年以上の歴史を重ねてゐるのを思へば、少くとも英國人にとつては、決して不安心なものではなく、また斷じて不便なものでもない。たゞ我々から見れば、實に不可思議な現象である。

從つて非立憲的なりや否やの決定に就ても、成文憲法の有る國の如く判然としてゐない。成文憲法ならば、法律の智識から推せば、立ちどころに黑白は決定する。然るに、英國には肝心の憲法そのものが、各人の解釋なり、重點なりによつて相違するから、問題が容易に決定しないやうに思はれるが、實際を見ると、この國には、憲法違反なりや否やの問題は殆んど起らない。それは英國人獨特の常識、卽ち實際主義によつて議會で新例を作り、事實問題として處理してしまふからである。この意味から言へば英國人の常識卽ち憲法なりと斷定することが出來るのだ。

離反する印度　「私等は印度を喪なふともセークスピーアを失ふことは出來ない！」嘗てカーライルは、かう言つた。だが經濟的困惑に喘いでゐる現在の英國は、「セークスピーアを失ふても印度は手離したくない」と言ふのが本音であらう。それほど、印度は富み、英國にとつて寶庫なのである。

いま印度の外貌を見るに、面積百八十萬平方哩、卽ち歐洲からロシアを除いたものに等しく、人口は三億二千萬、內英領印度は人口二億五千萬、殘る七千萬の人口を、獨立王侯約五百五十が分割して、昔ながらの封建制度を强用してゐるのである。農產物は世界第一、米は全世界の三分の二、牛は同じく三分の一、その他、菜、煙草、麻、黑鉛、雲母などが頗る豐富であり、特に棉花、小麥、亞麻、石油、香料、寶石等、何れも世界第二位の產額を有してゐるのだ。

從つて印度こそは、英國にとつて最有利の投資場であり、紡績以外の產業は、主として英國人が經營してゐる。その總額五十億圓であり、これによつて如何に莫大な利潤が得られてゐるかは計り知ることが出來ない。まことに、印度がセークスピーアと比較されるのも無理はなく、こゝに印度問題の發生する所以もあるのだ。

好餌に釣られた印度　印度と言へば直ぐにガンヂー一派の獨立運動を想起するが、その源泉は遠く一九〇四年から發してゐる。時の總督カーゾン卿が、印度人の自覺を防遏すべく、大學敎授を罷免し、學生の數を制限し、回敎徒の力を以てインド敎徒を牽制しようとした。とかくするうちに、世界大戰となつて、こゝに獨逸の觸手が伸ばされ、トルコからペルシヤ、アフガニスタンの

回教地域を通じて印度を攪亂する危險性が發見されたので、その爆發を防ぐべく、英國は何を措いても、印度をして、反獨を走らしむるより方法はなかつた。これには好餌を與へるより術はない。自治の約束が卽ちそれである。狂喜した三億の民衆は、その餌に釣られて勇躍英國保護のために起つたのだ。百三十萬の印度兵は、開戰二ケ月後、旣に歐洲は勿論のこと、メソポタミア、パレスタイン、エヂプト、東部アフリカの各地に轉戰し、米國政府のために、五十億の戰費まで獻納したのである。

さて戰爭も終熄したとなると、英國は振出した約手の淸算を迫られ、出來上つたのが、一九一九年の姑息なるモンテーグ・チエルムスフオード改革であつた。卽ち敎育、衞生、農業等の行政は地方に委ねられるか、重要なる司法、警察、財政等は保留事項として、依然中央政府の手に殘存されることになつた。

これでは約束された「自治」でないことは勿論、パンを求めて石を與へられたと同樣である。

俄然反英運動は尖銳化された。

自治尙早の辯　印度に自治を許すことは、英國としては寶庫を失ふ前提であらねばならぬ。玆

に自治尙早の辯が必然唱へられた。その理由として、第一には人種の多樣が擧げられ、言語の複雜多岐が數へられ、宗敎の混亂が指折られた。その上、印度總人口三億二千萬のうち、二億二千九百萬までが文盲であることまで指摘されてゐるが、これ等錯雜の關係を利用したればこそ、英國は自由に印度を把握し、遠くは東印度會社が二十五割の莫大の配當をやつたり、近くは投じた工業資本が三十割の利潤を生んだりしたのであり、若しそれ民衆の無學文盲に至つては、統治者たる英國人が、自らを詰責すべき、生きたる證據でなくて何であらう。

大體以上の問題を背景として、玆に英印圓卓會議なるものが開催された、一言にして言へば、印度は英帝國內に於ける自治領たらんことを要求し、英國はこれを許すべきや否や、許すとなれば如何なる程度と時期に於てなすべきやを、非公式に相談する會議である。

この起りは前記のモンテーグ・チエルムスフオード改革が如何なる成績を齎したかを調査し、且つ、ガンヂー一派の非協同派の昂奮を鎭靜するために行はれ、爾後英國の重大なる懸案となつてゐるものである。

要するに、この會議の成否は、英國全體の經濟的運命に影響することは勿論、ひいて政治的、

軍事的、更に外交的に重大なる波紋を與へずには已まない。英國は今や印度を第二のアイルランドにするか否かの岐路に立つものと言つてもよからう。

植民地の獨立性を容認　印度問題と並行して、次第に英國を惱ますものは屬領との關係である世界大戰の當時ロイド・ジョージの聯立內閣なるや、濠洲、カナダ、南阿、ニュー・フアウンドランド、ニュー・ジーランドの植民地の首相をロンドンに招致し、これ等を軍機處大臣に任命したのは、如何に世界大戰が、英本國と植民地との從屬關係を、對等關係に變化せしめたかを物語るものであり、換言すれば、英本國が戰爭に際して、屬領に課した負擔の當然の報酬であると同時に、英國が戰爭のためのスローガンとして發明した民族主義の叫びの當然の歸結でもあるのだ。日英同盟が解消された一原因は濠洲、カナダの反對があつたゝめで、これなどは屬領が本國政府を拘束した現はれである。

現在では英本國の締結した條約に對して、植民地の承諾、調印、批准がなければ、屬領はその責を負はぬことになつてゐるのも、植民地の獨立性を認め、これを尊重する意志を、具體的に表示したものだ。

平和政策の假面　顧つて歐洲に於ける英國の政策を看ると、何等潑剌たるものがない。根本は現狀維持の一語に盡きる。英國では、これを「平和政策」の美名でカモフラージしてゐるのだ。

然らばジョン。ブルは天外の平和愛好民族であるかと言へば、全然その反對である。彼等は祖先の海賊の血を受けてゐるだけあつて、烈々たる他民族征服の血に燃えた民族なのである。これは尚くも英國歷史の一頁を讀んだものゝ何人も首肯する所である。では何故外面を裝ふて平和政策などゝ唱へるかと言ふに、それは所謂金持ち喧嘩せずの心理である。英國は地球の約四分の一を征服して、世界に跨る。これ以上の膨張は最早周圍が認めず、それよりも、領土の維持が肝要であると、大局的に見、國家の利害得失を打算して、現狀維持卽ち平和主義を國策としてゐるのだ。人道主義的な動機から出發した平和外交などゝ言ふのは、悧巧な英國人が後から勝手に付けた手前味噌にすぎない。

更にこれを微細に檢討して見ると、裏面には經濟的の事情が潛伏してゐる。元來英國は、自國で產出する食糧品だけにする場合、僅か二ケ月すら國民を支へることが出來ない。從つて、この食糧品の輸入額は莫大なる額に上り、貿易は常に三十億の入超をなしてゐる始末だ。然し、一方

尨大な資本を海外に投下してゐる關係上、その利潤、無數の商船隊の活動による船賃、世界金融の中心地ロンドンに於ける銀行經濟その他利得、これ等の所謂貿易外收入が以前に比して減少してゐるとは謂へ、尙ほ四十億はあるから、差引き十億の金が殘るといふ豪勢さである。

他國で產するものを買つて食つても、まだ金が貯るとすれば、その贅澤を續けたいのは當然の心理であり、この金持が好んで喧嘩をする道理はない。然し英國も、この現狀維持が脅かされる場合には、常に矛を取つて戰つてゐる。既に今日まで屢々歐洲大陸の戰爭に參加した。エリザベス女皇時代から現在に至るまで、大陸諸國と幾多の葛藤を繰返したが、主として大陸に覇をなさんとする國が現はれた場合、一擊を加へるのを常套手段としてゐるのだ。「金持ち喧嘩せず」とは言ふが、その地位を奪はれんとする時は、默してゐない。これを過去に徵して見ると、最初の相手はスペインであり、次にはオランダであつた。最も永く爭ひを續けたのはフランスとであつてナポレオン戰爭がその絕頂であつたと言へる。

その後ロシアを目の敵にしたこともあつたが、ビスマルクが現はれて後は、英國の眼は獨逸に集注された。そして遂に歐洲大戰に至つたのである。この歐洲大戰は主として獨佛の戰であつ

たが、更に高所から見ると、英獨の爭覇戰と言ふことも出來る。以上の如く英國は表面平和政策を掲げてゐるが、これは現狀維持に汲々たる餘りの表看板であつて、眞の平和主義ではないのだ

ドイツの爆彈宣言　ところが、英國のかうした平和主義に、又しても脅威を與へたのはドイツの爆彈宣言であつた。一九三五年三月ゲツベルス宣傳相の名に於て、ヴエルサイユ條約第五條の軍事條項の廢棄を宣言したのがこれである。その言ふところは、各締約國が條約を履行する意志がない以上、最早事實上空文に等しい。ドイツ政府は自力を以て、國を護る手段を講ぜねばならぬといふのである。同時に四月から義務的徵兵制度を斷行する法令を發したのである。

このドイツの大膽な行動は青天霹靂の如く歐洲政局に一大衝擊を與へた。何故かと言ふに、同年一月佛伊の間に調印されたローマ協約と、次いで二月の英佛間の倫敦協約とで、少くとも表面的に平和確立への過程を辿つて來た歐洲の平和工作が、根柢から動搖したのである。

尤もドイツの爆彈宣言を誘導するに至る前兆がないではなかつた。恰度宣言の四日前、ドイツ政府は、四月一日から空軍を整備することを發表した。ドイツの空軍は、最初ヴエルサイユ條約によつて禁じられてゐたのが、その後英佛協定によつて、ドイツを防空協定に引き入れる必要に

迫られて、事實上認めることになつたのである。その意味で、空軍整備の宣言は、爆彈宣言の瀬踏みであつたとも考へられる。

當時、ボールドウイン英首相は、議會に於て「英國の國境は最早ドーヴァ海峽ではない。空軍の發達によつて、ラインに移つた」と言つたのは、明らかに英國の敵の何者であるかを表明したものと見られよう。

かくて、獨逸はその後も着々と軍備を整へ、嘗ての威力を盛り返さうとしてゐる。勿論、第一に脅威されるのはフランスであるにしても、英國としても決して安心であり得ない。平和外交の假面のかなぐり捨てられる日が、何日來ないとも限らないのだ。

經濟・產業

世界大戰の打擊　嘗て華やかであつた英國の經濟的制覇も、近世に入つて次第に衰退の跡を止めて來たが、世界大戰に際會するに及んで、急旋回の惡化を示した。國家の名譽を維持することが出來ても、經濟的の大打擊は如何ともすることが出來なかつた。物に動ぜぬ英國人も、自國の

混亂には周章狼狽したのである。その後、百方手を盡して昔日の繁榮を取戻さうと焦つたが、その不可能なことを知つた上は、最早現狀維持に腐心するより方法はなかつた。

先づ我等の注意の觀點となるものは、英國人の食物及び產業上の原料に就てであるが、これは益々外國に依賴する狀態である。元々英國には農業らしい農業はなく、反對に食料品の輸入は逐年增加を示してゐる。たゞ英國が自給し得る重要原料は、石炭あるのみである。で、これ等の輸入品の大量殺到を防止するためには、國產品の奬勵を行ふとか、或は保護關稅の方法もあるが、それ等によつて、自給の域に達することは到底實現されないばかりか、無理に行へば却つて英國の經濟は自繩自縛に陷ることは、火を睹るよりも明かである。

かく觀察すれば、英國經濟にとつての目標は、食料原料品の自給自足でなく、その必要量を不斷に輸入し、一方輸出を旺盛にして、均衡を取ることが必要である。

貿易沈滯の原因　然るに近年の英國貿易を觀るに、決して樂觀を許さない。その原因を綜合すると、大體次の要素が擧げられる。

1、各國民の購賣力の減少

2、各國に於ける產業の發達
3、各國の保護關稅の引上げ
4、他國の輸出が從來英國に屬してゐた市場を侵蝕したこと。同時に英本國の內地市場にさへ侵蝕したこと。
5、英國の基礎的工業の機械その他生產裝置が舊式であり、配給組織、取引の方法、金融との關係が不活潑であること。卽ち所謂後進諸國の企業家が、新鋭の資本力と組織、技術等を以て英國製品に肉迫し、到底在來の弛緩した企業力で對抗することが出來ない。

以上略述した諸點が、英國貿易の不振を招來したのである。これに對して、英國は如何なる對策を以て窮地を脫しようとするか。

覇權を失つた基礎產業　英國をして嘗ては世界の經濟覇權を握らしめたのは國旗と貿易であつた。貿易は國旗と共に世界を橫行したものである。而してその動力となるものは、產業革命以來の優秀なる生產裝置と、拔群の技術であつた。他國の容易に追從し難いのもそこにあつた。特に石炭、鐵、紡績、機械の如きは、基礎產業として、世界の富を一手に掻き集めたものだ。然るに

今日の狀態はどうであらう。且つ近代の工業である自動車、飛行機を始めとし諸種の化學工業品は如何と言へば、到底米國や獨逸には及ばない。こゝではとにかく基礎產業の二三に就て、變遷の跡を辿つて見よう。

衰退する石炭產額　石炭は英國に於ける產業中最も重要なるものゝ一つであるが、その產出額は著しく減少した。然もその輸出は、歐洲大陸の石炭業の發達により、極度に阻害され、一方國內の消費節約と、石油使用の顯著な普及とによつて、益々萎縮した。尤もこゝ數年來、やゝ見直した感があるが、到底戰前の產出額には及ばない。世界的に見ても、英國の石炭は低下の一方を進んでゐる。一九三五年の一ケ月の平均產額は二千百三十七萬噸であつて、卽ち前年より三分三厘方下向してゐるが、この傾向は持直しさうにもない。この炭工業の萎縮は、やがて炭鑛勞働問題と密接なる關聯を有し、同時に失業の大原因となるのである。(これは、本篇の社會の項に於て記述することにする。)

銑鐵と鋼鐵　鐵產業が、英國產業の一支柱であることは、久しく知れ渡つてゐる。世界大戰後一時鐵產額の上向を呈したが、これは戰後復興のため、建築、橋梁、機械、工場設備、交通運輸

機關等の諸事業が起り、原料として鐵の需要が增大したためであつた。

然しこれを戰前に比較すれば、著しい減少を示してゐる。然も鐵については、最近白耳義と米國が驚異的な產額を示し、鋼鐵の如きも、フランスの產額は、今や英國のそれに肉迫しようとしてゐる。ドイツを見るに、最早完全に戰前に復歸し、產額一千五百萬噸を越へ、米國の如き四千萬噸から五千萬噸に增加してゐる位だ。

これ等と比較して、英國の鐵鋼業は餘りにも不振であり、到底回復の見込はない。

船影次第に薄らぐ　造船も英國の特殊產業として、强味を有してゐたものであるが、この優越も大戰を一期として、急轉回した。その反面には、米國船舶の增加があり、嘗ては世界に風靡したユニオンヂヤツクの影も次第に薄らぐのを否定することは出來ない。

大戰によつて所有船舶の三分ノ一に當る一千三百萬噸を破壞したのが、戰後の景氣轉換に促されて、一時大いに造船が行はれたが、これにても戰前に比較すれば、大いに低下してゐる。米國が戰前五百四十萬噸、一九三五年の二千五百萬噸の飛躍に比較すれば、玆に著るしい徑庭のあることを知り得るのである。

舊態依然たる棉業　織物こそは、英國が過去百年に亘つて、世界各國に一指をも觸れしめなかつた重要產業があつた。これが種々なる理由によつて、――諸外國の紡織業の發達、植民地に於ける同業の發達、關稅の引上、國內外の購買力の變化等々によつて、從來の地位に動搖を來したことは、英國にとつて正に致命的の打擊である。一九三〇年秋、英國の極東經濟使節なる一行が我國及び支那に於ける經濟視察のために渡來したことがあつたが、これら使節は、特に綿絲方面の有力者であり、派遣費用の中、六萬圓は綿業者の寄附にかゝるものと傳へられた。その目的は言ふまでもなく、日本及支那の綿業視察であつて、英國の綿織物が、今後日支方面に輸出する餘地ありや否やを研究するためであつた。

然し調査の結果、日支方面に於ける輸出の到底望みないことを知るに及んで、悄然と引揚げたのである。勿論、日本は英國品を輸入するどころか、反對に英國產業の一牙城であるランカシヤーに、メリヤスシヤツ靴下を旺んに輸出し、今後どこまで、その手を伸張するか計り知れない勢力を有してゐるのが判明した。かく英國の綿業が萎縮したのは、事業會社の設備が舊式であるのと、背負ひ切れぬ負擔を有してゐるためで、今やこの刷新が、各方面から唱へられてゐるのであ

る。

海外投資四十五億萬ポンド　英國が世界經濟の王座に悠然と据はつてゐた頃は、世界の富は英國を中心として動き、金はロンドンを自由市場として集散した。然し世界大戰は英國の金融力を根本的に搖がしたものである。今や富は米國に移り、金の激流は同國を目懸けて殺到しつゝあるのだが古川に水多しの譬へで、過去三百年以上に亘つて累積して底力は、今尙英國を强固なものにしてゐる。將來はいざ知らず、英國は未だ貧困の苦痛を味つてゐない。

産業の優越と植民地の略取によつて吸收した資本は、次で金融資本として各國に投資された。帝國主義が資本主義の一進過程として、無制限にその侵透力を揮ふに至つたのは、英國の經濟發展の跡を見れば最もよく判明する。最近の調査によれば、英國の植民地、北米、南米、及び東洋諸國に投資した額は實に四十五億萬ポンドの巨額に達してゐると唱へられ、これによつて得る利潤は、尙二億五千萬ポンドに上つてゐるのである。これを地理的分布から觀れば、株式投資に於ては、米國に對して十九億三千萬ポンド、カナダ、濠洲、南阿、印度等の屬領地に對して五億一千萬ポンド、歐洲各國に一億二千萬ポンド、ラテンアメリカの諸國に一億一千萬ポンド、アジア

とアフリカ諸國に三千三百萬ポンドである、次に社債投資では、やはり米國に投資したものが最大で九億二千九百萬ポンド、屬領には三億〇三百ポンド、歐洲諸國には二億九百萬ポンド、ラテンアメリカ諸國に一億三千五百萬ポンド、アジアとアメリカ諸國に三千萬ポンドとなつてゐる。以て如何に海外投資が巨額に達するかを知ることが出來よう。

金融の中心英蘭銀行　英國の金融の樞軸をなしてゐる機關は、言ふまでもなく英蘭銀行である。一八四四年にその兌換券發行制度が確立したが、世界大戰に際會すると同時に、事實上兌換停止し、一九二〇年から二五年まで金輸出の禁止を斷行しなければならなくなつた。戰時から戰後にかけて、必然兌換券が膨脹したので、御多聞に洩れず、その整理に苦痛を嘗めたものだ。金本位に復歸すべきか、もしくは金本位制度を捨て、一定量に紙幣發行を統制するが如き新制度を樹てるか、種々の議論があつたが、結局、米國に三億弗の信用を設定し、一方英蘭銀行の割引率を四分より五分に引上げ、金の輸出に政策的の手心を加へる等の準備をやつて、遂に舊來の金本位に還ることになつた。かくて一九二五年十一月に、所謂舊平價で金解禁が行はれ、こゝに金本位が回復したのである。

然し同じ金本位でも、戰前のそれとは大いに相違がある。元々金貨は無制限法貨で自由鑄造であることには變りはなく、愛蘭銀行も一オンスには三ポンド十七シルリング七ペンスの割合で金を買入れる義務についても變りはない。然し金貨の鑄潰は禁止され、その上、今まで英蘭銀行が金貨を以て兌換してゐたのが、二五年の金本位法によつて、この義務から免れることである即ち兌換券を提出するものに對して、金一オンスにつき三ポンド十七シルリング十ペンスの割合で、純金の地金を以て賣渡すことになつたのだ。等しく兌換制度ではあるが、金貨兌換ではなく金塊兌換となつたのである。

因みに英國内に保有し、または流通する金貨及び金地金は、一九三五年十月末現在で一億五千六百五十萬ポンド、兌換銀行券は四億一千六百九十萬ポンド、流通額は三億五千八百五十萬ポンドである。

社會

金で求め得る爵位

英國の社會には、皇室を除いて、日本と同様公、侯、伯、子、男の五爵に

級別された八百三十六名の貴族があり、その大部分は上院に議席を持つてゐるのである。(一八三五年現在の上議院總數は七百五十九名で、その内には二名の大僧正、二十四名の僧正、十八名の愛蘭代表貴族、十六名の蘇蘭代表貴族が含まれてゐる)

これを見ると、英國の社會が、一面に於て今なほ貴族制度に相當の敬意を拂ひ、階級制度の存續をある程度まで必要視してゐる例證と見られる。殊に興味ある現象は、英國の社會が年と共に民主主義的色彩を濃厚にし、政治的にも既に勞働黨内閣を形成したことがあるに拘らず、半面に於て不斷に貴族の製造を怠らないことである。即ち今より八十年前には上院議員數が僅か四百三十三名であり、二十年前には五百八十八名にすぎなかつたものが、現在では七百五十九名の多きを數ふる有様である。

然し英國の社會が、この急激な貴族の增加を漫然と眺めて、これに絶對の敬意を拂つてゐると思ふならば間違ひである。即ち英國の社會は、貴族の數を殖やすだけ殖やしておいて、その貴族の集團たる上院の立法的權限、殊に豫算の審議權に致命的な制限を附してしまつた。豫算に關する限り、下院の絶對的審議權を確立し、同時に豫算に對する絶對的拒否權を上院から剝奪してし

まつたのである。英國社會の現狀では、ある程度までの貴族の横行を許してゐる。然しそれも畢竟するに程度の問題であつて、「貴族よ、この柵を越ゆるな」と明示するのは、要するに英國の社會が常に妥協的である一方莫迦でない證據である。それについて興味を唆る現象は、ロイド・ジョージが首相であつた一九一六年から一九二二年までの間に、實業界の巨頭連や新聞社主等を合せて、無慮八十五名の新貴族を製造したことは、この目的が主として自由黨費調達にあつたにせよ、またその反面には、英國の自由主義者が、人爵を阿賭物と同一視することを露骨に表現した好個の實例でもあるのだ。その裏面には、金で求め得られるやうな爵位の所有者など、何十人殖えても構はないと言ふ功利主義、實用主義の片鱗が窺はれる。

要するに、英國の社會は階級の形體を存置させて、而も平然とその精神を踏み躙つてゐるのである。換言すれば、英國の社會には、形式的に嚴然たる貴族制度が存在してゐるが、その底流は純然たる國民主義を以て形成されてゐるのである。

富の偏在　富の偏在は資本主義社會に普通の現象であり、英國の社會に於ては、殊にその傾向が著るしい。大體、英國の富の八割八分といふものは、前國民の二割五分に該當する少數者の手

に把握されてゐるのである。更に英國の耕地の八割四分は、僅か三萬六千の家族の所有するところであり、ロンドン市街地の大部分は實に四人の貴族によつて占有されてゐるといふ、驚くべき狀態である。最近の統計によると、英國には現在、千萬長者と呼ばれるものが、五百四十三名もあつて、彼等の年收總額は邦貨に換算すると約五億五千八百萬圓、一人當り年收は平均百萬圓に達するのである。外に年收十萬圓以上のものが、八千七百四十九名もある。英國の產業の不振が論ぜられても、その資本階級の實力は、米國のそれに比較して大した遜色を見ない。

これ等の富豪連は、よしや勞働內閣の下にあつても、英國人傳來の徹底して個人主義に卽してその有りあまる財力を自己の意のまゝに消費して憚らない。資本家階級は、毎年貴族連と相携へて、規則正しく社交季節を開くのである。それは實に贅を極めたもので、到底一般人の想像をも許さない。あの狹小な英國の到るところに、廣大なゴルフ・リンクスがあるが、これらは總て特權階級の娛樂に供されてゐるのだ。

勿論、これに對して勞働階級が快く思ふ筈はない。彼等の政治的進出は、明らかにかうした資本家への階級的對峙を意味するものである。然し英國の社會は、必ずしも、眞向からこれを非

議する程尖鋭なものではない。社會はこの事態を冷靜に、且つ精細に全局から打算して、富豪をして十二分に、國家社會に對する義務を負はせ、同時に一般無產階級の負擔を出來得る限り輕からしめてゐる。これら如實に證據立てるものは、寧ろ苛重と思はれるほどの累進率に基く、所得稅法や相續稅法である。

下層民に薄い稅制　玆にその稅制を詳說する遑はないが概略左のやうになつてゐるのだ。例へば既婚者に於ては負稅點は二百七十五ポンドであり、既婚の男子一人の勤勞所得が、一ヶ年二百八十五ポンド以上二百九十ポンド以下であれば、その所得稅は一ポンドにすぎない。ところがその所得二千ポンドに達した場合には、所得稅は三百十二ポンドに激增する。即ち前者の場合は、稅率は所得の二百九十分の一に過ぎないが、後者の場合は所得の六分の一に當つてゐる。勤勞所得に於てさへも既に累進率は斯くの如く大なる差を示してゐる。それが不勞所得である場合は、更に累進率は高い。例へば、既婚者一人の不勞所得二百五十ポンドの時の所得稅は二ポンド、即ち所得の百二十分の一に過ぎないものが、二千五百ポンドに達した場合には、所得稅は一躍五百六ポンドに激增する。即ち所得の五分の一强と言ふ高率なる稅を國家に提供しなければならぬ。

相續稅の累進率も、不勞所得稅に劣らぬ高率なもので、その最高は實に相續財產の四割に該當する。（相續稅は百ポンド以上の相續財產に課せられ、二百萬ポンド以上には四割が課稅される）英國政府は、この相續稅のみでも最近、年八千一百二萬ポンドの巨額を得てゐる。

この高率なる累進稅制によつて最も打擊を受けるものは、言ふまでもなく資本家、殊に大資本家階級であるが、如何なる富豪と雖も一度は死なねばならぬから、如何なる手段を盡しても、この相續稅法の適當を免かれることは出來ない。英國の社會は、富豪が如何なる贅を盡さうとも平氣でゐる代りに、その富豪が歡樂を極めて死に就くと同時に、容赦なく遺產の一半を頂戴する仕組になつてゐるのである。

斯の如く英國の社會は、合法的に資本家階級の財產を出來るだけ多く國家社會に提供させると同時に、他の一面では失業保險制や、養老年金制や、寡婦孤兒扶養法等を徹底的に實施して、一般無產階級の生存權を出來得る限り擁護してゐるのである。政權が勞働黨に移つたり、失業者が二百數十萬にも及び、他面では貴族、富豪が、豪奢な生活を送つてゐる英國の現狀を一見すると今にも革命が勃發しさうに思はれるが、英國の社會はやはり合法主義、漸進主義に終始してゐる。

その有力な原因は、前記の如く英國の社會が、貧富貴賤のバランスを取ることに、獨特の手腕を有してゐるからだ。

失業者三百萬人　然し失業問題も、英國の社會として、決して等閑に附することは出來ないのである。嘗てはこの問題が、單なる救貧問題として取扱はれてゐた時代もあつたが、今や獨立した社會問題として政界の分野にまで進入して來てゐる。

失業問題が深刻に取扱はれるやうになつたのは、勿論世界大戰直後からである。戰爭の終熄と同時に、壯丁は戰線から歸來する。臨時的軍需工場は閉鎖される。戰時中、男の代りに働いてゐた女の或る部分が、そのまゝ殘留する。一方貿易は停止する。金融の梗塞、新事業の打切り、となつて來ると、ロンドンの街は忽ち失業者と歸還兵士とによつて埋められてしまつた。當然これは各地に波及する。

かくて英國の失業者は大戰直後、忽ち二百萬を突破し、爾來一進一退の情勢を示してゐたが、一九三〇年には俄然二百五十萬となり、最近では三百萬に達すると稱されてゐる。これを歐洲に於ける失業者の總數一千二百萬人に比較すると、英國は約四分の一を抱擁することになり、產業

的に、アメリカ、ドイツ等に壓迫されつゝある英國としては、容易ならぬ大問題となつてきた。

政界の癌「失業」　然も今日まで、この問題を明快に解決し得た政府も、政黨も、政治家もないまた解決さるべく餘りにも大きな問題なのである。大戰直後のロイド・ジョージの聯立內閣は、その長廣舌にも似ず、僅かに五十萬人の失業者を救濟したにすぎない。その後、內閣は頻々として變つたが、何れもこの問題には手を燒かずにはゐられなかつたのである。而も何れの內閣も、政黨も失業救濟問題を政綱の眞先に掲げて一般に呼びかけてゐるのを見れば、如何に本問題のために、國民の神經が尖銳化してゐるかゝ判るであらう。

軍　備

海の王座搖ぐ　世界大戰に至るまでは、英國はその版圖の廣大なる點に於て、また其の富の豐大なる點に於て、更にその海軍の强大なる點に於て、嶄然群を列國に拔く、世界の第一國であつた。然るに世界大戰の浪費によつてポンドの王座を弗に奪はれ、戰後の疲憊によつて海の王座を米國に犯され、現在の英國として殘るものは、たゞ版圖の廣大のみである。而もこれまたカナダ

には合衆國との合同論が起り、印度には獨立自治運動があり、濠洲と南阿聯邦も、やゝもすれば本國に反抗の氣勢を示してゐる。昨日の英國と今日の英國とは、斯くの如く變轉した。これを見れば、明日の英國が如何になり行くかに就て、到底希望を繋ぐことは出來ない。

言ふまでもなく、英國の富は全世界に跨る廣大なる領土から吸集したものであり、その廣大なる領土は強力なる海軍力によつて獲得され擁護されたものである。されば、英國が多年傳統の國策として海上の優越を維持することに、專心力めたのもこれがためであつて、總ての外交も內政も、この大國策を中心として定められ、且つ行はれたのである。而も時勢は、今や海の王座を米國に譲らねばならなくなつたのだ。

米國海軍の躍進　前後四年四ケ月に亘る世界大戰は、普佛戰爭以來血に渴したる歐洲諸國民を殺戮と浪費とを恣にさせた。英國のみに就い見ても、直接戰費は、七百六億圓を超え、人員の損害は百九十八萬を算し、產業その他の損害は到底計り知れない莫大なものに上つてゐる。これがため國費はいやが上にも增大して戰前の二十億圓から一躍百十五億に激增し、海軍費も十五億と言ふ正に戰前の三倍に達した。こゝに於て、如何にしてこの大海軍を維持して行くか〻英

國の財政上に於ける大問題となつた。

それのみならず、英國は戰勝の結果、强敵獨逸海軍を斃して、參加の主目的を達したが、五年に亘る戰爭の間に日本の海軍が急速に勃興した。かくて安堵の胸を撫で下す遑もなく、英海軍は新競爭者に脅かされなければならなかつたのである。就中戰場の禍害から離れて、久しく中立國として貿易の巨利を占めた米國の如きは、世界第一の海軍を目的として、經費を厭はず、大海軍の建造に邁進した。

斯くの如く英國海軍は、內に國家財政の窮乏に苦しみ、外には米國海軍の迫進に脅かされ、進退兩難の苦境に立つに至つたが、政府は大英斷を以て海軍の整備を斷行し、一九二〇年の海軍豫算は前年度の約五割八億二千萬圓に緊縮することが出來た。この時恰も歐洲大戰中より開始された日米の海軍競爭は、正にその頂點に達し、日本に八八艦隊の計畫があれば、米國に戰艦三十二隻の建造案が起り、その競爭の激烈深甚を極めたこと、宛ら戰前に於ける英獨海軍の競爭に髣髴たるものがあつた。

然るに偶ま世界經濟界に起つた戰後の大變動に、日本は勿論のこと、流石の米國にも豫定の海

軍計畫を遂行する上に困難を來した。同時に各國國民の間に負擔輕減の要望が叫ばれ、戰後俄然勃興した平和主義非戰主義の聲と相俟つて、遂に海軍縮少會議が招來されたのである。卽ち一九二一年米國大統領ハーディングの提唱によりワシントンに於て開催されたのが第一回の軍縮會議であつたのである。而もこの會議の裏面の發動者が英國であつたことは、前後の事情によつて略推知することが出來た。

縮小された英國海軍　この軍縮會議に參加した國は、戰後の五大國と稱された日英米佛伊の五ケ國であつたが、かうした會議が、果して成功するや否やを危まれてゐた。ところが開會劈頭、米國全權ヒューズは天降り式に各國主力艦の比率を提出し列國全權を驚倒せしめたが、結局原案たる英、米、日は五、五、三の割合で縮小を承認したのである。

かくて嘗ては全世界の海軍を一丸として敵とした英國海軍も、今や膝を屈して米國海軍と均勢を以て甘んじなければならなくなつた。玆に多年英國民の誇りであつた海上の優越權は明かに消滅したのである。

英國讓歩の原因　英國が立國の基本政策として歷代踏襲して來た海上の優越權を未練氣もなく

放棄し、米國と均勢の海軍力を以て滿足するに至つた原因を探ねて見ると、種々の觀測が行はれる。卽ち、英國は、戰後絕大の富力を擁して躍進した米國海軍に對して、到底競爭者でないことを覺り、米國海軍が未だ英國海軍を凌駕するに至らない先きに、先手を打つて彼に物質的均勢を許し、以て競爭を避けると共に、內容の充實を計つて質的に優秀を保たんとしたのが第一の原因である。

次に、英國を憐ましたのは、世界大戰以來の航空權の躍進的發達である。英國の如き、大陸に接近した島國は、最早海軍の力のみによつて國防の安全を期することは出來なくなつた。それを考慮して英國は寧ろ海軍力を割いて空軍の充實を圖るに如かずと覺つたのが第二の原因である。

れに、大戰による國家的精力の憔悴に基く自棄的諦觀等が加はつて、如上の英米均勢を受諾したのである。

尤も英國としては、海上の優越權を放棄することは、國民の信念を傷け、國家の威望を損することの甚大を知らぬではなかつたが、無謀な海軍競爭を避けたのは、常に利害の打算に明敏な英國國民性が端的に現はれたものを見ることが出來る。

補助艦の擴張を誘致　然し一方に制限すれば、他方に膨張しようとするのが軍備本來の性狀である。主力艦に於て制限を受けた各國の海軍は、補助艦の擴大に突進し、忽ちにして巡洋艦規定の最大限度たる一萬噸八インチ砲巡洋艦の出現を見るに至つた。かくて補助艦による海軍競爭に再び拍車が加へられ、ワシントン條約會議の精神は全く蹂躙されてしまつた。

茲に於て米大統領クーリッヂは、補助艦を制限して、ワシントン協定を完成せしめようとし、第二回軍縮會議をジュネーブに開催することを提議したが、前回の會議に於て、劣勢海軍力を強制された佛伊は參加を拒絶し、日英のみがこれに參加協議した。然し、この會議は英米共に原則として補助艦制限を承認しながらも、米國の大艦主義と、英國の小艦主義とが衝突したゝめに不調に終つたのである。

英佛海軍の密約　ジュネーブ會議の決裂は列國をして補助艦制限協定の成立に疑惑を持たせた英國の元外相グレーの如きは、將來軍縮會議を開催することの無意義を唱へ、「英國は歐洲大戰前の主義に還つて、米國海軍の存在を無視せよ！」とまで激語した。果然補助艦建造熱は次第に昇り競爭は白熱化せんとする傾向を生じて來た。然し早晩補助艦制限會議の開催されなければならぬ運命にあることを豫期した英國は、ジュネーブ會議の結過に鑑み、問題を自國に有利と導かうとして、佛國と密議し、妥協案を作成したのである。これが世界の物議を醸し出した英佛海軍密約である。

ロンドン會議の經過　ジュネーブに於て英米兩國が補助艦問題に就て爭つてゐる間に、米佛間に偶然蒔かれた不戰條約の種子は、急速に成長して、一九二八年巴里に於て、日英米佛伊獨を含む主要列國の間に調印を見るやうになり、再び軍縮の氣運が醸成された。

恰度英國では保守黨内閣が倒れて、平和主義を奉ずる勞働黨内閣が生れたので、時の首相マクドナルドは、一九三〇年、日米佛伊の賛同を得て、補助艦制限に關する軍縮會議をロンドンに開催することになつた。

このロンドン會議の難關は、英米の巡洋艦を如何に按配すべきか、日米及び佛伊間に於ける補艦の比率を如何に定むべきかに焦點が於かれてゐた。前回のジュネーブ會議が餘りに專門的に馳せてゐた失敗に鑑み、ロンドン會議では最初から政治的解決を標榜し、專門委員の意見を抑へつゝ、幾多の曲折を經た後、漸く日英米三國間に於ける補助艦制限を協定し得たのであつた。この

協定によつて、英國は米國と均等の勢力を有することになつたのである。

日本不滿の聲を發す　ワシントン條約及びロンドン條約によつて、日英米三國間には條約外の小艦艇を除く外、保有數量は嚴格に規定され、條約有効期間たる一九三六年までは一艦とも恣に建造することは許されないことになつた。

然るに日本政府は一九三四年十二月ワシントン條約廢棄の通告を發し、同時に新條約締結交渉の用意あることを闡明した。この通告に接した英米は、等しく大衝擊を受けたのである。いま、日本が何故に條約廢棄を通告したかと言ふに、日本にとつて、ワシントン、ロンドンの兩條約が何れも不滿であつたのだ。

卽ち(1)差等比率主義に立つて平等を認めたこと。(2)軍艦の排水量及び備砲を制限し、任意の艦型を認めないこと。(3)小各艦種間の融通を原則として認めないこと。(4)日、英、米三國の潛水艦を均等にしたこと。(5)兩條補助艦の制限には佛伊が參加してゐないこと等が擧げられてゐる。

日本の立場と主張　日本はワシントン會議で六割比率を、ロンドン會議で總括的七割を受諾した當時は、國防上にも大した缺陷はないらしかつた。然るにその後、日本がこれに不滿を表して

ワシントン條約を廢棄し、差等比率主義を廢して斷乎均等軍備を要求し來つた根據はどこにあるかと言ふに、やはり其の後の情勢の變化につれて、國防上の不安を痛感したゝめに外ならなかつた。その主なる原因は次の通りであるのだ。

(1)艦船、兵器及び航空機の異常な進歩發達の結果、主力艦の航續二萬海里に達し、從來の二倍の力を有するやうになつたこと。

(2)一萬噸巡洋艦の如きも、三十幾節の高速力を有し、橫濱から二四〇〇海里を隔てたハワイも今では日本襲擊の根據地となつたこと。

以上が理由として擧げられた。そして關係國が條約更改を容認しない場合は、會議決裂をも辭せずと威嚇して來たのである。

軍縮會議遂に決裂す　ワシントン、ロンドン兩條約の規定によると、締約國は一九三五年中に軍縮會議を開かねばならぬにとになつてゐた。卽ち一國が廢棄の通告をなした場合は、一年內に會議を再開すると言ふ規定に基いて、同年十二月、ワシントンに於て會議が開催されたのだ。尤もそれまでに、ロンドンに於て、二回まで日英米間に豫備交渉が行はれたが、日本の總噸數主義

に基く均等要求は頗る強硬なものがあつた。而も日本側では、前回のロンドン會議の失敗のため勃發した五・一五事件があつたため、會議の不調と決裂は既に開會前から豫想された。

果せるかな日本は劈頭より均等の軍備を要求し、英米またこれを容認せず、こゝに軍縮問題は遂に破局を見るに至つたのである。即ちワシントン、ロンドン條約によつて締結された條約は、一九三六年十二月廿一日までその効力を持續し、翌年一月一日より無條約の情勢に入ることになつたのだ。

英國海軍の現有勢力　然らば無條約第一年を迎へた現在の英國海軍は如何なる勢力の下に置かれてゐるか。大體左の通りである。

主力艦	（十五隻）	四七四、七五〇噸
航空母艦	（六隻）	一一五、三五〇噸
同　建造中	（一隻）	二二、〇〇〇噸
補助艦（巡、驅、潛）	（二〇二隻）	六二七、九二四噸
同　建造中	（二五隻）	七二、三八〇噸
同　未起工	（八隻）	二〇、五五〇噸

英國陸軍の堅實味　由來英國は大海軍國を以て世界に知られてゐた。世界大戰前にはその陸軍は、殆んど他の強國からも問題にされてゐなかつた。何故かと言へば、本國に於ける常備軍の主なるものは、正規軍が僅かに六個師團と、衞兵一個師團、總員約十二萬に過ぎなかつた。而も兵役は志願兵制度であり、其上、將校以下一般の軍事能力が大陸の諸强國に比較して可成り見劣りがしたものである。

それが愈々大戰勃發となるや、同戰後の十一月半ばには、西部戰線にあるもの二十二萬五千、年の一月には三十四萬七千、更にその年末には六十一萬に達し、休戰當時には內地訓練のものを合して實に五百萬の大數字に達したのであつた。而も一方、戰前大陸軍を擁して世界に誇つたロシアの陸軍は戰爭第二年目に早くも戰意沮喪し、次いで崩壞した。佛伊兩軍も第四年目には軟化した。即ち佛軍はその年の春、精神的危機に襲はれて、銃を捨て戰線から逃走するものが續出した。幸ひに、當局の果斷なる處置と、米國の參戰とによつて、辛うじてこの頽勢を挽回することが出來た。伊軍はと見ると、これも同樣の危機があつて、その年の秋、カポレットの大敗を招きイタリーの上下はこれがために震駭したが、英佛軍の急援によつて、これまた危機を脫すること

が出來た。

然らば獨軍は如何と言ふに、西部戰線異狀なしどころか、最終年の夏には、將校の不在中、團體をなして投降することが始まり、後方の森林村落には、戰線からの逃亡兵が、ウヨウヨと潜んでゐる始末である。この間、ひとり英軍のみが不屈不撓、堅實味を維持し、孜々として戰勝に向つて努力したのである。

これを見れば、英軍こそは聯合軍勝利獲得の中堅であり、もしこの大戰に英軍なかりせば、或は形勢に如何なる變化を與へたかも知れない。

かくて、勝利に精進した英軍も、平和克復と共に漸次復員され、更に數度の縮小整理を行つて今日の兵備に至つたのであるが、兵備の方式は戰前と同樣であつて、前記の志願兵制度を以てする正規軍と、地方軍の二種に分ち、正規軍たる常備團體を以て戰時野戰軍の根幹となし、主としてこれを外征に使用し、地方軍を以て、戰時本國の防衛に任じ、必要に應じて外征に使用することにしてゐる。

何故に志願制度を採用するか

佛伊露軍等が徵兵制度の大陸軍を擁するに反し、英國が志願兵

制度の小陸軍を持つことに對し、素人眼から見れば、國防と見劣りするやうに感じられるが、事實は決してさうではないのだ。由來英國の國防方式の建方が一種獨特で、他國と趣を異にすることを知らなければならぬ。畢竟その獨特性は、地理的要素と、自由主義の傳統精神に基くものである。

先づ大陸方面の國を例として考へて見ると、互に國境を接する關係と、自國を戰禍から免れしめんとして、相對的に有力な常備軍を用意し、徵兵制度によつて多數の在鄕兵を養成し、完備した動員計畫によつて、有時の際は迅速に野戰軍を擴張し、以て開戰と同時に國境附近の戰ひに機先を制する。これが大陸諸國に於ける國防方式であるのだ。

ところが英國の事情は、これと全く反對である。言ふまでもなく英國は島國である關係と本國と海外屬領を防衛し、且つその連絡を確保すべき大海軍と空軍とを保有してさへゐれば、敵の長距離砲擊や空中襲擊があつても、敵軍が本國に侵入して直接國土を荒すことは先づないと言つてもいゝ。故に陸戰に機先を爭ふ必要は殆んどないのである。隨つて陸軍は、さしあたり應急の用を辨じ、且つ野戰軍の根幹たり得る少數の常備軍を備へ、開戰後徐ろに必要な兵力の大編成を圖

り、これをもつて戰爭の目的を遂行する、と言ふのが英國の國防方式である。

然し戰時新募の大軍を編成し、これに十分な戰鬪能力を與へるには、相當の時日と莫大な經費を要する。英國がかうした苦痛をも厭はず如上の方法を採用してゐるのは、徵兵制度を平時から實行することが困難だからである。卽ち自由主義を傳統とする英國の日常から言つて、到底徵兵が滿足に行はれないのを知つてゐるからである。元々英國民は、强制されずとも、國家が必要とする場合は、彼等の奉公心から、自發的に犧牲を厭はぬ性格を有してゐるから、この傳統的精神を重んじて、徵兵制度を採用しないのが、根本の理由である。その上、英國軍の强味として、他國軍に優つてゐる點は、不屈不撓の精神である。如何なる國難に直面しても動搖しない强靱な精神力を、彼等の祖先から旣に養はれてゐるのだ。

第二の强味は指導階級に立つものが、常識に富んでゐることである。大戰中にも、これが紳々として新創意となつて實現した。その最も顯著なのは戰車の發明である。戰車そのものは勿論技術家の手によつてなされたが、最初の着想はチャーチルだと言はれてゐる。大戰第四年の秋、カンブルーの戰ひで、英軍が大仕掛にこれを使用し、獨軍の心膽を寒からしめたのは人の知るとこ

ろである。戰爭終熄後も、獨逸の議會に於て、戰車の問題が持出され、盛んに陸軍當局が質問されたが、英軍の强味は、かうした指導者の常識の發達が與かつて力あるのだ。

英國陸軍の惱み　然し英軍にも惱みがある。それは最近地方軍の志願者が減少したことだ。地方軍といふのは、前にも述べた通り、國內防衞が主なる任務であり、必要に應じて外征に使用するためであるが、國防の基本を爲すところの地方軍志願者の減少したことは、當局の大なる惱みである。それには種々の原因があるが、失業救濟の法律保護に賴る風潮を生じたこと、、庶々の勞働爭議によつて、社會の內面的鬪爭の空氣が助長された影響等が擧げられる。

だが、これにも增して惱みの種となつてゐるのは、將來の戰爭に際して、印度、南阿が英本國に對して如何なる態度を取るかゞ問題であるのだ。世界大戰には、海外屬領は、急遽本國に援助を申し出で、大戰全期を通じて非常な貢獻をした。これを印度のみに見ても、百五十萬人を動員し、內百萬を出征せしめた外、これに要する戰費はもとより、戰債一億ポンドとその利子まで負擔した位で、英本國としては大戰遂行上偉大なる援助を受けたことは、言ふまでもないことである。

ところが、大戰後、印後に民族自決主義が澎湃として起り、一方英本國が戰時中の公約を果さなかつたゝめ、爾來印度には反英獨立熱が勃興し、數年前の如き騷擾を惹起した。この印度問題が如何に落着くかは不明であるが、今後英本國に國難が來つても、恐らく印度は前回の如く、協同することはあり得ないと思はれる。否、寧ろ斯かる機會に彼等は獨立の旗を揭げるのではあまいか。南阿聯邦に於てもまた同樣である。この二屬領の態度こそ英軍の惱みであり、英帝國の將來を左右するものであるであらう。

空の脅威　英國では大戰の末期から逸早く空軍を獨立させ、陸海軍へは空軍が協同することゝし、空軍省は空軍全體を統轄管理することになつた。空軍は英國にとつて、今後に於ても海軍同樣國防上極めて重要なる要素であることは言ふまでもない。それは大戰中、防空に就て英國は苦い經驗を嘗めたことによつて知ることが出來る。

そればかりでなく、大戰以來のフランスが優秀な空中兵力を貯へてゐるやうになつたので、英國の國防は從來のやうに、海軍第一主義を奉ずることは出來なくなつた。現在では國防の主力を專ら空軍にのみ集結しようとする傾向さへも窺はれる。而もその目標は、地理的關係から見ても

フランスであることは否めない。

現在英國の空軍は兵員三萬八千人、飛行機千九百機であつて、その大部分は正規空軍である。これに要する經費は年二千萬ポンド巨額に達するので、經濟的國防の一助として、英國も各國と同樣民間航空事業の發達を奬勵してゐるのだ。特に英國が國土防空に就て頭を惱ましてゐるのは本土と領土間の交通連絡である。大戰までは主として水上艦船、殊に輕快なる巡洋艦と、世界に冠絕する優秀商船によつて目的を達してゐたが、現在の如く航空機の發達と價値が認められるやうになつてからは、英國と雖もいつ迄も艦船の力のみに賴る譯にはいかなくなつた。即ち十數年前までは主として飛行船政策を採らうとしてゐたが、かの「R一〇一號」の災厄以來、飛行船政策を一先づ中止し、最近はこれに代ふるに巨大飛行機を用ふることにしてゐるのだ。

【文化篇】

宗教

世界大戰と宗教　歐洲大戰は、人類の歴史あつて以來の最も大仕掛な共喰ひであつた。いふところの基督教國民が、年來彼等の誇りとしてゐた文明の假面を、臆面もなくかなぐり捨てゝ、さながら野獸の如き鬪爭に精根の限りを盡したのであつた。彼等が信ずる神、萬能の神は、敵と味方に分れた基督教徒の二大陣營に於て、唯敵軍を擊破するための神として、盛んに蟲のいゝ祈願を聞かされたものである。英國軍は勿論「神よ、吾等をして獨逸軍を擊破せしめ給へ」と祈り、獨逸軍もまた負けず劣らず「神よ、吾等をして聯合軍を敗らしめ給へ」と祈つたのである。宗教は時としては、それ程莫迦氣た役割さへも演じる。それ程濫用され、輕蔑される時さへあるのだ現代の科學が、宗教の本質的價値に對して、深い疑惑を持つのは全く無理もない話である。止まるところを知らぬ科學の進歩の前に、宗教が何時までその牙城を支へることが出來るか、これは

たしかに全く人類を通じての最も興味ある問題に相違ない。

然し、この興味は、未來に約束された興味であり疑問である。宗教の實體が何であらうと、またその本質的價値がどうであらうと、過去から現在にかけて、宗教が人間個人の生活、社會國家生活に及ぼした深大な影響に至つては、嚴然たる事實として、人類歴史の少なからぬ部分を占めてゐるのである。これを英國民の生活と文化の上に見ても、英國の宗教は英國特異の形式と內容と傳統とによつて、極めて重要な役割を演じて來たのである。英國の社會と思想とを知らうとするには、先づ英國の宗教が如何なる形態を有するかを知らねばならぬ。

國定宗教制度　英國の宗教の特異性は、それが極度に英國化されてゐることである。一面では傳統と舊慣の維持存續に努めながら、而も他の一面では、極度に自由主義を尊重してゐる英國、その英國國民が如何に宗教上の傳統と舊慣との維持存續に努めてゐるかは、英國が未だに國と同定宗教制度を保持してゐることによつて證明される。他のあらゆる基督教團信教の自由を認める時に、國定宗教制度を撤廢してしまつたに拘らず、英國だけは依然として嚴然たる該制度を保持し、近い將來に於ても到底これを撤廢しさうにもない。

國定された宗教、即ち英國の國教は、新教のプロテスタント・エピスコパル・チャーチである。この國教を創設するに至るまでは、英國もまた嘗て大陸に起つた宗教改革の潮に乘つて、舊教の本山たるローマ法王廳に向つて、叛旗を翻へしたのである。そして一五三四年から一五五八年まで、ヘンリー八世、エドワード六世、メリー女王、エリザベス女王等四代の間に、完全にローマン・キャソリック即ちローマ法王廳の羈絆を脱したのである。

國家最高の支配者は皇帝　英國國教の最高支配者は誰かと言ふに、それは英國皇帝である。即ち皇帝は大僧正及び僧正の缺員を任命する權利を持ち、更に内閣總理大臣と共に副僧正及び牧師等を任命する權利を持つてゐるところに特色がある。さうした關係と、皇帝と内閣總理大臣とは、舊教の信者であつてはならないのだ。

皇帝の任命する大僧正（アーチ・ビショップ）（大監督）は、イングランドとウエールズを通じて三名、外に四十六名の僧正（ビショップ）（監督）と二十九名の僧正補とがあり、その下にて三十二名の僧正（デーコン）代と百十名の副僧正とがあるのだ。以上が支配者の機構である。

然しこれ等の支配者は、最初の國教會會議から、最後に下院によつて決定された事項以外には

絶對に自由の行動を取ることは出來ない。これは宗教の政治的進出を阻止するためであるが、政教の一致を認めながらも、かうして宗教に掣肘を加へてゐるところは、流石功利主義の本家であることを感じさせる。

對立する自由教會　斯くの如く英國には十六世紀以來の嚴然たる國教があるが、然し國教を以て國民の信仰を束縛するやうなことはしてゐない。信教の自由は完全にこれを認めてゐるのである。現在國教と對立して最も勢力を有してゐるのは、「自由教會派」（フリー・チャーチス）であつて、教派と教會の行政に就ても頗るデモクラチックな組織を採つてゐるのだ。「自由教會派」（フリー・チャーチス）の重なるものは、長老派（プレスビテクリアン）浸禮派（バプチスト）、組合派（コングレゲーショナル）、美以派（メソディスト）等であつて、英國に於ける基督教徒の約半數は、これら「自由教會派」に屬してゐる。

これ等宗派の外に、主として貧民階級に對する布教と救濟事業を目的とする特殊宗教團體に救世軍がある。救世軍は美以派の牧師ウイリアム・ブース（一九一二年死去）の獨力によつて創立されたものであつて、逐年發展し、現在では世界各國に有力な支部を有し、その活動は世界的である。組織は總て軍隊式に準じ、英國内のみでも三萬一千八百の士官を有し、約五十七萬の禮拜

所を有すると言ふ活躍ぶりである。

英國宗教の左右兩派　これ等の各宗派を思想的に見ると、舊教と國教派とは右翼的色彩が濃厚であつて、これに對峙して左派の位置を占めてゐるものに、クエーカー派と言ふのがある。最近の調査によると、クエーカー派は、英全國を通じても僅か二萬一千餘名に過ぎないが、その少數に反比例して、彼等の精神的並に社會的活動力は頗る旺盛なるものがある。この宗教は、屢々、他の大宗派に對して指導的位置を占めたことがある。その事蹟を見ても、十八世紀當時、英國に於て敢然奴隷反對運動の口火を切つたジョン・ウーマン、基督教社會主義の創始者たるジョン・ベーラス、刑務所改革の先覺者エリザベス・フライ、小學校の創立者たるジョセフ・ランカスターの如き、何れもクエーカー派の輩出した人物である。

この左右兩派の中間にあつて、獨自の地位を獲得してゐるのが前述の「自由教會派」なのだ。「自由教會派」の中でも、就中他派を制へて大なる勢力を有してゐるのは、美以派であつて、創始者ジョン・ウエスレーの偉業を繼いで、大衆の間に基督教精神を鼓吹することに盡力してゐるのである。この美以派は何等國家から援助も受けず、教會から街頭に進出して大道演說をやつた

り、日曜學校、聖書研究會のやうな組織を樹て、一方矯風事業、禁酒運動に着手し、監獄や病院に於ける布教の必要を認めて逸早くこれに着手したのも、總て美以派である。この美以派の現實的、大衆的精神を更に强烈に無產階級に投げかけたのが、前記の救世軍であつて、言ふまでもなく、この美以派から派生したのである。

內容より組織　英國宗教界の現狀は大略右の通りであるが、次には各宗派に共通する英國宗教界の特質、換言すれば宗教に對する英國國民の態度に就て、二三の特異性を擧げて見よう。

元來英國宗教界の特質の中でも、最も根幹となるものは、教會中心であることだ。他の基督教國殊に歐洲諸國の新教國民にとつて、最大關心事は、教條乃至宗教である。例へば獨逸に於ける宗派の分裂抗爭は、主として宗教に關する論爭の結果招致された如く、歐洲大陸の新教徒は、宗教そのものを頗る重視する傾向を有してゐる。

尤も、直接、人間の精神生活と結合すべき宗教の個人主義的な本質から見ても、歐洲大陸に於ける新教の傾向と、信徒の態度は、彼等にとつては當然の歸趨と言ふことが出來る。ところが、英國民は宗教を單に個人の精神生活を結び付けて置くばかりでは滿足せず、ひとり靜かに神を祈

ると言ふ宗教の神秘境よりも、衆と共に神を祀る教會の集團的な行爲と環境に、より多くの宗教的愉悅を見出してゐるのである。英國の宗教が教會中心である所以は、かうしたところにあるのだ。だから英國民の宗教的關心事は、主として教會の組織や權限や活用等にあつて、教派の教修や、宗義に關する諸問題は、彼等の宗教生活に於て第二義的なるものであると言ふことが出來る從つて宗教の教義その他に對する深刻な批評や、獨創的な研究等と關しては、獨逸のそれに遠く及ばない。たゞ教會の組織の完備、教會の外形、社會的活動に至つては、他の基督教國民の企及し得ざる點まで達してゐるのだ。

產制を認める宗教會議　英國の宗教界が前述の通り、彼等の信ずる宗教の精神を社會的に具現しようと努めると同事に、他の一面に於ては、不斷に社會國家の現實の動向に着目し、これを批評し指導しようとする活潑な態度は、これまた英國宗教界の持つ顯著な特長である。英國の基督教社會主義に負ふところ大なることは、世人の認めるところである。而かも現在にあつても、この特長は少しも衰へてゐない。最近のランベス會議に於ても、英國の社會問題と見做されてゐる產兒制限問題に就て、國教派は態度を明らかにし、「產兒制限と雖も、これを行ふものゝ動機如何によつて一概に非難することは出來ない」と聲明した。產制は現今の歐米に於ける家庭的常習とまでなつてゐるが、オランダを除いては、これを公認してゐる國家はないのである。勿論宗教界では、一般に產兒制限を以て非基督的行爲と見做してゐる。ランベス會議はこの避け難い現世紀の社會的現實象を現實の立場から批判して、これにある程度の許可を與へてゐるものと見ることが出來る。

社會現象に關心　一九二四年バーミンガムに開かれた「基督教徒の政治經濟道德に關する會議」は國教派、非國教派の代表者を主體とした大會議であつたが、同會議はその名稱が示すやうに、英國民の政治、經濟、道德に關するあらゆる重大問題、離婚、賣淫、賭博、飲酒、映畫、死刑制、賃銀、銀行國有、國家主義と戰爭の諸問題を極めて愼重に、決定的に論議したのであつた。同會議は經濟的資本主義を以て非基督教的存在として排擊し、資本の漸進的固有、最低賃銀制の確立、富の偏在の防止を主張してゐる。更に政治的には徹底した政治教育に基礎づけられた民主主義を以て國家の最高形態とした。尙植民地に於ける搾取的政策や、植民地の歐化政策を非難し、戰爭防止を主張とするあらゆる團體を支持すべきことを決議した。英國の宗教團體が、かうして社會

現象に常に關心を有し、常にこれと共に歩調を共にする點は、他の基督教に見られない進歩的傾向である。

宗派分立割據の苦惱　人類が佛教、基督教、回回教といつた如く、幾つもの宗教を持つことは宗教の發生と發達に伴ふ自然の趨勢であり、更にそれ等の主なる宗教から、更に幾つかの宗派の派生することも、また止むを得ない現象である。

だが、現在の英國の如く、宗教が一つの公共團體として、社會的に國家的に活動しようとする場合には、宗派の多數なことは結局種々な障碍を招くことになる。この意味で、英國宗教界の第一の憾みは、宗派の多數といふことであり、玆に當然の歸結として各宗派の合同問題が叫ばれる所以である。事實、過去三十數年來、各宗派の指導者は何れも合同の必要を痛感して、不斷の合同運動を續けて來たが、目下の場合、早急な實現性は殆んどないと言つてもよい。たゞ、國教派非國教派が稍歩み寄つたのは事實である。

宗教よりも現實的享樂へ　宗派の多數と、それに伴ふ合同問題は、英國宗教界の內面的苦惱であるが、それ以上、當面の問題としての焦燥は、一般社會特に青壯年間に横溢する非宗教的な寡

圍氣である。この傾向は世界大戰以來、特に大都會に於て、日一日と濃厚になりつゝあるのだ。青年の大部分は、最早基督教國に共通する日曜の禮拜といふ古來の習慣に背を向けてしまつた。彼等は緣の遠い教會に詣る代りに、青年にふさはしい現實的な享樂に突進した。僧侶志願の青年が、年々激減して行くことは、さうした非宗教的傾向を反映する一つの現象である。

それのみか、勞働者階級では、公然反宗教的態度を表示するものが尠くない。何が斯る傾向を釀成したか、英國の宗教界が、機會ある毎に、社會國家の諸問題に對する檢討を續けてゐても、宗教そのものゝ無力は、到底複雜多岐な諸問題を明快に處理することは不可能と見てもよい。功利主義にもつて特色づけられた英國の宗教界が、今後の混亂した社會を、如何に泳ぐかは頗る興味ある問題と言ふべきであらう。

藝術

フロイド主義の流行　世界大戰は英國の各方面に種々の變化を與へたが、文學の上に於ても著るしい影響を及ぼさずにはゐなかつた。それはブルジョア文化に對する反抗精神となつて現はれ

人道主義や社會主義の思想に結び付いて小說に反映された。更に大戰は人々の意識に革命を與へ異常時意識、病的意識が問題となり、フロイドの精神分析がそれを解說し、人間に何等か新らしい精神生活の基礎を與へるやうになつた。從つて精神分析學は、性格描寫の新方面と、病的人生の新らしい研究を提供したのである。ジエームス・ジョイス、ディ・エイチ・ローレンス等は、この方面から小說界に新領土を拓いた先驅者である。同時に女流作家がこの方面にも多數進出したのは注意すべき現象である。而もそこには嘗ての華やかな幻影や、美しい理想等を認めることは出來ない。寧ろそれと反對に、目標を失つた、理想のない、無信仰若くは幻滅の空氣が漲つてゐるのだ、これは政治的、經濟的情勢の然らしめるところである。事實、英國の現在は、懷疑と無信仰の時代であることは否定できない。

如上の雰圍氣を主材として精神分析學派の作家は、個人の內面生活に深く突入して、そこから新しい人生を汲み取らうとしたが、結局分析に終つて綜合統一がなく、一種の神祕主義、若くはアナーキズムに沈湎したが、この傾向は英國の小說界に相當持て囃されたのである。作家の多くは多少に拘らず、これに魅力を感じ、秋波を送つたのは興味ある趨勢であつた。いまフロイド主

義を奉ずる代表作家ジョイスとローレンスとを紹介してその作の概念を述べよう。

極端なる性慾描寫　ジョイスはアイルランド人特有の詩人的空想と詩的表現とによつて、ダブリンの比較的下層階級の日常生活を斷片的に描いた「ダブリンの人々」で認められ、「青年としての藝術家の肖像」に次いで「ユリシーズ」を現はすに及んで、一躍文名を馳せるに至つたのである。「ユリシーズ」は性慾描寫があまり露骨なため、英國では出版することが出來ず、パリーから發行された。內容は一晝夜に於ける男女の生活に過ぎないが、作者は無意識の働きこそ、本當の人間を表はすものだと言ふフロイドの理論を奉じて、二人の人物の頭の中に動く潛在意識の流れを描いたものである。勿論この作には事件の發展とか、筋の統一等の在來の小說手法は全然問題となつてゐない。思想感情の媒介である言語さへも新められて居る。とにかく今日までの一切の人間的概念を超越した意識の流れを描いたもので、單に英國の文學界のみならず、世界に精神分析學派なる一生面を拓いた作家である。

ローレンスは初期の作品「息子と戀人」に於ては炭抗夫の家庭を描いて、自然發生的なプロレタリア小說の風調を漂はせて居たが、彼も次第に方向を轉じて「虹」（風俗壞亂で發禁）以後の作

では、男女の性慾闘爭、超感覺的な男女の心理的葛籐などを、精神分析學的手法で描き出す作家となつた。彼の見解によると、現代人の不幸は性的不滿、歪曲乃至無視から來て居る。その意味で性的革命が社會革命よりも必要だと言ふのである。性的事實は決して祕すべきものでなく、日常の食事の如く公開的たるべしといふのが彼の持論であつたので、舊觀念を脱し切れない上流社會のものからは嫌忌された。從つて彼の評價は毀譽褒貶相半ばし、あるものは彼を以て小說界の革命兒であると評したが、他の方面では、彼を墮落した作家と稱して居るのだ。

何れにしても、彼はジョイスと共に、小說界に一新機軸を出した革命的作家として後世に殘ることは確である。

女流作家と性の問題　最近の英國文學界には、男子と比肩し得る女流作家の相當に多いことは注目に價する。ヴァージュア・ウールフ女史などはその錚々たるものである。その他ホール・シンクレア、スミス、ウエスト、メイネル、リチアドスン、デイラフイルド、マーコレー等と枚擧に遑がないほどである。ウールフは長篇に於て最も特徴を現はし、新進のラドクリフ・ホール女史は女性の同性愛を描いた「淋しき井戸」を出して道德界教育界に問題を惹起したものである。

最近一般の女流作家が、男女關係その他の性的事實に深い關心を持つて居るのは、單に文學の上のみでなく、社會的にも押進められて居る。イセル・マニン女史の如きは、結婚前の男女關係は夫婦生活の訓練だとさへも極言して居る位だ。女史の未婚男女の亂行を描いた小說「告白」は世論を沸騰させるに充分であつた。

その他先年物故したペニットはジャーナリズム方面から重寶がられ、廣い讀者層を有して居たし、ギルバート・フランコー、ダヴリュー・ロックケニディ等々が有名である。

戰後の不況と演劇　次に劇の方面は如何と言ふに、大戰中はロンドンの劇場は常は大入滿員であつたが、次いで起つた戰後の不況は、流石のロンドンの劇壇も忽ち火の消えたやうにされた。劇場の賃貸料は上る反對に、收入は激減し、その上、トーキーの進出が、演劇の領域を盛んに侵蝕した。

戲曲家の顏觸も勿論戰前と變つたことは論ずるまでもない。そのうちでも最も脚光を浴びたのは、エドガア・ウアレースの作品である。彼は小說家としても、あらゆる階級に聲望を有して居る兩刀使ひである。ノイエル・カワードも好評嘖々たる人氣者である。彼の「ベッター・スウキ

ート」などは六百日近くの興行を續けた。

近代の當り屋　然し何と言つても近代の當り屋はR・C・シュリツフであらう。彼の戯曲「旅路の終り」は最初にバアナアド・ショウによつて一蹴され、次でロンドンの多數の興行師に峻拒されたが、一九二八年の末アポロ座で試演された第一日に、忽ちその眞價をモーリス・ブラオンに認められ、翌年一月から、サヴオイ座で本式の興行を見ることになつた。その結果五月まで續演し、十數ヶ國の國語に譯され、各都市で上演された。(日本でも先年築地小劇場の手で公演されたが、こゝでは大して評判はよくなかつた)

このほか大入りを取つたものにアイルランドの二作家がある。一人はセント・ジョーン・エルウインで、その作「最初のフレーザア夫人」は大した傑作ではなかつたが、三年越しの興行を打ち續けることが出來た。いま一人はシエン・オーケシーで「ジュノーと孔雀」「鋤と星」とで知られてゐる。ロンドン劇場では唯一のプロレタリア作家で、勿論一般向きでないが、相當な興行價値を認められた。

バアミンガム・レバアトリー座　演劇に關して書き洩らしてならないのは、サア・バアレーッジ

ヤクソンのバアミンガム・レバアトリー座のことである。これはジヤクソンが今から三十年前、素人俳優として斯道の研究に究め、五年間の苦心を經て後に創立した劇場であるが、今日では英國に並びなき進歩劇場となり、爾來三百以上の劇やオペラを上演し、常にあらゆる國々の劇壇にまで新しい觸手を伸ばしてゐることである。一九一九年にドリンクウオーターの「アーブラハムリンコーン」を携へてロンドンに大成功を贏ち得てから、遂に全英國の最も進歩した興行師になつてしまつた。即ち彼は興行にかけても異常の天才であつて、その後コート座で上演したエデンリボツトの「百姓の女房」は一千三百日の大入續きをした位である。このバアミンガムの劇場の大進出は、英國各都市の好劇家を刺戟して、同樣の企てを各所に起させるやうになつた。最近の調査によると、英國演劇聯盟の統率の下に出來て演劇團體は、二千を突破し、昨年一年間のみでも、百九十團體を增加したと言はれてゐる。

映畫の文化的使命　次に英國に於ける現在の映畫の情勢を窺ふことにしよう。元來映畫の特性は、その情緒的、或は智的機能を社會生活に働かせる點にあるべきであつたのに、映畫の發生と同時に、主として卑俗なる映畫商人に利用を全權を掌握されてしまつた。こゝに於て映畫はあま

りに企業的にのみ考へられて生長して來たのである。

英國の映畫は正にその典型的なもので、世界大戰までは、英國は全世界の映畫市場として最も盛大な映畫の中心地であつたのだ。だが、大戰後、米國が經濟界の覇王となるに及んで、映畫業の實權も共に米國に奪はれ、英國の斯界は哀れな狀態に轉落してしまつたのである。

そこで、英國の斯業者は業界再興の必要に迫られ、同時に漸く映畫の持つ文化的政治的、宣傳力に氣づき、映畫によるアメリカニズムを排斥して、英國主義の宣傳に供すべしと說くものが現はれ、こゝに覺醒運動が開始されたのである。

政府の援護　當時英國の映畫市場に集るものゝ八割は米國映畫によつて占められ、英國の映畫は僅に一割强にすぎない有樣であつた。この現象を見て當業者は勿論、政府自身でも何とかしてこの數字を置き換えなければならぬことを痛感し、種々對策の結果、遂に考案されたのが「クオータ法」である。この「クオータ法」と言ふのは、一種の保護政策で、外畫輸入の制限、自國映畫の上映奬勵を根本目的としたものである。卽ち一九二九以降一九三八年に至る十ケ年間、映畫取締業者は、その取扱ふ映畫の一割乃至二割を、必ず國產映畫を以てすべきこと、同時に映畫興行

者は上映映畫の七分五厘乃至二割を必ず自國物にすべきことを制定された。

かうした政府の積極的態度によつて、英國の映畫界は大いに刺戟され、資本も活潑に動くと共に、米國及び獨佛等より續々監督、俳優等を招聘したので、今まで保守的空氣に沈滯してゐた英國の斯界も俄かに生氣を呈し、更にトーキーの流行となるに及んで、全世界の五分の一の土地で英國を使用される强味を加へて、こゝに鋭意舊態を一掃することに努めるに至つたのである。

米國に次ぐ映畫網　最近の統計によると、英本國の有する常設館は五、四二六。濠洲の一、五〇〇、カナダ一、二〇〇、ニュージーランド、南阿、印度を通算すると、英帝國の有する映畫館は約九千七百館の巨數に上つてゐる。勿論、米國の三萬には遠く及ばないが、何れにしても米國に次ぐ繁榮振りである。

これ等の常設館は設備の上から言つても、經營の方法から言つても、大體米國のそれと殆んど變りはないと言つてもよい。ロンドンの映畫館は、すべてニューヨークの映畫館を模倣してゐるのである。

館內の奇妙な情景　ロンドンでは目ぬきの場所であるピカデリー・サーカス、こゝが映畫館の

中心であつて、華麗を極めた館が電飾に輝いてゐる。エムパイヤ、カピトル、カアルトン、ニユウヴイクトリア、プラザ、リガル、ストール、ティヴォリ等の一流常設館だけでも二十以上もある。入場料は最低六ペンス、最高六シリングで、興行時間は三時間内外である。

日曜は宗教上の慣習で、日本と反對に興行の回數を減らしてゐる。地方へ行けば全然日曜に興行しない場所もある。見物は流石英國人だけあつて、他の歐米に比較すると靜肅なのは感心である。パリーやニユヨークの映畫館のやうに、戀人同志が抱き合つたり、接吻しながら映畫を見るやうなことはしない。たゞ我々が最も異樣に感ずるのは、興行が終ると、全員は起立する。そして莊重な音樂が英國々歌を奏するのに對して、脫帽して敬意を表し、徐ろに退場することである。これは常設飾ばかりでなく、劇場、ダンスホール、總てに見られる現象なのだ。

古風な英國映畫　ピカデリーの盛り場に並ぶ映畫館の看板を見ると、どれもこれもアメリカ映畫ばかり大きく廣告されて、英國の映畫はお添物のやうに、合間々々に上映されるばかりで、一向見榮えがない。事實、英國の映畫は內容と言ひ、扱ひ方と言ひ、到底世界を濶步出來る品物ではない。然らば何故英國の映畫が、そんなに詰らないか。一言にして言へば英國映畫が國際性に

缺けてゐること、映畫俳優が餘りにも古風な型に囚はれすぎてゐるためである。

大體映畫の國際性といふのは、何れの國民が見ても、取扱つた主材がよく了解され、興味のある問題を提供するところにある。然し英國の映畫は大部分非國際的な、一知半解の映畫が多い。その上俳優の演技は古典的で、動作も緩漫を極めてゐる。これは映畫を愛するものが、一般に明快なテムポの早い表現を求めるのと正反對の立場にあつて、明らかに英國映畫にとつての損失である。勿論當業者もこれをよく知つてゐるので、大衆の要望を滿たすべく、輕い現代風のものを製作しようと努力はしてゐるが、その結果は、全く米國映畫の模倣に墮し、救ふべからざる惡映畫になつて發表されることが多い。心中侮蔑し切つてゐる米國風を眞似て好結果の出來ないのは當然の歸結である。

滑稽な檢閱官の頭　英國に於ける映畫の檢閱は比較的嚴重で、大略成人向きと、少年少女向きとに差別してゐるが、ソヴエート・ロシア映畫や新傾向の映畫に對しては、可成り嚴重な態度を取るので、常に問題を起してゐるのだ。一方、失業者を取扱つたものに對しても、當局は非常に神經を尖らせ、單に都會のルンペン生活を描いたものに就ても上映を禁止する場合が多い。而も

許可を與へぬ理由として、この種の映畫が地方で上映された場合、都會が失業のルツボと考へられて、若い女性の都會集中が減つた場合、忽ち都會は女中難に襲はれる懸念があるといふのである。檢閲官の頭と言ふものは、どこの國も一方に偏してゐて、融通の利かないものだが、とりわけ英國の檢閲官と來ては話にならないらしい。

要するに英國の映畫は未だ世界に誇る域には達してゐない。それはより以上文化的に躍進する必要かがあるからである。

思　想

個人主義の强靱なる力　英國の國民が、傳統の精神である個人主義を尊び、自由主義に生きたことは既に機會のある度にも述べて置いたが、それに就て改めて發達の過程を探ることにしよう元來、英國人は社會も國家も、その形成と發達と存續とは、總て各個人の活動によつて招來されたものと信じて來たのである。この信念は古往今來英國の社會及英國人の生活とを一貫して流れる特異な觀念である。

この個人主義が彼等の生活の基調をなしてゐたればこそ、所謂自治制度はアングロ・サクソンの社會に於て、他に比類なき發達を遂げたのである。更に個人主義に伴ふ自治制度の訓練と發達とは、英國の植民政策を今日の成功に導いた重大な要素の一つであつたのだ。カナダにせよ、濠洲にせよ、ニュージランドにせよ、その居住民に自由獨往の精神と、それに伴ふ自治的訓練とが缺けてゐたならば、到底今日の如き發達を見ることは出來なかつたであらう。これ等の自治的植民政府は、究極に於て英國の支配を脱し、純然たる一國家を形成するに至るかも知れない。然し、さうした政治的の現象の如何に拘らず、アングロ・サクソンの形成する社會に於ては、この個人主義を基調とする動向は容易に消滅しないものと見てよい。

今これを一九二九年の總選擧に就て見ても、國民の意志が如何に反映してゐるかを知ることが出來る。當時勞働黨が第一黨となり、第二次勞働内閣が組織されたのは、英國勞働階級の政治的勝利を意味するものであつた。然し一方、各政黨の得票數を見ると、保守黨が八百六十六萬九千四百六十九票で第一位、勞働黨が八百四十一萬六千九百五十七票で第二位、自由黨は選擧區制の關係で、議席の獲得數こそ五十八（勞働黨二百八十七、保守黨二百六十）にすぎないが、その得

票數は五百二十六萬百五十票に及んで居る。今、保守、自由兩黨の得票合計を調べると、千三百九十三萬餘票となり、明らかに反勞働黨の意志を示すことになる。殊に貴族と資本家の牙城たる保守黨に向つて投ぜられた票數が八百六十萬に達すると言ふことは、英國の社會に於て傳統的色彩なる保守主義が、今なほ如何に强靭な根を張つて居るかを示す絶好の證左でなくてはならぬ。

然しかうした英國の保守主義が、もし頑迷不戻なもので、時代の變化、時勢の流れに無關心であり無理解であつたならば、それは疾の昔に滅びて居たことゝ思はれる。だが、英國の保守主義といふものは、時勢の尖端よりも稍遲れることがあつても、常に時代と共に大勢に追隨し、萬一の場合には自由主義、進歩主義と握手し、妥協することの出來る融通性を持つて居るのだ。この保守主義を如實に具現して居るのが、英國の社會の誇りとしてゐるジエントルマンの存在である

ジエントルマンの意義　このジエントルマンの由來は古いが、その定義なるものは頗る漠然としてゐるのである。恰も英國の憲法が、最初政治の項で述べた通り、長い歴史を有してゐながらも、今尙ほ成文の條章を具備してゐないのと同樣であるが、强ひて定義づければ、ジエントルマンとは、そんなに有名ではなくとも、相當の恒産ある良家の出身でなければならぬ。その上、教

育、慣習、社會的地位等によつて洗練された美しい品性の持主であれば申分はない。英國の法律では、「尊敬すべき人物にして、無職、乃至は利得を目的とする常習的職業を有せざるもの」と解釋してゐる。

その意味で、家柄が相當であつて、恒産があり、教養のある有閑人と見て置けば大體誤りはない。所謂ジエントルマンは、一面に於て中世紀の騎士的精神に負ふところが多い。寛容で而も弱きを扶け强きを挫くと言つた騎士の俠勇は、ジエントルマンによつて最も多く繼承された。かうしてジエントルマンは次第に社會の尊敬を受け、遂に英國に於ける社會人の基礎的資格を意味するに至つたのである。英國の如何なる社會的分野に於ても、その指導者たらんとするものは、少くとも自他共に許すジエントルマンでなければならない。英國の社會人に共通する紳士的態度が時としては他國人に僞善的の眼を以て見られてゐるのは、英國に於けるジエントルマンの重要性が解されてゐない場合か、或は紳士的態度が往々にして度をすぎた場合に起る批評であらう。

このジエントルマンの重要な資格の一つが、豐かな教養にあることは既に述べた通りであるが裕福な家庭にのんびりと育つた彼等は、その教養を積むことには、何の不自由も感じない譯であ

る。彼等は悠々として、ケンブリッヂ大學かオックスフォード大學で、一般市民の及び難い教養を積むのである。直接、現代の英國の文化と何の關係もないと思はれるやうな古典の研究と修得こそは、ジェントルマンたるべきものに課せられた重要な課目であるのだ。保守黨の總裁であり現政府の首腦ボールドウインは、製鋼業と政治の外に、古典に精通し、幾度となく、これの講演を試みてゐる。グラッドストーンが神學と古典に造詣の深かつたこと、先年物故したバルフォーア伯や、ハルデーン卿が、政治家であると同時に哲學者であつたことは、英國の指導的人物がその天職以外に、一個の人間としてそれ〴〵獨自の教養を積んでゐることを示すものである。いはゆるジェントルマンは、さうした教養を意味するのだ。

そのためジェントルマンと言ふものが、恒産ある上に、かうした教養がある以上、彼等が英國の社會に於て指導的立場を得たことは決して怪しむに足らない。而も教養あり、恒産あるジェントルマンが、その思想と行動の基調に於て、保守的であり、最大限度に於て自由主義、漸進主義修正主義の範圍を出ないことは當然の歸趨であらう。從つて英國民はその社會の最大特色たる保守黨の存續は、これ等ジェントルマンの負ふところ最も大なりと言ふことが出來るのである。

舊慣と傳統の遵奉　英國民が現在でも保守主義に執着する一例として、既に總選擧に於ける保守黨の勢力を記したが、更に二三の興味ある例證を擧げて見よう。英國の內閣にはランカスター公領尙書と言ふ官職がある。ランカスター公領と言ふのは、現在なくなつたが、傳統を尊ぶ英國人は、その官職の形骸を殘して、その位置に內閣の無任所大臣を置き、政治的にも極めて有用な機關として居るのである。

更に奇異な現象は、現今のロンドンの中心にあるロンドン舊市（地域六百三十八エーカー、卽ち一平方哩弱）が、アルフレッド大王時代から今日に至るまで實に一千年に亘る永い間、昔からの市制を今に保持して居ることである。この舊ロンドンと言ふのは、地域的に考へれば、全く歷史的の存在にすぎず、晝間はロンドンのビジネス・センターとなつて居るが、事實その場所に住んで居る市民は三萬人足らずである。にも拘らず、そこを特別の自治體をして、一年毎に改選される市長には、官公吏としての最上の待遇（交際費十萬圓）と敬意を拂つて居るのだ。これを見ても、如何に英國民が傳統を尊ぶ民族であるかゞ窺知されよう。

理論よりも經驗　英國の社會に橫溢する保守主義は、原則として急進的、尖端的であるべき筈

の勞働運動にも至大の影響を及ぼして居るのである。一つには英國の勞働運動の發生が、基督教社會主義に負ふところが多いためでもあらうが、それ以上に重大な原因は保守的でその上實際的な英國社會の環境の力が影響してゐるのである。尤も英國でも一九二六年には劃時代的な、大規模の總同盟罷業も行はれた。然し英國勞働運動は、その基調が頗る健實であつて、あゝまで合法主義、漸進主義に進むことを常例としてゐる。然しストライキのあつた翌年、一九二七年から、今日まで英國勞働組合年次大會の度毎に、極左派から提出される「吾等の時代に於ける社會主義の實現」と言ふ決議案を一蹴して、英國産業の振興と勞働階級の福利のために勞資協調の必然性を高調してゐるのは、英國の勞働界が如何に漸進主義、功利主義、合法主義的態度であるかを最も雄辯に物語るものである。

殊に一九三〇年の大會でも「自由貿易主義を偶像的に擔ぎ廻ること」の愚を排し、英帝國を、一の經濟單位として、自給自足を計らねばならぬことを決議したことは、英國の勞働階級までが國家と社會とを如何に現實的に正視してゐるかを示すものである。

かやうに現實を正視し、理論より經驗に重きを置く生活上のプラグマチズムは、自由主義、個

人主義と兩々相俟つて、英國の國民性の最も特異にして堅實な一面を代表するものと言はなければならぬ。

英國に於ける赤化侵蝕　然しかうした英國の社會にも、全然過激思想の入る餘地なし、とは言ひ切れない。否、赤色の魔手は、今や堅實な英國の國民を侵蝕しやうとしてゐる。それは言ふまでもなく、コミンテルンの暗躍である。今、コミンテルンが、如何に恐るべき觸手を伸ばしてゐるかを概記しよう。

英國に於けるコミンテルンの赤化工作が波瀾を捲き起した例は枚擧に遑ないが、そのうち世界を震撼させた歴史的事件が二つある。即ち一九二四年一月二十四日、大戰後に出現したデモクラシー思想の黄金時代の波に乘り、英國では政治史上最初の勞働黨内閣が組織された。この内閣の主班に立つたマグドナルドは、就任と同時に内治外交に一大刷新を施し、國内並びにヨーロッパの社會的政治的不安を一掃しようと試みたのである。そして特に外交方面では英佛關係の整調ル問題の解決工作、英伊友誼關係の增進、英ソ國交更新等見るべき事績を擧げた。

勞働黨内閣崩壞の原因　かくて同年八月、締結された英ソ條約は、代表的資本主義國と、共產

國の握手だけに、世界の注視を集めずには措かなかつた。然るにこの英ソ關係の好轉に乘じて、赤色の魔手は一大暗躍を開始し、遂に光輝あるマグドーナルド内閣は、組閣後僅か十ケ月足らずで總辭職するのやむなきに至つた。

その發端は、同年十一月二十五日ロンドンの諸新聞紙が所謂「レッド・レター」の内容を發表し、コミンテルンの對英赤化陰謀を暴露し、英國民に一大ショックを與へたことにある。言ふまでもなく、これはコミンテルンの議長ジノヴィエフが、英國の共産黨に宛、革命によつて資本主義制度を顚覆するため、英本國及び植民地に並に英國陸海軍部内に於ける赤化宣傳を强化すべしといふ秘密指令であつたのだ。

元より前記の英ソ條約第十六條に於て、ソヴイエット政府は、英國の内政に一切干渉しないこと、並にソヴイエット政府の直接、間接の管理下にある團體の對英宣傳を禁ず旨誓約したのであるが、條約締結の翌月、早くも違反行爲を敢てしたのである。右のジノヴエフ書翰は十月十日英國外務省の手に入り、極力祖密にしてゐたのを、デイリ・メール紙がいち早く探知するところとなつたので、英國外務省も右の書翰及び抗議文を發表するのやむなきに至つたのだ。その結果マ

グドーナルド首相は、政敵から「共産主義者！」「賣國奴」と惡罵され、上下の囂々たる非難を浴びて遂に總辭職を餘儀なくされたのである。當時ソヴイエット政府は、該書翰を僞造であると聲明したが、その後パリ駐在のソヴイエット代理大使の發表した曝露論文によつて、その眞實なることが確證されたのだ。

英ソ國交の斷絕　第二の大きな歷史的事件は、一九二七年英ソ國交斷絕に至らしめたアルコス事件である。コミンテルンの對英赤化工作は、前記の事件後一時頓挫した形であつたが、その後一九二五・二六年と年の進むにつれて、再びその鋒鋩を各方面に現はすやうになつた。當時外相の地位にあつたチエムバーレンは、ロンドン駐在のソ聯外交代表を通じ、モスクワ政府に對し、英國に於ける赤化工作運動の禁止を嚴重に通告したところ、ソヴイエット政府はあくまで責任を回避するばかりでなく、却つて長文の回答を送つて反擊の態度に出た。

茲に於て英國政府もソ聯との外交交渉を斷念して綿密な調査を行つた結果、コミンテルンのかうした攻勢的な活動の黑幕は、必ずロンドン市内に潛在するものと見込みを付け、遂に市内にあるソ聯通商代表機關事務所に當てられてゐる「アルコス」を嚴重に搜索したところ、多數の有力

な赤化宣傳材料を押收することが出來た。勿論、この時もソ聯は、英國政府の嚴重な抗議に對して恬然反省するところがなかつたのである。

かうして數年來コミンテルンの赤化宣傳に手を燒き通して來た英國政府は、赤化の根本的絶滅を期するには、國交斷絶による外なしとの結論に達し、五月二十四日下院に於て對ソ斷交の用意ある旨を聲明した。かくて英ソ國係は加速度的に惡化し、遂に翌々日英國下院は大多數を以て國交斷絶を決議し、同時に政府これを中外に發表したのである。

英國共産黨　英ソ國交斷絶によつて、流石執拗なコミンテルンの魔手も、その鋭鋒を發揮するに至らず、一九二九年の兩國々交回復まで大した波瀾はなかつた。然し國交斷絶ぐらゐでは赤化運動を放棄するやうなコミンテルンではないのは勿論である。モスクワ本部は、その支部たる英國共産黨を通じて、着々その野心達成の工作を怠らなかつた。

この英國共産黨は一九二一年に誕生し、宣傳機關としては現にデイリ・ウワーカーを發刊してゐる。現在の黨首領は、書記長たるハリー・ポリットである、一九二一年夏に開かれたコミンテルン第六回大會では、黨員九千を算すと發表されたが、現在では一萬餘に達するであらう。尤も

英國共産黨は、歐洲では特にフランスの共産黨に比較すれば、その政治的勢力は極めて微々たるものである。これは英國がアメリカと同じく代表的資本主義國であるのと、デモクラシーと保守主義を巧みにバランスする國である特殊國情によることは、既に讀者の了解されるところと思ふ。

一九三五年の選擧に於ても、英國共産黨は、僅かに一名の下院議員を選出したにすぎなかつた。

だが、言論と結社の自由が、極めて廣範圍に許されてゐる國であるから、英國共産黨及び傍系機關の活躍は相當組織的であり、街頭宣傳も可なり活潑である。言論自由のメツカたるロンドンのハイド・パークに於ける共産黨主催のメイ・デー其他のデモは、萬餘の黨員及び群集で身動きもならぬ壯觀を呈するのである。從つて、フアツショ團體である英國ブラツク・シヤーツ團員とは、街頭に於て屢々流血の慘事を惹き起す物凄い闘爭を續けてゐる。尙ほ英國共産黨の傍系機關には、英國共産主義青年同盟、ソ聯友の會、モツプル英國支部、失業勞働者運動、勞働者擁護隊等々がある。

以上、概略ながら英國の思想界を紹介し、赤化の魔手の働きつゝあることを述べた。勿論英國の國情として、思想界に急激の變化を來すことは考へられないが、陰險なる赤化工作には、寸毫

の油斷は許されないと思ふ。

混迷の坩堝フランス

【國勢篇】

政治・外交

民族融合の國　美術と音樂の國、葡萄酒と紺碧の海を誇りとするフランスは、いま錯綜した歐洲國際政局の渦中に投ぜられて、混迷の極に達してゐる。このフランスが今後如何なる方向を辿るであらうかは、後章に詳記されるが、先づ最初順序として、この國が形成されるに至つたまでの大略を紹介することにしやう。

元々フランス人は、或る純粹の一人種ではない。彼等の祖先は、溫和なこの國の氣候、肥沃な

土地を求めて移り來つた、幾多の人種の血を交へてゐるのである。彼等がこゝに永住して、互ひに交通するうちに、經濟的社會的に、一つの大なる共同團體として發達し、政治的には、初期の王朝時代から、現在の民主政體へと幾變遷を重ね、茲にフランス國家が成立したのである。即ち現在のフランスは、大體に於て昔時ゴールの名を以て知られた地方である。有史前のことは暫らく問はないことにしても、古代史の上で先づ最初にフランスに入込んだのは南西地方のイベールと東南から移住して來たリギュール人であり、次に來つて大なる勢力を布植したのは北東から侵入して來たセルト人である。このセルトは漸次イベールやリギュールを驅逐したのであるが、南方民族や東方ゲルマン民族との融合によつて、このセルトは本來の特性を甚だしく失つてしまつた。その後ゲルマン民族の侵入、ローマ帝國の建設、封建時代の現出、そしてフランスの祖たるカペチアン王族の天下となるまで、極まりなき史上の變遷はあつたが、大體から言つて、紀元十五世紀頃、百年戰爭後から今のフランスの形が體を備へるやうになり、十七八世紀の初めに至つて、完全なるフランス國家が形成されたのである。

茲に特筆すべきことは、現在のフランスは昔時のゴールの地域全體に達してゐないまでも、幾

時代を經て徐ろにゴール地方に國を建設したことであり、これが獨逸やオースタリーやスペインと大いに異るところである。これ等の國は何れも史上の大變遷、大動亂等によつて急激に國をなしたものであるが、フランスは殆んど人爲的でなく、民族の自然の發達から、時勢の流れによつて現在の國家が建設されたのだ。この點から言つても、フランスは歐洲の他の國に比して、國家としての結合が強固でなければならぬ。それは所謂フランスの革命以來二度の帝政と三度の共和制とによつて證明されてゐる。然し時代は急角度に旋回し、最近のフランスは極度の不安に投げ込まれてゐるのだ。

無力の大統領　現在のフランスの政治は、外交と別個にして考へることは出來ない。それほどフランスの內政と外交とは密接な關係を有してゐる。從つて大戰後に於ける政治の動きは、主として外交の項に詳述することにして、こゝでは現在の政治に於ける必要なる基礎的說明を主眼とする。

フランスほど頻々と內閣の更迭する國は世界に稀である。だが政變の激しいのにも拘らず、フランスの政治ほど論理の一貫してゐる例も少ない。元來、フランスの政治上の企圖は大統領と內

閣と議會であるから、第一に大統領の地位と權能とを明かにする必要がある。大統領と言へば、直ぐにアメリカの大統領を想起する傾きがあるが、フランスの大統領はその權能に於て、アメリカの大統領とは、大ひに異つてゐるのだ。憲法の上から言へば、フランスの大統領は、確かにアメリカの大統領よりも大きな權能を有してゐる。然し現在では事實上その權能の多くは空文にすぎない。卽ち理論と實際との間には大ひなき差があつて、現在も憲法學者のみならず、政治家の間にも議論がある位だ。現在のフランス憲法によると、大統領の任期は七年であつて、再選が許されてゐるのである。

絕對的勢力は下院　大統領の地位が空虛であれば、政治家の實權は、主として行政機關たる內閣に歸するのは當然である。然しフランス大統領には議會の解散權が事實上なく、內閣は議會の反對に會しては策を施すことは出來ない。從つてフランス政界は議會に於ける下院が絕對的勢力を握り、これが內閣の死命を扼してゐるのである。（現在上院は三百四十一名、下院は六百十四名、任期四年）

この下院に於ける政派の分野を見ると、民主共和同盟、左翼共和、急進左派、共和社會黨、急

進及び社會急進黨、社會黨が主なるもので、更に細別すれば、これ等の中にフランス社會黨があり、共產黨がありといふわけで、單に名稱から見たゞけでは、何れに與するか想像もつかぬ程雜然と入り亂れてゐるのである。現在の內閣は一九三六年六月、急進社會黨によつて組織された左派內閣であつて、共產黨が閣外からこれを支持し、右派特にファシズムの擡頭に備へてゐるのである。

獨自の政見によつて去就　前記の如く、フランスには各種の政黨が亂れてゐるが、英國等と異つた大政黨主義が發達しないのは、國民性の然らしめるところであり、フランス國民の個性の强いところに基因する。日本の代議士の多數は所謂陣笠であるが、フランスの議會には一つも陣も議員がないと言つてもいゝ位、フランスの代議士は、個性に生き、獨自の政見によつて去就してゐる。從つて代議士の地位は絕對的の力と言つてもよく、議員は政黨を背景にして選擧場裡に馳驅するのでなく、自家の地盤に於て選擧を爭ふのである。これ等は日本の政界と大いに異るところであり、同時に興味ある問題といはなければならぬ。

佛・獨の癌ア、ロ二州　外交の問題に立至るまでに先づ最初に述べなければならぬのは、ア

ルザス、ロレーヌ二州に就てである。言ふまでもなく、ア、ロ二州は政治的意義に於てこれまで佛獨兩國々交の癌であつたのだ。我國の如く歐洲の政治に直接の利害關係なき國に於てさへ、ア、ロ二州の名は遼東還付事件に準ずるほどの重要性を以て一般に知られてゐるばかりでなく、經濟的見地から見ても、ア、ロ二州は歐洲政局と極めて重要な地位を占めるからである。大戰終了の翌年、即ち一九一九年十二月八日、條約によつて新たに舊母國に加へられた二州の選良を迎へたフランス議會は、史上稀に見る崇高な光景を呈したのである。

顧みれば五十年の昔、ア、ロ二州がビスマルクの鐵血政策の犧牲となつて母國から割き取られた時、獨逸の暴虐に血涙を以て抗議を可決したボルドーの國民議會に席を列した當時の少壯議員クレマンソーは、八十の高齡を以て國家の難局に當り、今戰勝の榮譽を一身に負ふて、この歷史的議會の壇上に、二州の住民を歡迎する言葉を述べるのであつた。如何にそれが熱狂的場面であつたか、政治家として比類なき幸運に惠まれたものは、この日のクレマンソーに於て之を見るのであつた。アルザス、ロレーヌの名は、フランス國民の血を湧かす何物にも代へ難き尊いものである。ウィルソン大統領が、嫌和の基礎的條件として民族自決主義を高調し、國土の割讓併合を否

定した時、ア、ロ二州には最初から除外例を求めたのも、フランス國民のかうした熱望を理解したからに外ならない。

傷けられた自尊心　大戰後に於けるフランスの外交に關しては、記すべきことがが甚だ多い。安全保償と賠償問題、ルール占領問題、ロカルノ條約、不戰條約、ドイツライン撤兵要求等々頗る多い。然しこれ等はフランスに取つて決して有利に導くものゝみではなかつた。それにも增してフランスが屈服を甘んじなければならなかつたのは、軍縮問題である。

一九二一、二年亙つたワシントン會議に於て、フランスはイタリーと共に主力艦の保有量を、英米日の五五三比率に對して一七五に低下されたことは、戰後國力疲弊の際であり、今一つには英米に對する戰債問題が未解決であつた當時として、止むを得なかつたにしろ、フランスとしては甚だしく自尊心を傷つけられたのである。一九二七年のジュネーヴの海軍會議に、フランスがイタリーと共に參加を拒絕したのは、補助艦艇について、再びワシントン會議の經驗を繰返す危險を避けたからだ。フランスの國情から見て、由來主力艦に大して重點を置かないのは、現にこれの補助を永く行はなかつたのに徵しても明かである。

イギリスがアメリカと同等の海軍力に甘んぜざるを得なかつたことは、これも戰後の國情として當然のことであつたが、こゝに英國の立場を困難ならしめたのは、佛伊兩國が補助艦問題について協定に到達しない場合、英國海軍の傳統的政策たる二國標準が破れざるを得ない。卽ちイギリスは、アメリカに對する讓歩を、佛伊の讓歩によつて償はんとしたのだ。これ補助艦問題に關する英佛伊の協定を困難ならしめる根本の原因であつた。その意味でこの問題を單に佛伊間の係爭のみに解釋するのは當らない。一九二八年英佛兩國間に試みられた軍備協定は、海軍問題に關し英佛兩國は一萬噸以上の巡洋艦の備砲並に潛水艦の制限外噸數に關して互ひに讓歩した外、陸軍豫備問題に關して、英國がフランスの立場を考慮したものであつた。この英佛協定は米國の忌避するところとなつて遂に不成立に終り、次の一九三〇年のロンドン會議に於て討議されたのである。

補助艦問題不成立の原因　ロンドン會議が佛伊の協定を見ず、結局三國協定に終つた事情はこゝに詳記する必要を見ない。根本の原因は前記の如く英國の滿足する範圍內に於て、佛伊を妥協せしむることが困難であるからだ。イタリーが補助艦に於てフランスの等位を主張するのは、地

理的見地からするも政治的見地からするも決して合理的でないことは明らかであるが、既に米國が、英國と等位を維持することが同一見地より全く妥當を缺いてゐるに拘らず、單に自尊心より極力これを主張し貫徹してゐる以上、ひとりイタリーの自尊心を不當なりとする理由は毛頭ない米國は日英に對して自國の欲する比率を以て補助艦協定に成功した以上、佛伊の係爭の如きは大して問題ではなかつたのだ。もし佛伊關係から英國の補助艦保有量に變化を來す場合には、日米も新たなる保有量を要求し得るからである。

軍縮問題に關する佛伊の協定難を以て兩國を責めるのは全く米國の宣傳に眩惑されたものゝ罪である。フランスがイタリーに對して優勢なる海軍力を保持しようとするのは當然のことである決して怪しむに足らない。一方、イタリーが地中海に於ける特殊地位に鑑みて、容易にフランスに讓歩する色なきは、これまた國情の然らしむることろである。

新興諸國をめぐる佛伊の關係　佛伊關係に關聯して切離することの出來ない問題は、フランスの小協商國に對する外交である。小協商國と言ふのは大戰後に興つたチェッコスロヴァキア、ユーゴースロヴァキヤとルーマニアとの協商から起つた稱呼である。これ等小協商國はポーランド

と共に大戰によつて建設され或は擴張された諸國である。從つて戰前永く從屬關係或はその勢力圏内にあつた國家との政治的或は經濟的關係は、戰後に於てます〳〵機微に入つたことは論ずるまでもない。卽ち利害を同じうする新興國家が、こゝに協商を試みるのは當然と言はなければならぬ。

こゝに於てフランスは、これ等の新興諸國を利用して、獨墺又は露國に對する障壁たらしめようとするのは當然である。戰後の歐洲外交を大觀する場合、フランスはあらゆる機會に於てベルギー、ポーランド及び前記の新興諸國の利益を擁護する態度を棄てなかつたのは著明なる事實である。而して佛伊關係が今日の如く困難となつたのは、遠い過去は暫く措くとしても、戰後フランスがユーゴースロヴィアを後援して、アドリア海沿岸に於けるイタリーの要求を排除したことが主なる原因である。

イタリーの憤激　元々大戰の勃發した當初、イタリーは獨墺との三國同盟の建前上、その方に加擔するのが當然であつたが、大戰の原因はオースタリーにあると言ふ理由のもとに、イタリーは中立を宣言した。この時聯合國はイタリーを誘引するために一九一五年のロンドン密約によつ

て、アドリア海沿等に於けるイタリーの要求に滿足を與へることを好餌としたに拘らず、平和會議に於て何等イタリーの要求を顧みなかつたゝめ、いよ〳〵イタリーの憤激は拍車をかけられたのである。然して其のこゝに至つた理由は、フランスの對新興國使嗾にあるのだ。

賠償問題再燃　かうしてフランスが自國の安固を計らうとする矢先、再び問題となつたのは賠償問題である。即ち一九三一年七月米國大統領フーヴァの聲明によつて、俄然世界の視聽を集めたドイツの財政的破綻は、關係列國の折衝を新たにした。そして他の關係國がフーヴァの提唱にかゝるムラトリアムに贊意を示したに拘らずフランスは獨り贊同を留保するのみか、これに對して廣範な對案を提出したのである。

この問題に關聯して國際政局と閑却出來ないのは、英米國民とフランス國民との間に、政治思想上根本的に相違のあることだ。英米の見解によれば、平和條約の如きも決して萬古不變の章典ではない。賠償條項もまた同樣である。これ等は經濟的見地によつて時勢と共に改訂すべきものである。安全保障の如きも、結局列國の完全なる理解のもとに建設されなければならぬ道義的保障である。

これに反してフランス國民は思想上英米の見解に傾きつゝあるものと雖も、なほ安全保障は形式によつて確保されなければ安心出來ないのである。條約は神聖であり、賠償條項は條文通り履行されねばならぬ。單なる友邦の道義的保障は、最後の場合何の役にも立ないと言ふのが、その主張である。嘗てライン撤兵問題について英佛當局間に議論が喧ましかつた時、時の英國外相チエンバレンは「現在ヨーロッパの共同の敵は到るところに蠢まる不安の念である。到る處安全保障問題ならざるはない。かくの如きは寧ろ不安問題と稱すべきである」と喝破したのを見ても、當時の事情を推知し得よう。

平和克服後今や二十年に垂んとするが、フランスの外交を指導したものは實は安全保障問題であつた。ロカルノ條約然り、不戰條約然り、更に對協商小國外交また實に安全保障の別働隊に外ならない。戰勝に輝きながらもフランスが世界の外交界に於ける主演者となり得ないのは、徒らに安全保障の形式的末節に躊躇して、時代の大思潮を制する勇氣に缺くことに胚胎する。安全保障は實にフランス國民の退嬰的心理の表現であり、消極的外交の主因であるのだ。

ドイツの再軍備決行　フランスが常に脅かされるのは、獨逸の復讐と言ふ惡夢である。安全保

障を強調する端的な理由が茲にあるのは最早説明するまでもない。果然、一九三五年三月、ドイツ政府はゲルベルス宣傳相の名に於て、ヴエルサイユ條約中の軍事條項の一方的破棄を宣言したその理由は各締約國に於て、ヴエルサイユ條約を履行する意志がない以上、最早條約は事實上存在しない。ドイツは自由の無防備を拱手傍觀する危險に甘んずることは出來ない。即ちドイツは再軍備決行の爆彈宣言を發したのである。

この大膽なる宣言は青天霹靂の如く歐洲の國際政局に一大衝撃を與へたが、最大の不安と憂慮とを感じたのは言ふまでもなくフランスである。勿論ドイツの再軍備決行は列國の承認や國際的合法化の有無に關係なく、事實上の問題として着々確立されつゝあるのだ。まことに英國側の言ひ分のやうに、「それを防止するためには戦爭」を敢行しない限り、如何ともすることが出來ない兩國は必然爭ふべき宿命に置かれてゐるものと見るべきであらう。

經濟・産業

ア・ロニ州の回復　普佛戦爭によつてアルザス、ローレヌの二州を失つてから五十年、パリコ

ンルドの廣場の一隅には、兩州を表徴する女神像が黑布に覆はれて、フランス國民の胸裏に復仇の念を強烈に烙き付けた。

然るに世界大戦は事情を一變せしめた。マルヌの一戦によつて、勝誇つた獨軍のパリ進撃を挫折せしめ、茲に決定的の勝利を獲得したフランスは、平和克復と共にア、ロニ州を回復し、一方戦禍より再生した北部十州の復興と相俟つて昔日の面目を一新し、近代的産業國家として立直つたのである。

このフランスの回復を知らうとするには、どうしてもア、ロニ州の經濟的價値を說かなければならない。先づ何人も直に考へるのはローレヌの鐵鑛に就いてである。その埋藏量は實に二十二億五千萬噸と推算され、この鐵鑛の回復によつて、フランスは今や米國に次ぐ世界第二の鐵産國たる地位を獲得するに至つたのである。

戦前獨逸の鐵鑛産額は二千五十三萬六千噸であり、ローレヌ以外の鐵鑛産額は僅か七百萬噸にすぎず、獨逸の鐵工業の隆盛は實にローレヌに負ふところであつたのだ。

更に鐵鑛と共に閑却すべからざるものは、ローレヌの石炭である。ア、ロニ州が獨逸に奪はれ

たゝめ、フランスは大戰前まで年々多量の石炭を外國、主として獨逸、ベルギーの供給に仰がねばならなかつたのだ。一九一三年にはフランスの石炭輸入額は二千二百八十六萬噸に達した。而もフランスが國内に産する石炭の六割八分に當る二千七百三十九萬一千噸は、北部地方の産出にかゝるものであつたから、戰爭中同地方を獨軍のために占領されたフランスが、如何に石炭の供給に苦しんだかは想像に餘りある。のみならず、獨軍はフランスの炭抗を組織的破壞し、これによつて、戰後の佛國工業を困難ならしめんとした結果、フランスの石炭供給の不足は戰後にまで影響したのである。ヴエルサイユ平和條約第四十五條によつて、十五ケ年間ザール炭田の無條件的發掘をフランスに許したのは、如上の理由に基くからであつた。このザール炭田はロレーヌの東北に接した面積十五萬五千エクタールの地帶で、包有炭量百六十五億噸と推算されてゐる。斯くの如く戰前獨逸の隆盛はロレーヌの鐵鑛と石炭あるがためであつた。他方、アルザスは加里と石油の重要な工業資源を供し、經濟的價値ロレーヌに次ぐものがある。とにかくこのア、ロ二州の回復はフランスの産業復興に重大な原動力を與へることになつたのである。

戰禍より甦つた北部十州

ア、ロ二州の回復と共に價値を認められなければならぬのは、戰塵

から蘇つた北部十州の復興である。大戰五ケ年間、兵火の荒れ狂ふまゝに任された北部十州こそは、獨逸のルール、英國のブラツク・カントリーにも比すべきフランス工業の大中心地であつたのだ。面積はフランス全土の二十分の一に過ぎぬが、全フランス産業の五分の一を占めてゐると言ふことによつて、重要さが察しられよう。戰後フランス政府が無慮九百億フランの巨費を此處に投じ、殆んど國運を賭してまで、回復に專念した理由も肯ける譯である。そのために、フランスの財政が戰後危殆に陷り、通貨の混亂を齎した。總てこれは殆んど無謀とも評すべき政府の荒廢地回復舊の政策にあたつたことは議論の餘地がない。併しその後の情勢より見れば、この政策は一方に於て大工業地帶の復興を遂げたと共に、他方その副産物たる通貨價値の下落によつてフランスの經濟に異常なる活動を與へたのである。

出産率減少と經濟・産業界

人口問題はフランス將來の最も重大な社會問題たるのみならず、現在に卽して見ても産業、經濟に多大の關聯を有する問題である。勿論この問題は後章に詳記するが、フランスの經濟を述べるに當つて、その一斑を示すことゝする。

大戰直前に於けるフランスの人口は、約三千九百百六十萬と推算された。そのうち大戰によつ

て約百四十萬の壯丁を失つたのみならず、更に著るしい出産率の低下を來した。他方、ア、ロ二州の人口約百七十萬を新たに加へたのにも拘らず、一九二一年に於ける人口は三千九百二十萬、卽ち戰前に比して四十萬の減少を示してゐる。

爾來六年一九二七年には四千九十六萬人となつて約百八十萬人の增加を示してゐる。然し仔細に人口增加の內容を檢すれば、その大部分は外國人の來住と、國內に於ける外國人人口の自然增加に基くものであつて、フランスの人口は停滯して殆んど變化を見ない。

世界經濟恐慌の波に襲はれ、各國何れも失業對策に腐心してゐる際、フランスのみが、移民入國の調節によつて比較的容易に問題を解決し得る立場にあることは、一面に於て羨望の限りであるが、民族發展の前途に想到すれば、轉た憂ふべきものがある。

入超僅少の貿易　一國の經濟の現勢を一目瞭然たらしむるものは、その外國貿易の數字である左に一九三五年に於けるフランスの貿易狀態を見ることゝする。輸入品の重なるものは石炭、石油、羊毛、棉花、小麥、葡萄酒等であり、輸出品は綿、毛及絹織物を第一とし、機械、金屬製品鐵及鋼等の重工業製產品これに次ぎ、自動車、化學工業品等の進出は、近代產業の著しい發展

を物語つてゐる。

大戰前に於ては國際債權國の常として、外國貿易は年々巨額の入超を示してゐたが、戰後の通貨下落期に於て、一時變態的出超を見るに至つた。然し通貨安定以來再び入超に轉じ今日に至つてゐる。

一九三〇年後半以來、世界經濟界恐慌の影響をうけて、貿易額は激減を示したが、これは主として物價下落のためであつて、價格に於ては輸出一割四分餘、輸入一割餘を減じてゐるが、數量に於ては輸出八分三厘の減、輸入は却つて二分三厘を增してゐるのである。

（然し最近のフランスの財政狀態、貿易狀態は決して樂觀を許さず、國際政局の不安が暗影を投じて、フラン切下げ、金本位停止を決行し、これが原因して金本位ブロック崩壞の狀態にまで立到つた）

世界經濟恐慌とフランスの經濟　一九二九年秋、ウオール街の恐慌にその端を發し、全世界は恐くその渦中に卷込まれたが、フランスは恐慌の眞只中にあつて、よくこれに堪えたのは各國の羨望とするところであつた。蓋しその主なる原因は、フランスの經濟機構が堅かな自然の環境

に惠まれて、大體に於て自給自足の狀況にあり、また貨幣價値の切下げによつて、國家的に見た物價の水準が極めて低位にあつたこと、並びに人口增加率の低いために、失業問題に惱まされることのなかつたこと等に依るものと思はれる。

失業問題が漸く世論を喚起するやうになつたのは、一九三一年の初頭であつた。當時その數三十萬と稱されてゐたが、救濟金を受けるものは僅に三四萬の程度であり、同年二月失業手當法の改正によつて給與率の引上げが行はれたに拘はらず、なほ失業救濟に要する經費は、未だ國庫にとつて大した負擔になつてゐなかつた。他方また政府も、一九三〇年以來外國人の入國制限と、勞働人口の移動を行つて失業增大の防止に努めてゐる。現在に於ても、フランスの失業問題は、英國その他の如く大した問題とまではなつてゐない。

金融機關の系統　フランス金融機關の系統は、大體に於て我が國のそれと似てゐる。先づ中央銀行としては、わが日本銀行と同じく發券銀行にして半官的機關たるフランス銀行がある。また不動產金融の特殊機關としては、古い歷史を持つ、クレヂ・フオンシエー銀行がある。

次に日本の五大銀行に比すべき、民間の大なるものは、クレヂ・リオネ、リシエテ・ゼネラル

コントワール。デスコント。パリの三行がある。これ等民間銀行本來の性質は、英國式の預金銀行であるが、大戰以來漸次營業を擴大して、貸付割引業務の外、引受及び發行業務にまで進出してゐるのである。右に擧げた預金銀行に對立して、强大な自己資本を有してゐる所謂企業銀行の代表的なものとしては、パリオランダ銀行とパリ聯合銀行の兩者があり、就中、前者はアムステルダム、ジュネーヴ、ブラツセル等の大陸樞要都市に支店を置き、フランス對外投資の第一線に立つて活躍してゐるのだ。

莫大なる海外投資　大戰前に於けるフランスは英國に次ぐ世界第二の資本輸出國を誇つてゐた大戰直前に於ける對外投資額は、英國の約三十八億ポンドに對し、フランスは約三百八十億フランン卽ち十億ポンドに上つてゐたのである。

フランスが海外投資に手を染めたのは、英國より稍遲れて十九世紀の末から二十世紀初頭にかけてゞあるが、その三分の二はロシア及トルコに向けられ、英國の對外投資が主として自己の植民地や南北米大陸に向けられてゐるのとは、大いに趣きを異にしてゐる。

かくフランスの對外投資が主として東歐諸國に集中されてゐた結果、世界大戰に際して甚だ不

利な結果を招來することになつた。卽ち大債務國たるロシア、トルコ政府の瓦解、ルーマニア、オーストリーの窮乏等々に原因して、約二百三十億フランの對外債權は殆んど無價値となつたのだ。これに大戰中の債權減少、債務增加（英米政府よりの借入を除く）額二百三十億フランを加算すれば、合計約四百六十億フランとなり、大戰終了の如きは、フランスは國際債權國たる地位から、一轉して債務國にすべり落ちたのである。かくて國際金融の覇權爭奪戰は、ロンドン、ニューヨークに委ねられてしまつたのであつた。

農民の大部分は自作農　一方、フランスの產業方面を調べて見よう、世界大戰までフランスは誰の目にも農產國であるかの觀を與へる程、これが盛んであつたが、大戰を轉機として農業から工業へと躍進した。然し、フランスは依然として農民の國であることは爭はれない。二千人以下の村落の人口の、全人口に對する比率は大戰前の五五・八％に對し、戰後五四％に下つたが、これを隣國ドイツの三五％に比較すれば、農民が國民の多數を占めることが肯かれる。

更に農地が小作農の手に分割されてゐることも特色の一つである。この農地の約九〇％までが自作農の所有である。而も一農地所有者の平均面積が、英國の百六十八ヘクタールに比して、農

ランスは十二ヘクタールである。この一事を見ても、他國に比して小農の多いことが察知し得られる。而して主なる產物は小麥、大麥、馬鈴薯、果物、家畜等であるが、これ等は農產國フランスとして既に讀者も了解されてゐることゝ思ふから、こゝでは戰後に飛躍した工業方面を窺ふことゝしよう。

世界第二の鐵產國　一國の工業が發達するには、二つの條件が充されなければならない。

（1）は動力及原料が豐富であること、（2）は國民の性情が工業的活動に適すること。この二つの條件のうち、大戰前のフランスは前者にはあまり惠まれてゐない。動力として水力電氣は豐富であるが、石炭の產出は割合に少く、原料の大部分、特に織物の原料を多量に輸入しなければならぬ狀態である。然し第二の條件に於てフランスは最も惠まれ、特に技術上、藝術愛好心に秀れてゐるために、生產する奢侈品は世界市場獨步の觀があるのだ。

然し大戰後ローレーヌの鐵鑛地が再び自國の手に歸して、その產額は歐洲第一位、世界第二位に上り、俄然冶金工業に活況を呈するやうになつた。

大體フランスの工業は、小中工場が多く、これ等が相當の勢力を有してゐたが、冶金工業は全

く組織が異り、鐵及び鋼鐵生産の四分の三以上が鑛山地帶に強大な冶金工場を所有する二十人ばかりの資本家の手に握られてゐるのだ。これに加へてその協會たる鐵工業委員會の力によつて冶金業者は全産業界に決定的な影響を及ぼすのである。

鐵工業の中心は言ふまでもなく、東部地方であり、鐵産額の五分の四以上が、こゝで生産される。從つて同地方にある工場は設備も完全であり、鍛鐵術の特色は、燐の含有物が強く、石炭の補充が困難なため、生産はトマ鋼鐵が主であり、近年はマルタン鋼鐵を産するやうになつた。

次に北部地方は、東部地方と反對に、燃料は豐富であるが、鐵鑛に乏しい。この方面は海岸に近い爲各地の鐵鑛を輸入するのも便利であり、燃料も豐富である。且つ機械製造工場に近い關係から頗る活氣を呈してゐる。更に西部工業地帶は大戰直前より漸次重要な地位を占め、この機運に乘じて各地に散在する冶金工場は高速度に發展した。

右の如く冶金工業は各地に分散するが、この部門にも最近企業の集中が盛んに行はれ、鐵工場製鋼所、機械製造工場等の密接な結合が行はれて、更に金融機關との連絡が行はれた。

豐富な電力　一方、工業の原動力となる電力の供給は、地勢的に惠まれたフランスは、戰後ま

す〳〵發達した。現在フランスの電力網は全國的に行はれてゐる。これによつて石炭の不足を補ひ他方不可耕地を灌漑して農地とするため、その方面へ四分の一の電力を割いてゐるのである。

社會

悲觀される人口問題　フランスの人口問題は日本の場合と全く反對の理由で、國家社會の大問題として、古來政治家經濟學者の間に議論の絶えないところがある。世間では、フランスの人口が年々減少するかの如く早合點する人も多いやうであるが、事實はさうでなく、他の文明國に比して增加率が低位にあるのである。然らば何故にフランスの人口問題が喧ましく論ぜられるかと言へば、隣接してゐるドイツやイタリーなどの人口が著るしく增加するのに比して、フランスが常に低位にあり、殊にドイツとは古來政治的に鬪爭が絶えなかつた關係から、謂はゞヒステリックにこの問題が持ち出されるのである。

大體、文明國は何れにあつても、人口の增加率は漸次低下するのを常態としてゐる。かく言へば、日本は文明國の域に達してゐないのかと反問されるかも知れないが、日本と雖も人口の增加

率は今後必ず低下するし、現にその傾向も現はれてゐる。それにしてもフランスの人口が餘りにも殖えないことは事實である。然し、これを以てフランスが民族的に凋落の域に達したものと斷定できない。寧ろフランス國民の心理的傾向が原因をなしてゐると見るべきであらう。

日本の人口が增加するのは、長子相續法の結果だと言ふ人がある如く、フランスの人口停滯は相續法の影響だと論ずる人がある。つまりフランスでは財產を均等に相續せしめる結果、子供を多く生むことは、財產の分配を少くする道理を生ずる。その意味から子供を多く生まないのだと論ずるものもある。これも一面の理由はある。だが、よし相續法を改正しても、それによつてフランスの人口が著るしく增加するものとは到底考へられない。戰爭の如き非常の場合を考へると人口の少いことは終局に於て國家の弱點だと言ふことも考へられるが、人口の多いことそれ自體が直ちに國力の强大を意味しないことは明白である。從つてフランスの現在から見て、人口問題は直ちに悲觀すべきものとは思へない。

夥だしき居住外國人　人口問題に關聯して、更に閑却してはならぬことは、フランス內に居住する外國人の數である。戰後フランスの人口は三千九百六十萬と稱されたが、この中に百十六萬

の外國人が含まれてゐた。その後外國からの移住民は年々增加の一路を辿り、現在四千萬人中に百五十萬內外の外國人がゐる。これ等の外國人は主としてベルギー、ポーランド、イタリーなどの勞働者によつて占められてゐるが、勿論歐洲全體の民族も含んでゐる。その分布から見ると、パリ所在地たるセーヌ縣を第一として、北方炭坑區の多いノール縣がこれに次ぎ、マルセイユ所在のブッシュ・ド・ローヌ縣香、料で有名なグラスのあるアルプ・マリチム縣などの順である。

かく外國移住者の增加することは、フランス文化の上から見て、また民族的結合の上から見て決して歡迎すべき現象でないといふ論者もあるが、フランスはこれによつて勞働力の不足を補つて產業的に發達を來してゐるのだ。

著しき人口都市集中率　かゝる狀態のため、フランス人自身も外國へ移住することは極めて少い。この少數の移住者は大部分アルガリやチュニシに出かける。現在これ等のアフリカ植民地は政治と經濟上から見て、すでにフランスの延長であるから、フランス人の海外植民は問題とするに足りないのである。

然し國內住民の移動は可なり著しく、田園を去つて都市に集中する移住者の數は、他の文明國

と同様、激增の傾向を示してゐる。大略の數字を擧げると、戰前都市の人口は全國の四割五分に過ぎなかつたものが、戰後は五割を突破するやうになつた。就中パリの如きは過去一世紀のうちに五六十萬から三萬以上に增加し、その他マルセイユ、リオンのやうな第二位の都市の人口も十萬臺から五六十萬臺に增加してゐる。フランスの主なる都市は一世紀間の總體に於て五倍の人口增加を示してゐるに拘らず、フランス全國の同期間に於ける人口增加は僅かに四割四分にすぎない。これを見にも如何に人口の都市集中が激しいかゝ判る。

勞働階級の特質　「野菜畑こそは我が中流勞働階級の誇りである。機械萬能の時代にも拘らずフランスの國民を土地に愛着せしむるはそこにある」嘗てボール。モランがかう言つたが、實際フランスの郊外を訪ふものは、誰しもこれに氣付く現象である。恰度英國人がゴルフやテニスに親しむやうに、英國の坑夫は勞働が終ればフットボールに興ずるであらうが、フランスの坑夫は田園の野菜の水々しさを眺めて滿足を得てゐるのである。これは單なる日常生活の片影であるやうに思はれるが、國民性の觀察は決して閑却出來ない。英國の勞働階級に比してフランスの勞働階級の著しい特質は、勞銀によつて生活する勞働者が、所謂資本家の數に比して少いことであ

る。フランスの人口の五割强に當る二千七十五萬が勞作に堪える實數として、眞の意味の工業に從事する勞働者はその二割八分に當る六百十九萬と言はれてゐる。然も所謂大工業に使役されて日給を得てゐる眞の勞働者は、その六割九分の四百三萬餘人にすぎない。

一方、小規模ながら使用人を使つて自家工業を營む所謂パトロンと稱せられるものが一割一分の六十八萬三千人に達してゐる。之を英國の賃銀勞働者が九割に上り、パトロンが僅か三分にすぎない現狀に對比すれば、思ひ半ばにすぐるものがあるであらう。更に所謂自己の計算による勞働者と稱せられる獨立勞働者の數を見ると、フランスは百十六萬二千人卽ち一割九分の多きにあるに反し、英國では六分三厘にも達しない狀態である。

のみならず、その四百萬人の賃銀勞働者中、五百人以上の大工場に使役される者は、七十七萬四千人にすぎない等の事實に徵すれば、何故フランスに於ける勞働問題が、英國の如く尖鋭化しないかゝ判明するであらう。

爺むさいフランスの日常生活　かうした事實が國民性にどんな影響を與へるかと言ふに、フランス人は容易に自己の生活樣式を改良しないことである。彼等の日常生活にしても、食事毎の葡

葡酒、食後のコーヒーは附物であり、その他家庭菜園の耕作、酒場の漫談といふやうな習慣までが、殆んど國民性となつてゐると同じく、衣服にしても、住宅にしても、決して激しい改良を好まないのがフランス國民である。一言にして言へば極めて保守的であるのだ。同時にどこまでも個性を尊重してゐる。保守的であり個性が強いために、一面功利的であり、極度に儉約である。公共事業に對する寄附も、英米などに比して問題にならない。從つて日本人が、たゞ漫然と想像してゐるフランスと實際とは非常な隔たりがあるのだ。

つまりフランスと言ふ國土は、總じて調和のとれた住心地のよい國であることは事實としてもフランス人が守舊的であり、日本で言ふ俗に爺むさい人間であることは否定出來ない。大都市の一流ホテルは別にしても、二流以下のホテルとなると、華の都であるパリでさへも、決して文明の設備を有してゐない位だ。從つて一般市民の生活となると、實際を見ないものには想像もつかぬ原始的狀態である。

石油ランプを使用するパリ人　いまその實例を擧げると、パリの新開地と言はれるパシーなどのアパートは小さくても比較的設備が行屆いてゐるが、舊市街殊にセーヌの左街などの古いアパ

ートは思ひ切つて便利が惡く、その上非衛生的である。パリ目抜きのシヤンゼリゼ大通りに近い街でも、所謂六階と言はれる屋根裏の部屋などには、電氣は勿論、ガスも水道もない所が多い。五階までは設備が行屆いてゐても、六階となると舊時代に還つたやうな生活だ。勿論、設備を改善するだけの費用がないではない。今までこれで濟んだものを、今更改めるにも及ばない。餘計な金を使ふことは贅澤である。水は廊下にある共同栓から汲んで來る。電氣が引込まれてゐないなら石油ランプで間に合はせる。瓦斯が來てゐなければ、アルコール七輪で代用すると言ふ心持なのだ。日本人のやうに少しの不便でも朝から晩まで愚痴を零しつゝ辛抱するのと違つて、さうした不便は當然のことゝ見て、何等の不平も言はない。諦めではなく、瘠我慢でもなく、全く意識して生活してゐるのだ。

原始的生活の農民　一方、農民の生活はどうかと言ふに、日本と反對に小作農が減少して自作農が增加して行く。フランスの田舍の生活は非常にのんびりしてゐることは事實だが、彼等の生活樣式は、パリの中流以下と同じく極めて原始的生活を送つてゐるのである。寧ろ日本の農民の生活の方が、少くとも文化的設備に浴してゐるのではあるまいかと思はれる位である。

然しフランスの農民が生活に窮迫してゐるのではない。否、彼等は所謂貧乏ではない。生活に脅えてゐる日本の農民とは比較にならない。たゞ彼等は時の流れに從ふことを第一として、徒らに生活の改良をしないのだ。

一長一短の國民性　一長一短は何れの場合にも附隨する處であるが、フランス國民のかゝる保守的性質は一つの力である。大戰の動亂のため幾多の國家が政治組織を一變し、社會的動搖を來し財政的危機に陷り、國家的信用を失墜した中に、フランスはよく結合を維持し、當時財政的危機を切拔け得たのは、確かに前述のフランス國民の保守的生活に培はれた、健實なる國民性の賜と言はねばならぬ。だが、一般文明國として見る時、國家的施設の劣るところ頗る多い。

その顯著なる例は、國民教育の普及を欠く點である。

不完全な國民教育　我々日本人は、從來歐米文化の影響を多大に受け來つたゝめ、これ等の國殊にフランスの如き華〻しい文化を有せる國は、定めし國民教育も日本以上に普及してゐるやうに想像しがちであるが、この點日本の方が遙かに進歩してゐると言つても差支へはない。大戰直後、パリその他の三大都市で壯丁檢査を行つたところ、全く文字を解しないものが六分七厘、極

めて不完全な教育を受けたものが二割八分、多少の教育あるものが三割八分、小學校卒業以上のものに至つては、僅〻三分二厘といふ驚くべき事實が曝露された。

勿論爾來政府當局の努力によつて教育の普及は改善されつゝある。かゝる事例を擧げた所以のものは、結局我々外國人が眩惑されてゐるフランスの文化なるものは、結局少數のフランスの選ばれたる階級に屬する天才、偉人の事業になるものであつて、フランス國民全體としての文化の程度は、決して他に誇る資格のないことを示すために他ならぬ。

この國民性を政治に就て見ても、民衆の政治に對する熱の冷やかさは寧ろ意外な位である。ルソーやヴォルテールなどの大思想家の名によつて、我々は自由思想の發祥地フランスを想像する十八世紀末の大革命に民權運動の先驅を見た。更に一八四八年の第二共和國、一八七〇年の第三共和國、それ等の歷史を顧みれば、フランス國民は過去十八世紀以來、不斷に自由民權と戰ひ續けて來た選手である。現在に於てもまた「自由」の言葉は如何なるものにも增してフランス國民の心臟を強く叩くに違ひない。

然しこれ等史上の幾轉變も、フランスの政治的形態の變化を語るにすぎず、これによつてフラ

ンス國民の社會觀、生活樣式の根柢を一新せしめたとは見られない。要するにフランスは最も新らしき形式を有する最も古き國なり、と言ふことが出來る。彼等は最も激越なる外面的運動の中に最も保守的な社會相を保全してゐる國民なのだ。

軍備

獨逸の復讐に脅えるフランス　フランスの國防に最も關係の深いものは依然として對獨關係である。然し大戰後イタリーの躍進に伴ひ殊伊施設についても、少なからぬ警戒の度を加へてゐることも否むことが出來ない。世界大戰の結果、フランスはヴェルサイユ條約によつて、年來の强敵に對し、嚴重なる軍備制限を加へて、報復の鋭鋒を挫かうとした。だがフランスは、これのみを以て自國の安全を確保すること出來ずとして、大戰後に於ける對外基調を、常に安全と保障の問題に置き、一再ならず英米及び聯盟に對してこれを求めようとしたが果さず、漸くロカルノ條約によつて、仇敵獨逸と協定するに至つたのである。

大戰に勝利を得たフランスが、條約の桎梏の下にある敗者獨逸に對して、かくも戰々兢々とし

て、自國の安全のためその保障を他國に依賴しなければならぬのは、そも〳〵何故か。これを氷解するには一九一九年三月フオシュ元帥が、四國會議に於てなした左の陳述を見れば、最も早く了解される。

……西歐諸國が七千萬に垂んとするゲルマン民族の侵襲を阻止するには、天然の障碍ラインを以て軍事國境とする必要なる所以を力說して、その他の採るべき一切の措置は一顧の價値もないことを述べた後、

「……實に獨逸にしてラインを擁する時は、聯合軍は佛白國境への集中、または米軍の來襲を待つ間、何等據るべき天然の障碍を有せざるため、この國境會戰が不幸の運命に遭遇すべきことは想像に難くない。……かく觀來れば、聯合軍の採るべき唯一の策案は、聯合軍自身がラインを保有するにあるのは議論の要せざる所である。況んや今日ライン西方列强の對獨戰略形勢は、これを一九一四年に比して一層憂慮すべき情勢なるに於てをや……これを要するに、吾人をして自らラインをその手に確保せざる限り、中立もなければ武裝解除もなく、如何なる條約も空文に等しく、遂にフランスの敗北を阻止得べき對案を有し得ない」云々……

以上の陳述によつて、フランスの國防の那邊にあるかを窺ふに十分である。聯合軍國民が戰捷の歡喜に醉ふ時にあつて冷靜に前途を達觀した名將フォッシュ元帥は、戰前の友邦ロシヤを失つた今日、將來の對獨戰の勝敗は戰はずして既に定まれりと斷定して、この形勢を挽回し得る唯一の方策は、佛白軍を以てラインの天嶮を固守しつゝ英米の來援を待つにあるのみと論じたのだ。

國境要塞の編成　然るにフランスの熱望するライン地帶も、ヤング案の成立と共に早期に撤退した今日、更に大戰の慘禍に影響する壯丁數の半減は、フランス建軍の基礎に一大危機を招來した。これに對してフランス上下が國境要塞の編成に巨費を投じて、その竣工を急ぎ、完全なる軍備の充實と相俟つて、歷史的に相容れざる獨逸の恐るべき復讐戰に對抗せんとするのは何等怪しむに足らぬ。近世に於て四度の侵襲をうけ、生々しい戰禍を抱くフランスが、工業的及び人工資源に惠まれ、恐るべき潛勢力を有するゲルマン集團を、その國防施設の對者とするのは、眞劍に國家の安全を洞察し、國防を直視したに外ならないのだ。

フランスの軍制　國民皆兵を主義とした現在の兵役法は、一八七〇年普佛戰爭後の創設にかゝるものである。即ち同戰役の失敗は、職業的軍人の弊害を曝露した結果、茲に對獨復讐國軍として、武裝した國民による陸軍を要求し、必任義務制現役五年の精兵主義の現出となつたのである

爾來フランスの兵役法は若干の改正を經て二十世紀に入つたが、當時國際關係の平穩なる情勢並に平和主義の擡頭は、漸く當時の對獨復讐觀念を稀薄ならしめ、寧ろ社會的政策的見地に重きを置くやうになり、終に一九〇五年二年兵役の改正となつた。

然るにこの改正は軍の素質を漸次低下させ、獨逸の侮蔑を招き國防の不安を痛感させた。かくして一九一三年佛獨の開戰の避け難い情勢に陷つた時、フランス上下の危惧は益々增大して對外强硬に再轉し、現役三年に復して常備軍の增大を圖つて大戰に參加したのである。

然し戰後國際間に於ける平和思想の勃興と戰後の復舊、財政難等々のため、國際間相對的に軍備縮小整理の聲が高まり、一方國家總動員思想の勃興となり、兵營法もまたその影響をうけ、一九一三年春、一年半在營を基礎とする兵營法の發布から更に一年在營制と變化したのである。

新裝備の陸軍　將來戰に於て航空機、戰車と共に、毒ガス（主として砲彈として發射するもの）が戰場に大なる猛力を揮ふことは想像するに難くない。大戰後毒ガス禁止問題は各種の機會に於て云爲されてはゐるが、現在列强の毒ガス研究施設の跡を鑑みる時、禁止問題の如きは單に平和

の夢にすぎないことが痛切に感じられる。イタリーでは「將來に殘された唯一の戰法は毒ガスなり」と公言し、フォシュ元帥も「毒ガスの使用を禁止し得るものとすれば、戰爭勃發をも禁止し得る筈だ！」と明言したことによつても、フランスが化學戰準備の必要を認めてゐることが明かであり、同時にその防護法の研究は徹底的に實施されてゐる。

尙現在のフランス陸軍は中央軍と植民地軍とに分けられ、前者は勿論陸軍大臣が管掌してゐるが、後者は植民地大臣の監督下にあるのである。この中央軍は現役、豫備、地方軍を合せて約三十五萬となつてゐるのだ。

航空界の王座を占める空軍　大戰中急速の進歩擴張を遂げた大航空部隊の大整理すると共に、將來に於ける空中國防に違算なからしむるため、的確なる方針を立ることは、戰後のフランス航空當局の一大事業であつた。

蓋し平時强大なる航空部隊の維持は、極めて巨額の經費を要し、戰後の財政上頗る苦痛とするところであるが、フランスの地理關係は、東隣諸國特に獨逸に對し、空中防禦の安全を緊要とするばかりでなく、對英政策の後援としても、空中威力の强大を必要とする。この難局に際して、

フランス當局は戰後の財政頗る困迫してゐるにも拘らず、莫大な經費を投じて大いに民間航空を奬勵し、有事の日は直にこれを戰爭用に利用すると共に、平時も依然として强大な航空隊を保有することにした。且つ久しい懸案であつた空軍獨立問題も、一九二八年五月解決を見、陸海軍航空はもとより、民間航空の一切も總て航空大臣の隷下に屬することゝなつた。而して現在空軍總兵力は人員四萬二千人、飛行機四千機、最近の經費年二十二億六千萬フランにとなつてゐる。且つ大戰の經驗がこれに加はり、現在も依然として世界に冠たる技術を有してゐるのである。

大單位編成の空軍　いま概略その偏成を見ると、陸上航空隊は、平時飛行機數約二千機（戰用を合すれば約四千機）を百三十六中隊に分ち、十三聯隊、六獨立大隊に編成してゐる。卽ち驅逐二聯隊、重輕爆擊機各二聯隊、偵察七聯隊と六大隊とし、これを大單位の三師團と總豫備集團一獨立旅團一に編成してゐるのだ。

フランス航空隊は戰鬪と偵察隊との協同連絡を極めて重要視した結果、航空師團は概ね偵察、驅逐と氣球一聯隊の複合編制を採用するものが多い。航空豫備集團は重爆擊機の全部を以て二旅團に編成し、所謂空軍大臣の眞の直轄下にある航空兵力とし、その大部分は集團的に獨立任務に

服し、開戰劈頭所謂空中作戰遂行の唯一兵力となるものである。

一方、海軍飛行隊は現在二十二中隊を有し、沿岸防禦に任ずる沿岸飛行隊及び艦載機を合せて約四百五十機を算してゐる。然し海軍航空の方は、空軍獨立以來、人事問題の不遇を嘆き常に空軍統一の惱みとなつてゐるのである。然らば、根幹となるべき海軍の狀態はどうであるか？

フランスの海軍政策　海軍政策及びその成果たる海軍の現狀を見るには、まづ根本たる國防方針を明らかにする必要がある。然るに外部から根本方針の現狀を突き止める方法は、歷史的にこれを展開するより他に道がない。だが、この場合海軍史自體を述べるのが目的でないから、現狀に關係の薄い過去まで溯る必要はない。

現在のフランス海軍政策は一九一二年に確立した根本方針を踏襲してゐるものと見るべきであらう。これに對して開戰前、フランス下院の海軍豫算報告委員ボール。パンルヴエは、國防上に於ける海軍の地位及海軍政策を論定し、半永久的の國家の大計を立てたのである。同時に從來數學家の大家として聞えたパンルヴエの名を政治的にも顯著にし、後年彼を戰時の陸相及び首相、下院議長等にし、フランス政界の重鎭たらしたのである。

先づパンルヴエは、フランス海軍の國防的地位に就て左の如く論じた。即ち、世界大戰に於てフランスは正にその運命を陸軍に負はしめねばならぬことになつた。何故かと言ふに、フランス海軍が、もし東方國境方面に於て擊破される運命に立至れば、海軍の勝利も何等の効果を大局の上に齎さない。これに反して、陸上の勝利に伴ふ海戰の勝利は、敵の死命を制するに足る。この意味から、フランスは陸上の必要に基いて國防の根本方針を確立せねばならぬ。

パンルヴエは、フランス沿海の防備に論及し、

(1)大西洋岸及英佛海峽沿岸に於て、兵器と軍需品を滿載した敵一軍團が上陸しても、フランスは强ち危懼するに及ばない。如何となれば、かう言ふ行動は天候靜穩の時以外には行はれない。故に沿岸警備の任にある水雷艇及潛水艦は、敵に對して最も强烈な損害を與へる餘地がある筈だ。また、たとへ上陸が幾部分成功しても、敵は必ず陸上防備施設及び陸軍部隊と衝突することを豫想される。かゝる場合、敵は籠城すべき防禦港を急速に占領しない以上、上陸軍は潰滅するより外はない。然しかういふ占領は架空の談にすぎず、また同時に陸戰の結果に何等の影響を及ぼすものではない。

(2)フランス沿岸地方に試みられる砲撃は、勿論好ましい精神的影響を與へないが、この種の砲撃は攻者の方に危險が伴つてゐる。如何となれば、些少の効果を得ようとして多數の艦艇を亡失せしめなければならぬ結果に立至るから、蓋しフランスの周密な監視が海岸に接近する敵に對し、如何に危險を與ふるかは言ふまでもなく、飛行機の現狀に於ても、海岸信號所及無線電信所に連繫して有効に働き得ることが出來る。而も附近にある我が水雷艇及び潛水艦は迅速に敵を要擊する手段に出づる。

(3)英佛海峽及大西洋上に於ける積極的制海力は、フランスに取つて、必ずしも緊急不可缺のものではない。これに反して、西部地中海に於ける制海力こそ極めて重大である。西部地中海の制海力――フランス本國と、アメリカ植民地、チュニジよりモロッコに至るアルジエリー沿岸との交通は、必ず確保せねばならぬところである。これは西部地中海の制海權を把握することによつて初めて得られるものである。北アメリカは現にフランスの穀倉の一つであり、今後もまた同樣である。戰時食糧補給上、西部地中海の制海權こそフランスの運命を左右するものである。のみならず戰時中に、もしアラビア人が叛亂した場合は、地中海沿岸地

方より第二線部隊を破遣する必要がある。これ等の理由は、絶對に地中海の制海權がフランスにとつて必要とする。

大戰後の狀勢　パンルヴエの報告に現はれた前記の如き根本方針は、大戰後の現在に於ても變更されてゐない。卽ち飛行機及び奇襲用艦艇を以て英佛海峽及、大西洋方面に備へ、海軍の主力を西部地中海に集結し、大戰の生々しき經驗に鑑みセネガル、マダカスカル及び佛領印度支那等の遠隔した海外領土と本國との交通維持に努めてゐるのである。

これ等艦艇の分布は、フランスの本土――アルヂエリー――チュージの全沿岸を五海軍區に分ち、第一區セルブール、第二區ブレスト、第三區ロシュフオール、第四區ツーロン、第五區ビガルトと五大軍港としてゐる。だが右の內重要さに於ては差等があり、地理的にも勿論特質がある眞に現代的大軍港として艦隊の策源地となつてゐるのはツーロン、ビゼルト、ブレストである。

五大軍港の特質及び現有海軍力　(1)ツーロンはビゼルトの補助を得て、平時修理の大中心をなし主力艦隊の本根據となつてゐる。(2)ブレストは官營造船事業の最大中心であつて主として新造に當り、一方大西洋方面海軍力の基本策源地となつてゐる。(3)セルブールは小規模の軍港

に止まり、造船上にも小單位にすぎない。(4)ロシュフォールは、古來歴史的殘體たるに止まるもの、その設備は陸上に於ける工廠其他についても見るべきものがない。

他に海軍根據地としての要港は、英佛海峽方面より數へてダンケルリ、カレー、ブーロニュ、ロリアン、オランがあり、このうちオランは東方のチュニジにあるビゼルトと對應して北阿沿岸に於ける貴重な根據地となつてゐるのだ。

尙現在フランスの海軍力は、一等戰艦六隻、二等戰艦三隻、裝甲巡洋艦一隻、巡洋艦一四隻、航空母艦一隻、通報艦七九隻、驅逐艦七六隻、潛水艦九九隻となつてゐる。

因に軍縮問題に就ては、既に本篇外交の項に述べたから、この場合割愛することにした。

【文化篇】

科學

現實的・實用的なフランスの科學　フランスの科學の特質は、種々な方面から擧げられるが、

先づ第一に誰もが感ずることは、現實的なことである。フランスの科學は徹底的の基礎を持つてゐる。それは單なる概念的の遊戯ではない。實驗室の匂ひ、砲丸の轟き、市場の喧騒から生れたものである。クレーローが地球は極に於て扁平楕圓體であると發表するまでに、如何に多くの測量隊が派遣され、如何にたゆまざる測定がなされたか。デュルケイム派の經濟學者が各特殊地方の特殊制度に關し、如何に綿密な調査を發表しつゝあるかなどを例にとれば直ちに判明する。

第二にフランスの科學は實用的である。彼等にとつて、科學は決して孤立した神殿ではない。諸科學は一つの家族をつくり、その一員の成功は直ちに全家族の成功となる。從つて一科學に於ける發見は直ちに他の科學に應用され、遂に科學の關與した生活の全般に響き渡るのだ。例へばベルグソンの一直觀哲學は直ちにソレルのサンヂカリズムに入り、遂にC・G・Tの大運動を引起した。キュリー夫妻の見付けたラヂウムは、早くも大研究所を作り上げ（一九一九年）て物療所に應用されてゐる。彼等にとつて實用は本能であるのだ。

明瞭で正確　第三にフランス科學は明瞭である。明瞭と判然とは、デカールト以來科學思素の標準であつた。明瞭は直觀によつて與へられる。從つてフランス科學は直觀的である。第四にフ

ランス科學は正確である。その他藝術的なこともフランス科學の特質としなければならぬ。

いま、こゝで現在フランス科學者の事績を一々述べることは紙面の關係上許されない。簡單にその名を擧げる程度に止めよう。

アンリ・ポアンカレー　フランスの誇りたるのみならず世界の誇りである。ナシシーに生れ、初めは技術官であつたが、後ソルボンヌの天體力學教授となつた。彼の仕事は單に數學のみならず、物理學、天文學、哲學に及んでゐる。

天文學　フランスの天文學はアカデミー・デシアンスと共に創立されたパリ天文臺に始まる。アツペ・ピカール、カシニ等の偉才の事業は、後にクレロー、ダランベール、ラグランジュ、ラプラースによつて一層進展し、ル・ヴエリエによる海王星の發見によつて一大躍進を遂げた。現代に於ける最も重要な天文學書を求めれば、それはポアンカレーの「天體力學新法」「天體力學講義」「宇宙創造說に關する講義」である。

パリ天文臺に續いて建設された地方天文臺は、マルセーユ、アルジュ、ブザンソン、ボルドーリヨン、ムードン、ニース、アバディカ等であり、これ等の天文臺の功績も沒することは出來な

い。また光學と天文學との密接な關係の研究は、フランスの一特色であるが、フイゾーがスペクトル線移動に關する研究を公にして以來、ウオルフ及ライエによる星雲と太陽との中間狀態にある星のスペクトル研究は特に有名である。

多士濟々の物理學　物理學の領域に入ると、フランスは多くの名士と篤學者を有してゐる。例へばデカルト、パスカル、マリオツト、ラグランジュ、リーロン、ラプラス、フーリエ、カルノー、フレネル、アンペール、アントアヌ・セザアル・ペツクル等々枚擧に遑がない。

その他ラヂウム發見のキユリー夫人の功績、新波動論の先驅者ブロイ、細菌學の祖パストウールの偉大なる努力等々何れも、フランス科學の榮譽に光を添へるものである。

大西洋上の浮島設計　然し前記の科學者の事業の性質は、讀者にとつて興味を惹かないかも知れない。こゝにフランスの機械科學の發達が、如何に驚異的な方面に着目してゐるかの一例を述べて讀者の恣なる空想に委せよう。それは澎大なる大西洋上の浮島計畫である。この考案はフランス國立美術院建築學者ドフランスにより、大西洋の眞只中に、常に孤立して存在する浮島を實現せんとするのである。即ち大西洋を横斷する水上機の食糧その他の材料の補給、または機械

の修繕、及飛行家旅行者に休息慰安を與へるための浮游建築物であるのだ。從つてその外形は船體のそれに酷似し、同時に大洋の怒濤や風壓に對して堅牢たるべき船體を備へてゐなければならぬ。內部には大食堂、音樂演奏場を備へた大サロン、圖書閲覽室、大ギャレリー、醫務局の外に海上氣象觀測所、無線電信局、船長事務室等、一方、大動力を有する大修繕工場、材料庫從業員の宿舍、食物燃料等の倉庫及びこの人造浮島の推進用機關室等が設置されるのだ。

尙これ以外には、浮島の中央に飛行機發着用の水盤が設けられ、水深は六メートル、一部は大洋と連絡し、水は堰を以て塞がれるやうに設備が施されてゐる。更に三ケの燈臺がこの水盤をめぐつて設けられてゐるが、これは大西洋航空中の飛行機が、ラヂオ角度計によつてこの目標に近付き得た時に、着陸に安全ならしめるための用意である。この巨大な浮島は、少くとも一五〇〇メートルの水深を有する大西洋の眞中に設計される關係上、どうしても錨を用ひて安定させることは不可能である。たゞ浪のまに〳〵に身を任せる外はないのだ。從つてディゼルエンヂンの推進力によつて（速力五ノット）自分の望むまゝの位置に調節し得る仕掛になつてゐる。

船體は鐵筋コンクリートとすれば建造費三億フラン、二四二萬噸、長さ四五〇メートル、幅員

二三〇メートルの巨體である。もしアメリカがこの種の建造を太平洋に做らつたならば、彼我の飛行機航空は易々たるものとなるであらう。

宗　教

フランス宗教と「ライク」の思想　宗教の問題はフランスに於て特種の形容をなしてゐる。無論教養の上から言ふならば、フランス人の大部分はカトリックである。プロテスタンは百萬人內外にすぎない。またユダヤ種は十三萬人位である。從つて宗教問題はフランス人の全體的特性に大なる交渉はない。然しこゝにフランス獨自の宗教問題があつて、數十年來政治思想の上に、現實政治の上に、大なる波紋を描いた。それはフランス人でなくては眞の意義が捕捉し難いほど特種な傾向を有するやうになつたのだ。

これは「ライク」または「ライシテ」などの語によつて表現されてゐる反宗教思想である。だが、決しに一般の反宗教運動と同一に視ることは出來ない。詳細にこれを論ずるには、正に別個の研究を必要とする程複雜した問題なのだ。玆には單にその本體だけの說明に止める。ライクと

言ふ言葉によつて直ちに聯想するのは、一九〇四、五年に亘つてコンブ内閣の下に具體化した政教分離法と法王廳使節廢止の事實である。つまり國家と教會の絶縁である。

この問題は第三共和國建設以來、實にフランス政爭の縮圖をなしてゐるものだ。ライクなる言葉の本來の意義から言へば、單に「宗門に屬さない」と言ふことであるが、現フランス人の頭に響くこの語の意義は自から別である。事實上のライクと言ふのは、カトリックの宗門にあつても、その教義を履行しないことを指す。法王レオン十三世は、その廻狀の中で言つてゐる。

「カトリック教會は、雜多の宗旨が眞正なる宗教と同等の地位に置かれることを認めることは出來ないが、さりとて政權の把持者が至善を獨し、或は至惡を避けるために、事實上雜多の宗旨を一國家の中に認めようとするものを拒むものではない」

この言葉を解釋するならば、總ての人間の權利と自由に何等衝突するところなく、當然信仰の多種を承認するわけである。果してこれが法王の眞意であらうか。否決してさうではない。これは一種の妥協にすぎないのである。事實上ライクは斯くの如く法王廳すらも承認するところだが信念の上のライクは果して何であらうか。法律を以て政教分離を公布し、或は法王廳の使節を廢

止することは政治上の形式にすぎない。事こゝに至る精神生活上に於けるライクの信念は何處にあるか。ビュイソンがその著「ライクの心」の中でかう言つてゐる。

「僧侶はよろしく彼等の教理や儀令、ありがたき神の御告げを後生大事に守るがよい。彼等に適はしい仕事だ。誰も文句のない彼等の畑だ。我々はそれに何の異存もない。然しそれだけならばよいが、苟くも個人、家庭、國家、廣く言へば人類社會の生活に於て、魂の奥底にある眞實のものを、彼等僧徒の手に委せて顧みないといふわけには行かない」

カトリックの「神」を否定する　かうしたライクの思想によれば、神と人道主義とは二にして一であるのだ。三十餘年の昔、オーラールが「我等は宗教を破壞せんと欲するものだ」と言つたのに對して、同じくビュイッソはこれを補つて言つた。

「法王の宗教は然り、カルヴインの宗教然り、ヴイクトル・クザンの宗教また然り、何となればそれ等は眞正の宗教ではない。眞の宗教は詩である。最も純なる、最も自由なる、最も捕はれないところの詩だ。……」

これは明らかなにカトリックの「神」の否定であり、確かに他のものを强要してゐるのである

例へばライクの學校に於て、生徒が自己の信仰に背いた如何なる思想にも注入されないとすれば
これは事實上のライク卽ち信仰の自由が認められる。
然し、もしライクの思想が、生徒の精神教育について、永遠の福祉を司る神の存在を離れて
單に道義的精神のみを以て足れりと敎ふるならば、そこにライクの横暴が生ずる。つまり敎會の
奉ずる神を否定しつゝ、ライク自らまた別の神を强要することになるのである。
これを政治上の爭ひとして見る時は、前記の如く政敎分離法の通過と、法王廳使節廢止によつ
て終結を告げた形であるが、今日のフランス政界では、ライクといふ言葉も、以上のやうな哲學
的論議を含蓄せず、保守主義に對する進歩主義の表徵以上の何ものでもない。
現在フランスの最も進歩的な思想を代表する少壯論客などに信仰のことを訊ねると「カトリツ
クの敎養だ」と言ふ返事をする人もあるが、これ等はカトリツク信者ではない。カトリツクの敎
理を實踐しないが、カトリツクの敎養の中に育つたと言ふ意味である。恰度、今日の我々日本人
は悉く佛敎信者でないにしても、多くは佛敎的敎養に育てられたと言ふのと同樣である。

カトリツク運動　かゝる政治上の經緯はあつたが、フランス國民の大部分は依然として習慣上

カトリツク敎徒である。ユダヤ敎や新敎の信者は、カトリツク敎徒に比べると極く少數で問題と
ならない。左派の政黨、政府以外のものは、裏面で宗敎に色目を使ふのは見易き道理である。數
年前第五次ボアンカレー內閣が「新設の司敎管區敎徒組合に對し、敎會財產を引渡す」ことを主
張して潰れかゝつたことがあつたが、これなどは色目を使ひ損ねて失敗したのであつた。尤もこ
の事件の裏には、フランス文化を海外に紹介するため、カトリツク宣敎團に養成所を認可すると
言ふ表面の理由であつたが、裏面にはフランスの帝國主義的躍進が潛んでゐたのである。
では、カトリツク敎が、どうしてフランス人の生活に根强い力を持つてゐるかと言へば、カト
リツク敎が、社會問題に關心を有してゐることが一つの原因にもなつてゐる。
フランスの社會問題に關心するカトリツク敎徒達は、歷史的に三つの段階を經て發展してゐる
のだ、それは(1)保守主義者、(2)社會カトリツク主義者、(3)カトリツク民主主義者等である
而して現在社會運動に關與してゐるのは社會カトリツク主義者である。勿論この運動は幾多の團
體に導かれてゐるので、簡單に述べることは出來ないが、諸團體の宣言を綜合すると、次の通り
である。

(1)現産業組織を認めるにしても、人間勞働の非人間的搾取を招來する點は改革の必要がある

(2)かゝる改革は、キリスト教の原則に調和せしめて達成せられ、キリスト教徒はこれに就て積極的行動を取らねばならぬ。

(3)革命的社會主義及經濟的自由主義に反對する。

(4)勞働者は必要な休息と閑散な時間を享受すべきである。その意味で日曜を安息日とし、妻子を工場に通はせてはならぬ。休息を樂しむための十分な賃銀制の確立、疾病、災害、失業養老の保證等を提唱する。

(5)かゝる生活改善を計るためには國及び國際的の社會立法を制定する。この社會立法の制定は、やがて現國家をも救濟することになる。

(6)産業を現代化したギルドの組織を導入せねばならぬ。これは勞働組合及び資本と勞働の合同協議に刺戟を與へ、勞資の協調的傾向を進める。かくて勞働權、勞働爭議、賃金の統制、勞働時間、社會保險、勞働狀態、勞働熟練性等に好影響を與へ、且つ製産を增加し得る。即ち國家社會主義も社會革命も要さずして勞働問題を解決し得ることになる。

要するに社會カトリック主義のプログラムは、自由と權力の合一を內容として、自由放任主義及び社會主義を排し、個人と國家の離反を防ぐべく、現代化せるギルドを想定して集團と個人の意志を二つながら調和に於て生かさうと努めてゐるのだ。

有力なる大衆行動派　社會カトリック主義の諸團體中、有力なのは「大衆行動派」である。これは修道僧のロカルノの思想に發してゐる。彼はドイツのカトリック組合で强い力を持つてゐる「人民同盟」をフランスにも組織したいと言ふ念願から、この「大衆行動」の運動を起したのである。而して「大衆行動」は勞働組合に這入り、實踐運動に活躍するに至つた。

「大衆行動派」の教義は「産業革命貧富の懸隔を大きくすると共に經濟組織を動的に擴大した。その結果政治的に、勞働階級は、それ〴〵の經濟的利害によつて動いてゐる。然しこれは當を得たものではない。第一に人は生存のために働かねばならぬ。第二に人は神の方向に生きねばならぬ。後者は前者よりも大なる價値を持つものである。勞働問題は經濟的並に道德的に考察さるべきものである」

以上の理論のもとに、勞働問題は道德的原則を適用してゐるのである。

藝術

フランス現代文藝の種類　大戰後のフランス文藝のうち、最も發展を遂げたのは、小說にあつては第一に心理解剖小說を擧げなければならぬ。それがフロイドの影響によると否とに拘らず、またその心理は必ずしも個人意識の解剖といふ意味でなく、外的條件からの決定に重きを置いた自然主義文藝に對する反動からして、意識內容の解放、或は意識の流れが內から外へ向つて擴がる姿、それを自在に而も必然的に突き止めて行く行き方である。從つて個人の意識は多數集合人の意識の中へ流合せずにはゐない。その流合の姿を次第に表現しようとする傾向がある。從つて題材としては決して個人の限定せられた生活表示などではなく、溢れ出る力をもつて外界へ、或は國外へ、更に全ヨーロッパへ擴がらうとする物を掴み取ることになるのである。

この派の作家にはデュアメル、デロドウ、ボウル・モウラン、モオリヤック、シュランベルジエ、マグス・ジヤコブ、ヴアレリー・ラルボオ、ジヤン・ポオラン、マルタン・デュ・ガアル等があつた。一方、所謂社會小說と呼ばれるものも相當の勢力を有してゐた。この派の題材は常に

的確なる觀察に皮肉を交へ、曝露と共に全體の動きを示さうとするものであつて、故人となつたポオル・アダンが最大の作家であつた。ピエル・アンプ、アンクー・セアール、ギユスタヴ・ジユフロク、ロスニー兄弟の作品の一部もこれに屬してゐる。

第三は、第一の種類を一層外的に具體的にしたもので、冒險的なエキゾティツクな種類のものである。クロオド・フアレル、ピエル・ブノク、最も潑溂たる想像力を持つたピエル・マタ・オラン等がある。

劇文學の方向を見ると、劇にあつてはシマネの發達が、その存在に對し形式上にも、發展上にも一種の鋭い影響を與へつゝあることは見逃すことは出來ない。劇の鑑賞が大衆的に興味あるものを求めるやうになり、古典傳統劇が次第に崩壞するのではなからうかと思はれる。こゝに心理派の動きが見られる。今、戰後に於ける劇作家を類別して見ると、エデユアル・デユジアルダンの心理解剖の外、社會的心理的の劇作家ジユル・ロマンの喜劇作家として、モリエルの面影を傳へてゐるジョルジユ・カルトリイヌが著名である。其他サシヤ・ギトリ、ガストン・アルテユイス、スイモン・ガンテイヨン、マルテイアル・ピエショヌオ、ポオル・ジユラルデイ等を無數に

擧げられる。

フランス演劇の國際的位置　元々世界の演劇國の雄は、ドイツ、ロシア、さうしてフランスと言ふことに衆目が一致してゐるが、そのうちフランスの演劇の特質は、他の二國が多くの類似點を共有するのに對し、かなり嶄然たるものを持つところにある。然しこの點は既に周知の事實である。こゝではフランスの演劇の本質上の檢討よりも、從來あまり紹介されなかつたフランス演劇の國際的位置と全局的に見た劇壇に觸れて見たい。

世界に冠たる戲曲數　先づ第一に注目すべきはフランスに於ける戲曲の生産力である。現在、どこの國へ行つても、フランス程多數な劇作家を擁し、多數の戲曲を産み出す國はない。第二位の戲曲國たるドイツに比較して、戲曲發表の數は約三倍に達してゐる。

更にその種類の豐富な點に於て、フランス戲曲は世界に冠たるものがある。流派の數も多いがそれよりも種別に於て、悲劇、喜劇、ドラマ、輕喜劇からオペラ、オペレット、ヴオードビルの臺本に至るまで、作家と作品の多樣にして充實したことを特色としてゐる。これを譬へると、フランスの戲曲界は、同時に劇壇全體が一個の大花籠であり、單に一二輪の妍を襟に挿しては盛觀

を偲ぶことは出來ない。

既に十八世紀の頃からフランスは、ドイツその他に對して、コルネイユ、ラシイヌ等の數多の戲曲を送つてゐるが、今日に於ても、やはりドイツを始め、イギリス、イタリーに輸出される現代戲曲の數は依然として多い。單に上演回數の多い作家と言へば、英のバアナアド・ショオやイタリーのルイジ・ピランデルロ等を考へねばならぬ。然しこれ等は一人一國を背負つて立ち、その後に續くものがない。然るに、フランスに場合は、クロオデル、ロマン、ブウルデ、トリスタン、ベルナアルその他國外上演の多い作家は十指を算ふることが出來るのだ。この現象は直にフランス戲曲の絶倫な優秀を物語るものとはならぬが、フランスが有能な作家の數と型を最も豐富に所有する現狀を裏書する。

巴里の劇場　フランスの劇壇とは、結局パリの劇壇の謂であつて、その點、ドイツがベルリンの外にミュンヘン、ハレスデンその他の都會に、優秀な劇團と運動を持つのと大なる相違がある。フランスも、リヨン、ボルドーは勿論、小都會にも必ず劇場を有してゐるが、單に建物が存するばかりで、多くは巡業の一座が出演し、座付俳優がゐても、これ等は論ずるに足らない。上演脚

本の演出法も、大部分巴里のフランス座、またはブウルヴアルの諸劇場の移入であつて、嘗て地方の獨自な演劇運動の起つた例を聞かない。

現在パリには約八十の劇場があるが、そのうち五個の大劇場が國庫の補助をうけ、國立の名を冠してゐる。歌劇ではオペラ座、オペラ・コミック座、演劇にフランス座、歌劇演劇兼用に民衆劇場がある。

オペラ座の壯觀　オペラ座は歐洲第一の輪奐の美を誇り、主として古典的なグランドオペラを演じてゐるが、この劇場の社會的役割は寧ろ上層ブルジョアの社交場たるにあつて殊に毎金曜日の夜の如きは、全巴里の社交界の縮圖を見ることが出來る。その後普通の歌劇如きは、オペラ・コミック座の安易の空氣のうちに、鑑賞を樂しむことになる。

「モリエールの家」フランス座　これに反し、フランン座は依然として「モリエールの家」であり、純然たる「演劇の殿堂」である。この劇場の歴史は遠く十七世紀に溯り、今ではフランス最古の劇場となつてゐる。勿論、火災その他のために數回改築したが、現在の建物や内部の裝飾とても、前世紀中葉に手を觸れたまゝになつてゐる。モリエール以來、この劇場に關係した大劇

作家の名が、楕圓形の上部觀覽席の軒に大きな金文字で列記してあるが、それはフランス演劇史の總索引とも見られるのだ。

現在のフランス座は、モリエール、ライヌの古典から、サルド、ユゴオの浪漫劇、ベック、キユレルの近代劇及び現代作家劇を、毎夜交互に、所謂上演目錄式に上演してゐるが、演出方針が全く保守的であり、その點で時々批難を蒙つたので、七八年前から新作家のために門戸を開き、ヴイルドラツク、マシヤール、ジムメル、コリトオの上演を見るに至つた。

然しこの劇場本來の任務は、やり官學的立場に存する筈であつて、古典劇の本格的演出を以て進むべきであらう。傳統的氣風を存するフランス人は、薄給と雖も俳優としてこの舞臺を踏むことを最上の光榮とし、平常はフランス座の陋習を攻擊しながらも、劇作家として自分の作品が上演される場合は、欣然として名譽を誇る風習が、今尚去らない。フランス座の權威が未だ地に墮ちないことは、劇壇進歩の障碍物ともなり、また反面には優秀な傳統演劇の堡壘ともなつてゐるのだ。

たゞ最近給料問題が上席俳優と不斷に悶着を起してゐるが、この劇場の破綻は、或はかういふ

方面から來るかも知れない。フランス座で名聲を博した場合には、民間の大劇場が數倍の高給で雇入れに來る。その意味からも一般俳優はフランス座を無視することは出來ない狀態に置かれてゐる。

巨大な國立民衆劇場　國立民衆劇場は、トルカデル大殿を利用して、一九二〇年創立されたものである。一體フランスに於ける民衆劇場運動は、世界で最も歴史が古く、ロマン・ローランの「民衆演劇論」が出たのが一九〇〇年、「冬の曲馬團」に於けるジエミヱの民衆劇上演が一九一〇年、その翌年彼は千八百人を容れる大天幕劇場を考案して地方を巡業した。然し上演脚本は、ギリシヤ悲劇とか、モリエール喜劇とか、せい〳〵ロマン・ローランの「ダントン」程度のもので假にその頃プロレタリア戯曲が存在してゐても、これは民衆の娯樂にならぬと言ふ理由で上演を拒絶したに相違ない。現在の國立民衆劇場に於ても、その任務は「出來るだけ多數のものに出來るだけ安く芝居を見せる」ことを主眼としてゐる。この劇場には專屬俳優といつたものはなく、他の國立劇場の俳優等が、そこの上演目錄を交互に演技するだけである。觀客の收容力は驚くべき程で、フランス座はもとより、伯林の民衆舞臺座、ラインハルトの興した大劇場座よりも遙か

に上にあるのだ。

獵奇を賣るグラン・ギニユール座　この劇場の存在は巴里劇壇の一奇觀で、巴里人を引きつけたのは大戰前のことである。現在ではエツフエル塔と等しく外國人や地方人が、名所見物的に觀覽する場所となつてゐる。敎會を改築した頗る奇異な建物で、古い暗い舞臺の上では、十年一日の如く斷末魔の唸り聲と血の飛沫の芝居を演じてゐる。狂言の建て方は、さういふ殘酷劇二三篇と、その間に短い猥褻な喜劇を狹むのが習慣である。

設備を誇るピギヤール座　ピギヤール座はロスチアイルド家の資本を背景とし、工費一千萬フランの呼聲で建築された、世界で最も近代的な劇場とされてゐる。ドイツの舞臺の機械的設備の粹を集め、フランスの劇場裝飾の華を飾つたのが誇りである。舞臺轉換、舞臺照明等の科學的設備は、現在のフランスとしては、これ以上のものは望まれない。だが滑稽なことは、これだけの機械完備が十分に威力を示すに足る脚本が容易に見當らないことである。劇場側ではその點に就て不滿だつたので、先年ジユウル・ロマンの映畫臺本「ドノゴ・トンカ」を作者に戯曲として書替へさせ、二十四の場面を、驚くべき短時間に轉換して、觀客をアツと言はせた。

行詰れるミュジック・ホール　ミュジック・ホール（レヴュウ専門の劇場）は過去に於ても、現在に於ても巴里名物であり、由緒あるムーラン・ルージュは滅びたが、カジノ・ド・パリ、フオリイ・ベジエエル、パラアス……その他があり相當繁昌を示してゐる。然し現在は果してミュジック・ホールの黄金時代であるかどうか。

そも〳〵巴里のレヴュウが今日の如き形態を示し始めたのは、戰後であつて、それ以前は歌詞もしくは臺詞の多い、ユーモアと諷刺のある一種の爽快な類似演劇であつた。それが、大劇場的な資本を抱き、機械的設備を完全にし、背景衣裳に贅を盡し、大掛りな興行を始めた時には、舞臺の内容も、主として視覺に訴へる、官能的なスペクタクルとなり、同時に從來のレヴュウの趣味能力を完全に抹殺してしまつた。レヴュウにエロチシズムが横行したのはこの時代で、舞臺は裸體の陳列場と化した。當然こゝに大道具大掛りな舞臺面が喜ばれ、魔術的なトリックが相次で發明された。然しこの傾向は餘りに平面的なのでやがて飽きられ、動的なアクロバチック舞踏を主とする時代が來た。蠻人舞踊の原始的魅力も喜ばれた。ジョセフイン・ベーカーの出現はたしかに新しい刺戟であつたが、この邊で經營者の策も盡き、行詰りの狀態を呈した。

この危機はレヴュウがその本來の機能を捨てスペクタクル化した時に孕まれ、この轉回によつてミュジック・ホールは嘗てない殷盛を呈したが、同時に行詰りの袋小路に突進すべく、自ら馬に鞭打つた結果となつたのだ。而も、ミュジック・ホールは更に外部から强敵を受けなければならなかつた。それは無論トーキーの隆盛によつてゞある。かくてパリーのミュジック・ホールは次第に映畫館に轉向し、續いて領域を侵蝕されるに立至つたのだ。

フランスの映畫人　ルイ・デルユックは文學畑を出た人であるが、同じ經歷を有するガンスやレルゼエほど文學臭はなく、他の映畫人が末梢的な模索に日を送つてゐる時に、人間的眞實に突進したのは、稀なる彼の感受性と頭腦の働きによるものであつた。企らまない技巧と單純な筋をもつて、愛すべき作品を現はした。彼の二つの傑作の一つである「熱」は新運動の最も代表的なものであつたのだ。やゝテンポの遲い缺點もあるが、フランス映畫の普遍的な特性となつてゐる鋭い聰明と淡い哀愁とは、彼の作品に早くから發見され、その點からも、先覺者としての彼の位置は永く映畫史に殘るであらう。

アベル・ガンスの作品は過去の悲壯觀と、混亂した情緒が附きものとなつてゐる。然し時とす

ると溢れくる大きな力と大規模な構成力は何としても彼の特色である。彼は詩を書き、劇を物し俳優の經驗もある。大戰前彼は既に平俗な作品を發表してゐたが、彼が映畫人として認められたのは、戰爭映畫「死の地帶」や「私は咎める」からであり、有名な「ラ・ルウ」を現はすに及んで、一躍彼の名は高まつたのだ。「ナポレオン」を出した當時が恐らく彼の絶頂ではなかつたらうか？　彼の特徴は創案的なテクニック、迅速なモンタージュ、前半に於ける機械的構成と後半に於けるヤマにあるが、これは誰も眞似ることの出來ない大きな特徴となつてゐる。だが彼にも缺陷はある。人間の心理的事實を度外すること、演劇の因習から脱却しきれない或るものが、彼の進歩を阻んだ。彼はさうした意味などから、他の映畫人と分れて孤立の道を歩いた。

ガンスと反對に、氣取屋で癡頽的で審美的趣味に凝りすぎてゐるのは、マルセル・レルビエである。彼は文士出身でシナリオ・ライターとして映畫界へ這入つたが、後に「沖の男」と「エルドラドオ」を監督した。この二作は注目に價するが、殊にバルザックの「沖の男」の中の堅實な力强い手法は賞讃される價値がある。「エルドラドオ」は劇壇の名花エヴ・フランシスの演技が歴史的に記憶されてゐる。その他「ドス・ジュアンとフアウスト」や「生けるパスカル」を作つた

が、やゝ凝りすぎて技巧倒れの感がないでもない。

「アーシヤル家の沒落」を現はしたジヤン・エプスタンもやはり文學畑の人間で、レルビエと同じく末梢的な手法に拘泥する傾向がないではなかつたが、然し彼はその不評を回復するために、全然對蹠的な製作を始めて驚くべき成功を收めた。それが半寫實物で、記念すべき「フイニ・テレユ」である。ブルターニュの荒凉たる漁村生活を描いたこの映畫は、極めて精功で緻密で且つ堅實な手法と、筋と稱することの出來ない筋を、一人の俳優を用ひずして描き出したパテチツクな効果を、眞實で且つ美しいカメラを以てする無聲映畫であつたが、その頃の「巴里の屋根の下」と並んで、過去の二大收獲たるを失はない。

その他、ジヤツク・フェデエ、ルネ・クレエル、ジョルジュ・マルレ等とフランスの映畫は獨特の情緒と構成とを以て、現在世界では最高の位置を占めてゐるのである。

思　想

フランスに於ける人民戰線

現在のフランスの思想界を語るには人民戰線を度外視することは

出來ない。人民戰線こそは、現在のフランス思想界を掌握する大なる潮流である。然らば一體人民戰線とは何かと言へば、反ファッショ、反帝國主義、反戰主義を共同目標とするブロックを指すものであり、これに反し、これと抗爭するものを國民戰線と稱してゐるのである。

一九三五年、コミンテルン大會に於て反ファッショ統一戰線、いはゆる人民戰線をその根本方針として採用されて以來、この名が普遍化したゝめ、人民戰線の起源を茲に求めるものがあるが事實はそれ以前であつて、フランスに於ける勞働階級の統一戰線から發展したものである。

フランスの社會黨は、ヅーメルグ內閣以來、カルテルの破れたのは、急進社會黨の責任であるとし、同內閣は戰爭休止の陰にかくれた準ファッシスト的內閣であると斷定して、絕えず反對態度を取つてゐた。而して同內閣政立以來、機會ある度每に秩序を破壞し、混亂に乘じて輿論の趨向を自黨に有利に導かうとして共產黨「フロンコモン」を結成し、反ファシスト示威運動を行ふに至つたのである。

一方、共產黨側としても、反ファシスト運動のために、社會黨と提携を希望する意嚮があつたが、社會黨本部では直ちにこれに應ずることを欲せず、また社會黨提示の條件にも異議があつた

が、一九三四年七月フランス共產黨中央執行委員と社會黨常任委員會との間に、ファシズム、戰爭、緊急命令反對共同運動に關する協定が成立するに至つたのである。

共產黨、社會黨握手の內容　このフランス共產黨と社會黨との提携協定、統一戰線の條件內容は、大體左のやうなものである。

（1）社會黨及び共產黨は協同動作の協定を結び、左の目的のため全國に於て、あらゆる手段（組織、通信、運動者、被選擧人）を用ひ戰鬪を組織し、これが實行をはかること。

（A）、ファシスト團體に對し、勞働者大衆を動員し、その勢力削減及び解散を策すること。

（B）、民主的自由を擁護し、比例代表制及び議會解散を策すること。

（C）、戰爭準備に反對すること。

（D）、緊急命令に反對すること。

（E）、獨、墺に於けるファシスト反對及びテールマン・カール・アイツその他監禁及び反ファッショ主義の解放を目的として勤勞民衆を動員すること。

（2）この運動は可及的多數の地方及び工場に於て共同命令によつてなさるべく、市街に於け

る示威運動を行ひ、勞働者の會合、示威運動、團體組織、及び鬪士の自衛手段を構ずることによつて實現を計り、しかも心理的、物質的、精神的條件を考慮に入れ最大の强さと大きさを與へんとするものである。緊急命令反對運動も同樣の手段によつて（會合、示威運動）その擴大を計るため適當な煽動をなし、組織を計ることにしてゐる。この共同動作に際し一黨がファシスト黨員である反對者と衝突した場合は、他黨員はこれに援助を與ふべきである。

（3）協同動作中、兩黨員はその行爲を忠實に守る團體、または鬪士に對し、非儀、侮辱を控ふること、然し各黨はその協同動作に於ては黨員の召集、または宣傳等のために完全にその自由を保留し、また協同動作による示威運動はその目的のためにのみ行はるべきであるが、兩黨の主義政策に關し矛盾した議論を生ずべきでない。

（4）各黨は共同動作に關し、各自の團體內に起るべき過失及び違反を防ぐべく努力することを誓ふ。協同示威運動の一般的計畫及び性質を定むるため、兩黨より各七名の代表者を選出し、共同委員會を組織し、相互の紛爭解決を計ること。委員會の決議は共同作成の覺書に記載される事とし、また勞働者に通告されるものとする。

この協定を見ると、共產黨と社會黨が、反ファッショ及び反戰爭の共同目的のために攻守同盟を結んだものと言へる。然しこの統一戰線協定は、左右兩黨の組織的統一を豫想させるものではなく、あくまでも行動の統一、卽ち鬪爭の目的、鬪爭方法の統一に止まるものである。

言ひ換へれば、兩黨は組織の上に合同するものではなく、共產黨はあくまでも共產黨として、コミンテルンの基本、綱領を墨守し、社會黨は徹頭徹尾社會黨としてとゞまり、プロレタリア獨裁反對、社會民主主義確立、自由防衛の重要綱領を貫徹しようとすることには少しの變りもない

フランスに於ける統一戰線の協定成立は、スペイン、ギリシヤ等歐洲諸國の無產黨及ひ勞働組合に大なる刺戟を與へたが、一九三五年八月開催されたコミンテルン大會の決議はこれに拍車をかけ、同大會後急速に擴大した。

偶ま一九三五年九月より十月にかけスペインに於て勞働爭議が發生し、遂に革命にまで進展て、スチュリア、バルセロナを始め各地に暴動が擴大、軍隊の出動を見るに至つた。コミンテルンは時を移さず第三インターナショナルに對し、スペイン勞働大衆に對する卽時共同援助組織に關し、交涉を開始したいと申入れ、第二インターはこれに同意を與へたのである。

かくて同十月ブラッセルに於て兩者の會合が行はれた。出席者はコミンテルン側、カシヤヤ、（フラスン上院議員、ユマニテ紙主幹、コミンテルンフランス代表）及びドレーズ（同下院議員フラスン共産黨書記長、コミンテルン。フランス代表）で、第二インター側、ヴアンデルヴエルデ（第二インター議長、元ベルギー外相）及びフリドリツヒ・アドラー（オーストリア社會民主黨領袖、第二インター書記局員）であつた。コミンテルンと第二インターとの人的交渉は既にこの時よりも十五六年前行はれてゐたが、有力代表者の會合は、この時が初めてであつたのだ。

人民戰線の結束　一九三六年四五月の交に行はれたフランス下院總選擧に於て、人民戰線は壓倒的勝利を見たばかりでなく、共産黨それ自身も一躍七十名の議員を出し、最近のフランス政治上に嘗て見たい現象を呈した。

かくて同年六月初頭に組織された人民戰線新内閣が、スペインの人民戰線の苦境を反映して、屢々危險に陷つた後も、共産黨の戰術よろしきを得て、尙人民戰線の結果は破綻を免れたのである。

フランスの人民戰線政府は、これも總選擧の大番狂はせの一つを代表する新らしい第一黨である社會黨と第二黨に辷つた急進黨との聯合を主とし、共産黨はこれに加はらずに閣外にあつて與黨となつた。かくして一方に於て人民戰線を一つの手段、道程として自己の理想への到達に向つて最大限に利用すべく政府を牽制すると共に、一方に於てファッシスト勢力の擡頭に對し巧妙に機會を封じ去るやうに、自制的に人民戰線の紐帶をひきしめてゐるのである。このフランス共産黨の手際は相當注目に價すべきものがあるのだ。

フランス共産黨の歷史　元來、フランスでは西歐諸國の特殊な政治的自由原則の名稱をとゞめ公然コミンテルンのフランス支部の看板を揭げる共産黨が、合法的に存在を許されてゐるのである。

いまその歷史を探ねて見ると、一九一九年モスクワで、コミンテルン第一回大會が行はれた翌年に、有名なツールの社會黨大會に於て分裂した少數派が、新たに共産黨の名乘りを上げ、第二インター支部の母黨に反旗を翻へし、コミンテルンのフランス支部として、この國の無產政黨の最左翼を代表し、今日に至つたのだ。

かくて一九二八年の第六回コミンテルン大會には、フランス支部に屬する黨員の數は三萬二千

と報告され、また一九二四年の總選擧に於けるカルテル・デ・ゴーシュの勝利に相伴して、今まで十餘名にすぎなかつた共產黨所屬議員は二十六名となり、更に一九二六年の補缺選擧に際して二名を加へ、二十八名の議員を擁して、少黨分立のフランス政界に於ける一勢力を張つたことがあつた。

然しこの頃がフランス共產黨の合法的發展の過去に於ける絕頂を示したものであつて、その後ポアンカレー・レヂームの右翼反動時代に入り、有名なタルヂューの大彈壓を蒙つたりして、表面的には甚だ不振の狀態を續けてゐたのである。一九二八年末の右翼勝利の總選擧にはもとより一九三二年の左翼復興の總選擧に於ても、いづれも十名內外の議席を占めるにすぎなかつたのである。

だが、共產黨の建前からいつて、議會方面の活動は、單なる機械的鬪爭方便の一種として利用されてゐるものに止まるから、かゝる表面的勢力の衰退を見て、直ちにフランス共產黨の全面的頹勢と斷定することは早計である。一九三〇年二月のコミンテルン執行委員會會議に黨費納入者として報告されたフランス共產黨員の數は、なほ三萬八千餘を算した。

爾來、所謂世界的不況の餘波が漸くフランスにも浸潤するに至り、失業問題發生の徵候なども次第に現はれるに及んで、共產黨はその本領を發揮するに至つたのは當然の成行である。フランス共產黨の機關紙「リュマンテ」の賣行が激增するといふやうな現象も、こゝに現はれて來た。

かうして一九三四年未曾有の財政難に直面したフランスは、二月になつてパリの大暴動事件を誘發した。この形勢に乘じて反ファッショ人民戰線の結成を强固ならしめた共產黨の機敏な活動は、舞臺の裏面に隱れてゐたが、見逃すことの出來ないものである。

然るにパリの大暴動以來、左右の大對立に一應の政治的決算を與へたところの、一九三六年の總選擧の結果は、人民戰線の大勝となつたのみか、共產黨の議席數を一躍七十に躍進させた。

かうして今やフランスの共產黨の勢力は、議會方面に於ても、社會黨、急進黨に次ぐ大政黨として、人民戰線政權の死命を制し得べき地位を占めるのみならず、既に四十萬に近付きつゝある大集團となり、その鬪爭力は恐るべきものがあるのだ。

起ち上るドイツ

【國勢篇】

鐵と血の建國史

ゲルマン蕃族　いつたいドイツ人並にその國の存在を、的確に規制することは困難である。主として地理的關係から、從つて歴史的に非常な複雜な過程を有するからである。で、一般史家としては、彼のフランスとドイツとを一翼の下に統率し、近隣に堂々の威容を張つたフランク王國後のシャーレマン大帝が歿（八一四年）して四分五裂となり、結果としてライン以東即ち東フランスといふ稱呼の下に、シャーレマンの孫ルウイスの手に落ちた頃を以て、ドイツ建國の基礎としてゐる。現在のドイツ共和國の父母未生以前のと親も云ふべきものが出來上がつた譯である。

だがその人種、國土は原始時代から存在したものである。原始時代スカンヂナヴィア半島に住んでゐた一種族が、古代時代に至つてライン河の東から、ドナウ河北方一帶の地にまで南進して來た。その體軀偉大、勇武素朴の風貌は、他民族をして畏怖せしめ、且つ未開蠻族の指稱をさへ與へられた。所謂ケルト語のタウタウ（野蠻の意）といふのが變化してチユウトン民族と云ひ、ガリヤ語ではゲルマン（軍人の意）と呼んだが、後ローマ人によつて人種稱に使はれたのである。だから紀元前後には既に、ドイツにはチユートン、ケルト、スラヴと相並んで居住してゐたのである。

現在ドイツ人は特有の人種的優越感から、我々には純粹不雜のゲルマン人種であると誇稱してゐるが、併し歴史的諸關係から觀るに、それは何等學問的に立證さるゝものではなく、現在ドイツ人の血にはケルトの外にスラヴ、フイン族等の血が混つてゐるのである。その種々に異つた人種、種々に相違した邦國が、樣々な變化と順序を經て、始めてドイツといふ單一國家の體裁をなすに至つたのは、實はかの世界大戰に先だつ約五十年間であつたのである。

ラインの制覇　さてシャーレマンのルウイスが孫東フランスを統治して、ドイツ建國の礎石を

据えたのであるが、八七六年彼が死するやシャーレマンの偉業は全く地に墜つるに至つた。在來雌伏してゐたマギャー族は南部より、デンマーク族は北方より、この國を衝くに及んで、段々領土は奪はれた。そこで聯邦の諸侯は相謀つて選擧王制を定め、アルナルフなる或る庶子を立てゝ王とした。元來ドイツ人の國王に對する見解は、國王たる者は彼等の安全を保障するところのものでなければならず、從つて彼等の安全を保障し得ない者はこれを廢し、代りに保障し得る者を選出するといふ思想なのである。そこでアルナルフが死するや、今度は當時聲望の高かつたフランコをヤ侯コンラド一世を選んで王と仰ぎ、又コンラドが歿するやザクセンのハインリッヒを迎へて國王となした、

ハインリッヒは剛毅英邁な性格を有し、よく諸侯を統率して國内を治め、屢々マージャール人やスラヴ族を驅逐して國家の基礎を固め、又王權繼承を定めて以てサクソニヤ王朝の礎を基いたのである。九二六年、彼の死によつてその子オットーが王位を繼承した。彼は父王の志を承けドイツ中興の祖と稱せらるゝ大帝だつた。王權を發揮し、内に諸侯を壓へて、南方マギャー族を征服し、北方デンマーク人に對する守りを固うし、シャーレマン帝時代の領域を悉くその手に

回復した。また彼は二度までも西フランク國（フランス）を攻擊し、次いでイタリーにまで手をのばして、遂にローマ心醉者となり、ローマ法王から神聖ローマ皇帝の冠を捧げられたが、しかしこのことは、故國ドイツの把握力を弱らしむることゝなり、その結果ドイツ統一の機を遲らしめたものと云へるであらう。

ホーヘンツオルレルン家の崛起　神聖ローマ帝國は、舊ローマ帝國を相續して、キリスト教を保護し弘通させるものといふ意味のものである。だからローマ法王廳の立場から見れば、祭政一致狀態を未だ脫しない當時に於ては、自分の方から國王を任命するやうな遣り方は、結局法王廳の權威を高からしむることゝなつて、自家勢力の擴大を意味する譯である。即ちドイツ及びイタリーを併せて神聖ローマ帝國が、西歐に出現したが、ゲルマンの割據精神が濃厚で、その統一がまだ充分でないのに、歷代の皇帝が傳統的世界統一思想を懷いてゐて、力をイタリー經營に專念しつゝある間に、ローマ法王の好餌となり、次第に王權を壓縮されて、つひに法王權の下に隨伴するの形を呈するに至つてしまつた。かのグレゴリー七世對ヘンリー四世の悲劇など、如何にも法王權の亂舞を物語るものである。かくて一二七三年には、スイスのアイル河畔の城主ハップス

ブルグ家のルドルフが、法王の手によつてドイツ國王子に選ばるゝに至つた。この王はボヘミヤ王領のオーストリヤを奪ひ、兼ねてオーストリヤ國王となり、神聖ローマ帝國の國王ともなつて法王廳と特種の關係に立ち、玆にハツプスブルグ家隆盛の祖となつたのである。

かくて中世紀におけるドイツの歴史は、法皇對國王の爭ひ、ルーテルの宗教改革、文藝復興、三十年戰役等々を經て、ローマ法王廳の威力漸く弛み、爲に國に中心を失ひ、再び諸國分散的割據主義の王侯時代が現出し、要するにドイツの歴史は封建的王侯制度の割據史に外ならぬといふやうな狀態を呈するに至つた。戰爭は寧日なく、民は流浪し、都市諸村落は荒廢し、ドイツの人口は爲めに其の半ばをこの破壞作用の犧牲として捧げられた。しかし自然はよく歴史を轉換するフランス、イギリス、ロシヤの三國が、ドイツの周圍に强大となりつゝある時、このドイツの一部にも新進氣鋭の役者が新たに登場することゝなつて、ドイツの危急存亡は脱し得られた。ブランデンブルグに崛起したホーヘンツオルレルン家、これを率ゐるものはフリードリツヒ大王であつた。

獨墺爭覇戰　當時フランスはルイ十四世の時代にあつて、虎視眈々、間隙あらばドイツの混亂

に乘じて諸王を買收し、以て領土の擴大蠶食慾を逞しうせんとしてゐた。そして既にアルサス・ローレンの如きはその手中に歸するところであつた。またドイツ帝國聯邦のオーストリアが問題であつた。それが俄然王位繼承問題を契機として戰爭に訴へなければならなくなつた。かくてフリードリツヒがボムメラニアを併せ、シレシアに伸び、ドイツの諸侯が、事實上プロイセンを中心とするものと、オーストリアを中心とするものとの二個の陣營に分れる程、形勢がプロイセンに有利に展開した後と雖も、尙オーストリアの鼻柱を挫くまでには、可なりの時間と犧牲とを必要としたのである。十八世紀は、新興ホーヘンツオルレルン家の試練時代であつた。

兎角するうちに、一七八九年にはフランス革命が勃發した。この革命の影響は、全歐洲を震撼するに充分だつた。思想的に、政治的に、社會的に、總て舊套なるものは廢棄せられて新しきものが之に代り、自由主義、民族主義の思潮は澎湃として歐洲の天地を流れた。プロイセンとオーストリアは相互の爭覇戰を收めて、新たに共同の敵たるフランスに當ること～なり、フランシス二世が退位して神聖ローマ帝國が地球の表面から解消し、反動ナポレオンが彗星のやうに出現してイエナにプロイセンを擊破するやら、ライン聯邦が造られるやら、或は又ドイツに於ける三百

の割據諸侯が、消ゆべきは消え失せて僅に三十九王國の聯邦となるやら、正に革命時代に相應する騒然たる世相を展開したのであつた。かくてこの狀態は、ナポレオンがかのウオータールの一戰に敗るゝまで續いたのである。

ビスマルクの精神　プロイセン王にウイリアム一世が王位に卽き、ビスマルクが宰相の地位に坐るや、ドイツ統一事業は果然進展するに至つた。卽ちビスマルクの精神は、「ドイツの統一問題の如きは鐵と血とを以てせねば解決し得べきものではない」といふ斷乎たる信念に終始してゐたナポレオンが終焉を告げて、世界的革命動搖時代が終熄すると、ドイツ統一の癌であるところのプロイセン對オーストリアの爭覇が復活された。折しもデンマルク戰によつてドイツが獲得したシュレスウイツヒホルスタイン公國の處分問題がその動因となつた。ビスマルクは直ちに兵を動員した。この戰役の起るや、聯邦中にはプロイセンを憎んでオーストリヤに味方するものが多かつたが、プロイセンには鐵血宰相の下に更に兵を動かすこと神の如きモルトケ將軍が存在した。戰ふこと僅か七週日にして、オーストリアは忽ちサドワの一戰に於て慘敗を喫してしまつた。

この結果は、オーストリアはドイツ聯邦を脱し、今後ドイツ同盟には一切干渉せざること、シ

ユレスウイツヒホルスタインはプロイセンの領有たること、等々によつて解決された。卽ち獨墺爭覇戰の清算として出來上つたものは、プロイセン王を首長とするところの北ドイツ聯邦である當時オーストリアの味方をしたハノーフエル、ザクセン、バイエルン等々の邦國は、勿論プロイセンの脚下に聯結された。かくてドイツの覇權は確實にプロイセンに移り、プロイセンはラインエルベ兩河間の領土を聯結して、玆にドイツ統一事業もほゞ完成を見るに至つた譯である。

ドイツ帝國の完成　さて、斯くの如くして、內部的にほゞその統一を見たプロイセンは、更にその統一强化のためには外國との衝突が必要だつた。この樣なことは、東西の歷史に數次見らるゝところの現象である。

扨てビスマルクが狙つてゐたのはフランスである。宣戰の布告はナポレオン三世側によつて初めに發せられたにしても、戰爭不可避の情勢を植付けたのはドイツである。ドイツとしては豫想通りの事實を歡迎した譯である。戰ひは、人も知る如くフランスの慘敗に終つた。ビルマルクはフランスに對し、アルサス及びローレン二州をドイツへ割讓すること、償金五十億フランを提供すること、等々を以てヴエルサイユ條約を結んだ。なほフランスの被れる損害死者七十萬人、損

害八十億圓。然してプロイセンの獲たるところは、ビルマルクの方寸通りのドイツ聯邦の强化、更に聯邦といふ公稱を止揚してドイツ帝國を改稱、プロイセン王ウイルヘルム一世が、この最初のドイツ皇帝として君臨したことゝ等である。かくて多年の懸案であつたドイツ國内の統一事業も玆に全く完成し（一八七一年）今度は更に世界一の爭覇戰に入るべく、異常な努力を以て國力の充實に驀進したのであつた。

帝國の瓦解と共和制　ウイルヘルム一世が、ドイツ帝國皇帝として卽位してから、その孫ウイルヘルム二世が退位するまでの約半世紀間は、或る意味に於ける世界大戰準備時代とも言ひ得るのである。この期間ドイツ帝國は、産業上に、文化的に、軍事上に、其の他百般の施設に於て、優に世界の一等國たるの地位にまで伸展した。そこで次は世界一たるの一等國たることに目標が置き換えられる。先づ相手はイギリスだ。イギリスは海軍國である。海軍國に抗するものに同じく海軍國でなければならぬ。ウイルヘルム一世のドイツ、ウイルヘルム二世のドイツは、極めて自然に斯く考へたのである。そこでドイツの海軍擴張熱は急速なテンポで進行しだした。十九世紀末葉に、十八隻の戰艦と、海軍防禦用の八隻と鋼鐵艦と、四十二隻の巡洋艦とが苦もなく出來

上つたのは、實に意識的計畫的目的に對する傍若無人的實踐である。ウイルヘルム二世が、ハムブルグに於て、「我等は切實に强力なる海軍の必要を感じつゝある」と傲然として述べたことは、正にイギリスに對する挑戰を意味したものであつた。しかも爾來海軍の擴張策は、愈々加速度的に進められて行つた。イギリスとしては、慄然として怖れざるを得ない譯である。

世界大戰が、サラエヴオ一發の銃聲によつて勃發したのだとしても、それが世界戰爭にまで進展したといふことは、畢竟ドイツに世界制覇の大野心が內藏されてゐたことゝ、イギリスにこの機會に怖るべき敵手を取つて押へんとする機會主義があつたからのことである。一切の其の他の宣戰理由は、皆この二つの原因のカモフラージュに過ぎない。

ドイツがこの二十世紀の大戰に勝つてゐたならば、彼國には未だ革命は來なかつたゞらう。といふ推定は宥されゐる。しかもドイツが帝制——帝王神權說を振廻す皇帝の下の——から比較的簡單圓滑に共和制度に移行したといふことも、敢て驚くべきことではない。史を按ずるものは、ドイツが大戰前四五十年間を除く此外に於て、未だ曾て一帝王の下に統一されたことがなく、通則として各地に割據する大小侯伯の聯邦制結合體だつたといふこと、並に前にも述べた樣に、そ

の國王は選擧によるといふ觀念、これらの理由は、ドイツ人が寧ろ民主的思想に於て相當進歩せるものであることを認め得らるゝものである。從つて、現在のドイツ共和制體が、變則なるものと觀るよりも、より正確なものと觀るべきが妥當であらう。

不死身のドイツ　一八七一年、普佛戰爭に勝利を得たヴィルヘルム一世が、態々被征服國たるフランスの首都に乗込んで、ドイツ皇帝たるの卽位式を擧げたる事實に對して、世界大戰の結末たる媾和會議は、是非ともヴエルサイユに開かれなければならぬと、フランスは强硬に主張したのである。フランスはフランスで、一八七一年の屈辱の清算であると、世界大戰を解釋したのだともあれ、大戰がドイツに課した直接の負擔としては、二百萬人の青年の死、四百萬人の負傷者による勞働力の激減、千三百億金マルクの戰時負債、それとヴエルサイユ條約による巨額の賠償金、ドイツ工業の重要なる中心地を失ひ、植民地及び外國の特種利權を失ひ、貿易、軍備、財政が制限せられ、商船、軍艦等々が沒收せられて、見るも慘たる有樣となつてしまつた。

ドイツはこれで復興が出來るか。いや、復興の不可能な程度に重壓を加へられたのだ。果然ドイツ崩壞の危機が忽ち迫つて來た。しかし聯合國にとつて、ドイツの全部的沒落を希望する譯に

ゆかない。蓋し帝國主義ドイツはつぶしても、資本主義ドイツは存續せしめねばならぬ。經濟的原則として、資本主義ドイツの破綻は軈て聯合國資本主義の共倒れになることである。そこで聯合國は、アメリカの智慧を藉りて、ドーズ案やヤング案で何とかして經濟的にだけはドイツを救つておくべく考へたのだ。

その結果、ドイツの經濟的沒落の危機は漸く立ち直つた。生產は再び興隆の過程を辿り、除々に、しかし急速に復興の曙光を見るに至つた。ドイツ國民は今、ヒットラー國粹首相の下に、孜々として國力の恢復に邁進してゐる。祖國ドイツの傳統精神を維持し、國民の向ふべきところを指針し、艱苦困難に耐へ一歩一歩破れたる衣を繕ひ、倒れたる家屋の礎石を起し、將に列强をへいげいして、何事か驚天動地の風雲を捲き起さずんばやまざるの慨を示してゐるのである。

政治

ビスマルクの彈壓　ドイツの政治的形體は、長い間の割據的諸侯と、それらから選出される國王との封建的專制政治であつた。それが近世においてドイツの統一がなり、フランス革命の影響

をうけ、資本主義的産業の勃興となり、庶民階級が急激に擡頭して來たこと等により、政治的樣相は必然に近代味を帶びるに至つた。

ドイツはマルクスや、エンゲルスやラサールの國である。例のドイツ式に、社會に存在するところの不合理、不平等に對して、徹底的思索を廻らさずにはゐない性格から、無論この國に社會主義が誕生すべきことは當然であらう。

最初はどこでも同じ樣に微々たる團體に過ぎなかつたが、前述のやうな情勢と、ドイツ帝國憲法が或る種の制限を附しながらも、原則として普通選擧を規定したことから、その勢力は巨人の歩みを以て躍進した。一八一七年には僅かに十二萬五千弱の有選擧權者を擁するに過ぎなかつた社會民主黨が、一八七四年には三十四萬となり、更に三年後には五十萬弱に達した。かくして其の勢力は加速度的に上昇し、世界大戰前の一九一二年に於ては四百二十五萬に上つて、斷然保守黨を壓迫したのである。

この社會民主黨の怖ろしき擡頭に對し、ビスマルクは斷然高壓手段を以てした。彼は、彼の有名なる社會黨壓迫法案の下に、八箇月間に二百二十箇の勞働團體集會を解散し、百二十七の定期

刊行物を發行禁止に、二百七十八の出版物を發賣禁止に、そして一箇月間に法廷に引かれた社會主義者の數は、過去五百年間に於ける國事犯の總數に匹敵するといふ峻烈振りであつた。だが、社會主義はビスマルクの彈壓にも拘はらず、愈々執拗に深刻にその鵬翼を伸ばしていつた。で結局彼は失敗して、一八八八年ウイルヘルム二世の卽位を機會に、間もなく大宰相の地位を罷めさせられたのである。

ウイルヘルム二世と社會主義　「社會民主黨は朕に任せて置け。朕は獨力で充分彼等を治め得る」と言つてビスマルクを斥けたウイルヘルム二世は、間もなく社會黨壓迫法を撤回し、ドイツ勞働者の大憲章と稱せらるゝ勅語を下した。曰く「勞働者の道德的要求を充たし、彼等の經濟的要求を安定し、法律の前に彼等の平等權を確立し、彼等の願望を自由に且つ平和に表現せしむ」と。だが、それは眞赤な嘘だつた。幾干もなく今度は、「社會民主黨はドイツ人と呼ばるゝ價値のない人々の團體である。彼等は祖國を有せず、又神聖なる秩序の敵である。宗敎のために、道德のために、然して秩序のために戰ひ、この壞亂の徒黨を斃すべし……」云々の暴言と共に「援亂防止法案」なるものが提出された。果然彼がビスマルク以上の彈壓主義者であつたことが曝露さ